

ニ依リ處分スヘキモノナルヤ
〔説明〕 本條ハ瀛車ノ往來ヲ妨害スル爲メ云々トアルヲ以テ觀レハ妨害ノ意思本條ノ
犯罪ヲ構成スルニ必要ノ原素ナリ然ルニ本問ノ如キハ其意思ヲ欠キタルモノナレハ刑
法中之ヲ罰スルノ明文ナケレハ無罪タルヘシ

第百六十六條 船舶ノ往來ヲ妨害スル爲メ燈台浮標其他航海ノ安寧
ヲ保護スル標識ヲ損壞シ又ハ詐偽ノ標識ヲ點示シタル者ハ亦前條
ニ同シ

第百六十七條 前數條ニ記載シタル罪其事務ニ關スル官吏及ヒ雇人
職工自ラ犯シタル時ハ各本刑ニ照シ一等ヲ加フ

第百六十八條 第百六十二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ殺傷シタル者ハ歐
打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第百六十九條 第百六十五條第百六十六條ノ罪ヲ犯シ因テ瀛車ヲ顛
覆シ又ハ船舶ヲ覆没シタル時ハ無期徒刑ニ處シ人ヲ死ニ致シタル
時ハ死刑ニ處ス

第百七十條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者
ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第七節 人ノ住所ヲ侵スル罪

第百七十一條 晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル
建造物ニ入りタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス
若シ左ニ記載シタル所爲アル時ハ一等ヲ加フ

- 一 門戶牆壁ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キテ入りタル時
- 二 兇器其他犯罪ノ用ニ供ス可キ物品ヲ携帯シテ入りタル時
- 三 暴行ヲ爲シテ入りタル時
- 四 二人以上ニテ入りタル時

第百七十二條 夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守シタル
建造物ニ入りタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス
若シ前條ニ記載シタル加重ス可キ所爲アル時ハ一等ヲ加フ
〔疑義〕 爰ニ甲アリ人皆劍客ナリト云フ然ルニ未ダ其技ヲ知ル者ヲシ或夜乙丙二人ニ

テ各鈍刀ヲ携ヘ甲家ノ門戸ヲ踰越シ直チニ其寢室ニ闖入ス甲之レヲ見テ憤然蹶起シ傍ヲニアリタル棍棒ヲ取リニ賊ト闘ヒ終ニ二人ヲ取押ヘ冠ニ處ノ黒頭巾ヲ除却スレハ圖ヲサリキ常ニ親シク往來スル處ノ乙丙ナリ又丁巡查アリ巡行中該家ノ門前ヲ過ク屋中異狀アルヲ知テ現場ニ臨ミ乙丙ヲ尋問スルニ乙丙ハ辨解シテ曰ク生等固ヨリ盜ヲナスノ意ニアラス甲ト交友タル年久シ人皆甲ノ武術ニ富ムヲ稱ス然レモ未タ其伎倆ノ如何ナルヲ知ル能ハス過日來種々ノ法方ヲ以テスルモ其技ヲ見ルニ足ラス是ニ於テ其策ニ窮シ此無謀ノ舉ヲナシタリ豈ニ他ナランヤ携フ所ノ刀ノ如キモノノ木片ノミト甲モ亦乙丙ノ氣質ヲ稱シ他心ナキヲ明カス此場合ニ於テ乙丙ノ處分ハ如何スヘキ歟

(說明) 凡ソ重罪輕罪ヲ罰スルニ當テハ意思ト所爲トヲ具備スルヲ要ス然レハ本件ノ如キ固ヨリ害ヲ加フルノ意思ナク全ク一時ノ戯レニ過キサルヲ以テ罪ノ問フヘキ限リニアラス

適例

○明治十九年十二月十日判決 高知縣平民澤長木榮太郎

(摘要) 人ノ邸宅内ニ侵入セシ後意思ヲ生シ家畜ヲ殺シタルキハ數罪俱發ナリトス
 原判文ヲ閱スルニ被告ノ所爲ハ加用交運ニ對シ遺恨ヲ懷キ暴威ヲ示シ爲ス所アラントシ所有ノ脇差ヲ携ヘ同人宅ヘ接スル境界ノ山林二尺斗リヲ押開キ夜間其邸内ニ忍入り出入口ノ戸ヲ引明ケントセシモ鎖鑰堅固ニシテ開ク能ハサルヨリ他ニ聊カ憤怒ヲ殺カ

ン爲メ其側ニ居合セタル同家ノ畜犬一疋ヲ所携ノ脇差ヲ以テ切殺シタリトハ原判官カ認ムル所ノ事實ナリトス右事實ニ依レハ被告ハ人ノ家畜ヲ殺シタル罪アルノミナラス夜間故ナク人家ヲ侵シタル罪モ亦免ルヘカラサルニ付刑法第四百二十三條ノ外第七十二條第七十一條ニ照シ數罪俱發ヲ以テ論スヘキモノナリ然ルニ原裁判茲ニ出テサルハ本院檢事附帶上告論旨ノ如ク擬律錯誤アル不法ノ裁判ト云フ可シ

○明治十九年十二月十四日判決 朽木縣平民鈴木茂平外四名

(摘要) 人ノ監禁セラレ居ルモノト信シ之ヲ搜索スルノ意ニテ夜間他ノ家ニ這入りワリトスルモ家宅侵入罪ヲ組成セス
 上告ノ理由トスル處要スルニ原會議局ハ被告人等カ家宅侵入罪ノ事實アルヲ認メナカラ法律ノ解釋ヲ誤リ罪ヲ犯スノ目的ニ出テタル所爲ニアラストシ免訴ノ判決ヲ下シタルハ擬律錯誤ナリト云フニアルモ原判決ヲ通誦熟閱スルニ刑法第七十二條ハ姦盜若クハ謀殺罪等ヲ犯サンカ爲メニ出テタルモノトスルモ未タ其實行ニ着手セサル前ナルヲ以テ其目的何レニアルヲ探知シ得サレハ是等危險ノ場合アル者ヲ罰スル法意ナリトノ解釋ハ未タ果シテ其當ヲ得タルモノト斷言シ能ハサルノ嫌ナキニアラスト雖モ原會議局カ認メタル本件ノ事實ハ被告等カ其親屬鈴木清吉方ニ雇ハレ居タル柏木久太郎カ清吉ノ財産ヲ一朝買受ケ清吉妻シナ全居姦通シ居リテ爾來清吉ノ所在知レサルヨリ清吉ハ久太郎ニ監禁セラレ居ル者ト信シ警察署ニ訴ヘタルモ證據ノ具備セサルトテ書面

ヲ下ケ戻サレシヨリ全夜各提灯ヲ携ヘ久太郎方ニ至リ茂平カ氏名ヲ通シタル二戸ヲ開カサルニ付織江ハ密柑ヲ買ヒニ來リシト申入レ久太郎カ戸ヲ開クヤ被告等其家ニ這入り清吉ノ所在ヲ索メ清吉妻ヨリ清吉ノ實印ヲ預リタルモノニテ其密柑ヲ買ヒニ來リタリト云フ如キハ畢竟被告等カ智慮ノ淺薄ナルヨリ空想ヲ懷キ輕忽ノ舉動タルハ免カレサルモ其素志清吉ヲ救護スルニ出テタルモノニテ初メ警察署ニ訴ヘ又久太郎方ニ至リ氏名ヲ通シ終リニ清吉妻ヨリ清吉ノ實印ヲ預リタル等ノ形跡ニ依レハ固ヨリ家宅侵入ノ事實ナリト認ムルヲ得サレハ原會議局カ家宅侵入罪ヲ構成セスト判決シタルハ敢テ不當ト云フヲ得ス依テ上告趣旨ハ相立タサルモノト判定ス

○明治廿二年四月廿二日判決 秋田縣平民狩野長吉

(摘要) 債主カ負債主方ヘ貸金催促ニ立越不在ノ應答アルニモ拘ハラス強テ家内ヘ侵入シタルハ家宅侵入罪ヲ以テ處斷ス可シ

抑モ刑法第七十二條ニ夜間故ナク云々トアルハ正當ノ理由ナク人ノ住居シタル邸宅内ニ侵入シ其安息權ヲ害シタル者ヲ制裁スル法條ニシテ而シテ而シテ今原判文ヲ閱スルニ被告長吉ハ明治廿二年二月廿日午後十時過キ云々石橋與助方ヘ貸金ノ催促ニ立越シ而シテ被告留之助ニ於テ數回其不在ナル旨ヲ告ケタルモ其言ヲ信セス強テ其入口ノ回戸ヲ倒シ其宅内ニ侵入シ云々トアリテ被告ハ不在ノ應答アルニモ拘ハラス相當ノ手續ヲ爲サス強テ入口ノ回戸ヲ倒シ立入タルハ即チ夜間故ナク家宅ニ侵入シタルモノニシテ

所謂安息權ヲ害シタル事實明カナリトス(以下略之)

第七十三條 故ナク皇居禁苑離宮行在所及ヒ皇陵内ニ入りタル者

ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

○第八節 官ノ封印ヲ破棄スル罪

第七十四條 官署ノ處分ニ因リ特別ニ家屋倉庫其他ノ物件ニ施シ

タル封印ヲ破棄シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ看守者自ラ犯シタル時ハ一等ヲ加フ

(疑義) 酒造營業中規則ニ依リ其器械ニ施シタル官ノ封印ヲ廢業ノ後破棄シタルモノアラハ本條ニ依リ處分スヘキ乎

(説明) 蓋シ酒造器械ニ封緘ヲ施ス所以ハ全ク酒造營業者ノ取締ヲ爲メニスルモノナレハ本問ノ如キ既ニ廢業ノ後ニ係ルモノハ固ヨリ該稅則ノ支配ヲ受クヘキモノニアラサルカ故ニ其封緘ヲ破棄スルモノ本條ノ罪ヲ構成スルコトナカルヘシ

適例

○明治十九年五月廿八日判決 福岡縣中民石井利助

(摘要) 刑法第七十四條ハ其目的如何ニ論ナク故意ヲ以テ官ノ封印ヲ破棄シタル以

上ハ其罪成立スルモノトス
 抑モ刑法第七十四條ノ罪タルヤ其目的ハ税金上納セントスルニアルカ又ハ私利ヲ謀ルニアルカ其目的ノ如何ニ論ナク苟モ故意ヲ以テ官ノ封印ヲ破棄セシ以上ハ其罪ハ成立スルモノナリ今マ原判文ヲ審査スルニ被告ハ明治十八年度前后期船稅及地方稅不納ニ付公賣ニ付スル爲メ明治十八年八月廿二日所持ノ漁船ニ封印ヲ施サレタルヨリ云々右封印ヲ受ケタル船ニテ出漁シ稅納セントナキ企圖シ自儘ニ該漁船ヲ使用シタルハ稅納ヲ目的トシ官ノ封印ヲ破棄スルノ意ナキヲ以テ刑法第七十七條第一項ニ照シ無罪トアリテ其自儘ニ該漁船ヲ使用シタルトアルヲ以テ觀レハ該船ニ施シタル封印ハ既ニ破棄シタルモノ、如シ果シテ然レハ目的ハ納稅セントスルニアルモ己ニ官ヨリ封印ヲ爲セシヲ知リ破棄スルニ於テハ故意アルノ事實ニシテ之ヲ無意ナリト云フヲ得ス而シテ其後段ニ至リ封印ヲ破棄スルノ意ナキヲ以テトアリテ前後ノ理由齟齬セリ若シ又前項ノ該漁船ヲ使用シ云々ノ文詞ハ封印ヲ破棄セスシテ使用シタルモノト解釋セハ自ラ其理由ナルヘカヲサルニ之ヲ付セサルハ本院檢事付帶上告論旨ノ如ク事實ノ明示ヲ欠キタルモノニシテ到底不法ノ裁判ナルヲ以テ破毀ノ原由アルモノトス

第七十五條 官ノ封印ヲ破棄シテ其物件ヲ盜取シ又ハ毀壞シタル者ハ盜罪及ヒ毀壞ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第七十六條 看守者其懈怠ニ因リ封印ヲ破棄シ又ハ其物件ヲ盜取毀壞スル犯人アルコトヲ覺ラサル時ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九節 公務ヲ行フヲ拒ム罪

第七十七條 陸海軍ノ將校タル者出兵ヲ要求スル權アル官署ヨリ其要求ヲ受ケ故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七十八條 陸海軍ノ徵兵ニ編入セラル可キ者身體ヲ毀傷シテ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ以テ免役ヲ圖リタル時ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 若シ他人ニ囑託シ其氏名ヲ詐稱シ代テ徵募ニ應セシメタル者亦同シ其囑託ヲ受ケテ徵募ニ應シタル者ハ第二百三十一條ノ例ニ照シテ處斷ス

(疑義) 本條ニ陸海軍ノ徵兵ニ編入セラル可キ者云々トアルハ文字ニ拘泥スルキハ未
タ検査等ヲ經ス執レノ隊伍ニ編入セラル可キ者未タ定ラサル以前ノミヲ指シタル者ノ
如クナレモ本條ノ精神ヲ推究スレハ已ニ検査等ヲ經テ執レノ隊伍ニ入ル可キノ命ヲ受
ケタルモ未タ入營セサル前ニ軍人ト稱ス可シタルヲ以テ本條ニ含蓄シタル者ト解釋セ
サルヲ得ス何トナレハ已ニ隊伍ニ編入セラレ未タ入營セサル者ノ免役ヲ圖ルハ未タ檢
査ヲモ經サル者ノ免役ヲ圖ルヨリ其情狀一層重キハ言ヲ竣タサル可シ由是考フレハ本
條中ニ編入後ノ文字ヲ明示セラレサリシハ未タ検査等ヲモ經サル者即チ其情狀ノ輕キ
者ヲ擧クレハ已ニ編入セラレタル者即チ其情狀ノ重キ者ヲ含蓄スルハ勿論ナレハナリ
然レハ編入セラレタル後免役ヲ圖ル者ハ罰スルニ及ハサルノ意ヲ以テ編入後ノ文字ヲ
欠キタル者ニアラサルヘシ因テ本條ハ已ニ検査等ヲ經タルト否トニ拘ハラズ未タ入營
セサル前ニ本條ニ示シタル手段ヲ以テ免役ヲ圖リタル者ニ適用ス可キモノナルヤ
(說明) 陸海軍ノ徵兵ニ編入セラル可キ者トハ現ニ兵役ニ就クヨリ以前ヲ指シタルモ
ノナレハ前段ノ如キハ固ヨリ本條ヲ適用スヘキモノトス

第七十九條 醫師化學家其他職業ニ因リ官署ヨリ解剖分拆又ハ鑑
定ヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ四圓以上四十圓
以下ノ罰金ニ處ス

第八十條 裁判所ヨリ証人トシテ證據ヲ陳述スルコトヲ命セラレタ
ル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ亦前條ニ同シ

第八十一條 傳染病流行ノ際又ハ傳染病ノ疑アル船舶入港スルニ
當リ醫師其病患ヲ検査シ又ハ消滅ノ方法ヲ陳述スルコトヲ命セラレ
タル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ
處ス

獸類傳染病流行ノ際獸醫此條ノ罪ヲ犯シタル時ハ一等ヲ減ス

第四章 信用ヲ害スル罪

第一節 貨幣ヲ偽造スル罪

第八十二條 內國通用ノ金銀貨及ヒ紙幣ヲ偽造シテ行使シタル者
ハ無期徒刑ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

(疑義) 茲ニ甲者アリ銀貨百圓ヲ偽造シ其偽貨タルノ情ヲ明シ之ヲ乙者ニ賣渡シ乙者之ヲ行使セサル前事發覺シタル者アリ此場合ニ於テ甲者ノ所爲ハ偽造行使ト云ヘキ乎
 (說明) 行使トハ必シモ偽貨ヲ他人ニ渡シ眞貨同様ニ通用ナサシメタルモノ、ミチ云フニアラス本問ノ場合ノ如キ偽貨ヲ乙者ニ賣渡シタルモノモ亦タ行使ヲ以テ論セサルヘカラサルナリ

(疑義) 爰ニ甲者アリ乙者ノ依頼ニヨリ一時ノ遊戯ニナスモノト思惟シ半錢銅貨ノ八點及横ノ一畫ヲ削リ之ニ銀ヲ鑲シ乙者ニ渡セリ乙者ハ甲者ニ告ケス其偽貨ヲ以テ物品ヲ購求セリ右甲乙ノ處分如何

(說明) 本問ノ場合ニ於ケル甲者ハ本條ノ犯罪ヲ構成スルニ必要ナル惡意ノ一條件ヲ欠缺スルヲ以テ該犯罪者ヲ以テ論スルヲ得ス因テ乙者ノミ本條第二項ニ依リ處分スヘキモノナリトス

(疑義) 茲ニ壹圓ノ文字ヲ拾圓ト爲シテ其價額ヲ増シ又ハ金銀貨ノ邊縁ヲ切り取テ其量目ヲ減シ又ハ銀貨ニ金ヲ鍍シ銅貨ニ銀ヲ鍍シ其價額ヲ増シテ行使スル者ハ總テ變造トシ處分スヘキヤ

(說明) 變造トハ原貨ノ形体ヲ變更スルコトナク單ニ貨幣ノ記額ヲ増加シ若クハ其量目ヲ減殺スル等ノ事柄ヲ云フ故ニ銀貨ニ金ヲ鍍シ金貨ヲ作ルカ如キハ新ニ金貨ヲ偽造シタルモノニシテ金貨ヲ變造セシモノニアラス蓋シ銀貨ニ金ヲ鍍シ銅貨ニ銀ヲ鍍シ金銀

貨ヲ造ルモノハ銀貨銅貨ヲ以テ金銀貨ヲ造ルノ材料ニ供スルモノニシテ他ノ物品ヲ以テ新ニ貨幣ヲ偽造スル者ト毫モ徑庭ナカルヘシ去レハ本問金貨ノ文字ヲ改メ仍ホ金貨ト爲シ又銀貨ノ縁邊ヲ切り去リ仍ホ銀貨トナスハ貨幣ノ變造ニシテ銀貨ニ金ヲ鍍シ金貨ヲ偽造スルモノハ金貨偽造ヲ以テ論シ銅貨ニ銀ヲ鍍シ銀貨ヲ造ルモノハ銀貨偽造ヲ以テ論ス

(疑義) 茲ニ舊拾錢紙幣ニ着色シテ半圓ト爲シ行使シタルモノアリ右ハ通用禁止トナリタル上ハ一片ノ反古ナレハ紙幣偽造ヲ以テ處分スヘカラサルヤ

(說明) 既成ノ紙幣ニ着色シ變更ヲ爲シタルハ他物ヲ以テ紙幣ヲ造リタルト同シカラサルニ因リ紙幣ノ變造ヲ以テ論スヘシ而シテ既成紙幣ノ通用スルト否トニ因リ紙幣ノ偽造ト變造トヲ區別スヘキモノニアラサルナリ拾錢紙幣ハ既ニ通用ヲ禁セラレタレハ固ヨリ政府發行ノ紙幣ナルヲ以テ之ニ着色シテ半圓ト爲シ行使シタル者ハ紙幣變造ヲ以テ處分スルハ當然ナリ

(疑義) 朝鮮國ニ於テ日本人朝鮮國通用ノ錢ヲ偽造シタルハ本法ニ明文ナシト雖モ日本ニ於テ我カ流通貨幣ヲ偽造シタルト同條ニ照シ之ヲ罰セサルヘカラサル歟

(說明) 本邦人民朝鮮國ニ於テ彼國通用ノ貨幣ヲ偽造スル者ノ處分 義ハ本法中正條ナキヲ以テ不問ニ措ク可キカ如シト雖モ退テ考フルニ日韓修好條規附錄第七款ニ兩國人民私ニ錢貨ヲ鑄造スル者アレハ各其國ノ法律ニ照シテ處斷スヘシトノ明文アリ

其所謂ル私ニ錢貨ヲ鑄造スルトハ我人民彼國ノ錢貨ヲ偽造シ彼ノ人民我國ノ錢貨ヲ偽造スルヲ指スモノニシテ又各國其國ノ法律ニ照ストハ其本國ノ通用錢貨ヲ鑄造スルヲ罰スル法律ニ照ストノ意ナルヘシ何トナレハ我人民我國ノ貨幣ヲ偽造スル者我法律ニ照シテ處斷ス可キハ論ヲ竣タサル所ニシテ修好條規中特ニ明言スルヲ要セサレハナリ因テ本件偽造ノ罪ハ右修好條規附錄第七款ニ依リ本法ニ照シ内國通用ノ貨幣偽造ヲ以テ處斷スヘキモノトス

適例

○明治十九年三月廿九日判決 鳥取縣平民高原房吉

(摘要) 舊貨幣ヲ偽造スルモ罪トナラス

抑モ舊金銀貨幣タルヤ明治七年第九十三號布告及明治九年第百五十九號布告ニテ既ニ一般ノ通用ヲ廢止セラレタルモノナレハ内國通用ノ金銀貨ヲ以テ論ス可キモノニアラサハ今被告ハ壹分銀ヲ偽造シテ之ヲ行使シタルモ該所爲ハ固ヨリ刑法第百八十二條ノ制裁ヲ受ク可キ者ニアラス然リ而シテ其偽造壹分銀ヲ行使シタル事實ニ付原裁判ノ認メシ所ニ依ルニ單ニ賭博場ノ掛金ニ使用シ又ハ其情ヲ明カシ佐々木藤藏ニ貸與シタル迄ニテ欺罔騙取ノ手段アルニアラサレハ亦詐欺取財ノ罪ヲ構成 サリシモノナリ然ルニ原裁判所ニ於テ本案ノ如ク内國通用ノ銀貨ヲ偽造シテ行使シタルモノトシ重懲役九年ニ處シ且現在スル壹分銀ヲ沒收シタルハ所謂法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ

言渡シタルモノトス

○明治二十年三月二十日判決 大坂府平民松本清吉

(摘要) 貨幣偽造罪ハ其偽造ノ巧拙ニ據テ其罪ヲ論定ス可キモノニアラス

前被告代官人カ擴張スル要旨ハ被告カ所爲ノ如キハ一般ノ人ヲ欺ク可キ形ヲ備ヘサレハ之ヲ使用シタルモ詐欺取財ニ止マリテ銀貨偽造ト云フ可キ者ニアラス然ルニ之ヲ偽造ナリトシ重懲役九年ニ處セラレシハ擬律ノ錯誤ナリト云フニアレハ抑モ貨幣偽造ノ罪タル其偽造ノ巧拙ニ據テ論定ス可キモノニアラス半錢銅貨ノ半ノ字中ノ二畫ヲ削リ十ノ字ノ如クシ半錢銅貨ノ効用ヲ失ハシテ然ル後水銀ヲ以テ之ヲ銀色ニ鍍シ行使シタル上ハ一般ノ信用ヲ害シタルヲ論テ俟タサレハ刑法第八十二條初項ノ制裁ヲ免レサルモノトス

○明治廿一年一月廿八日判決 福岡縣平民立石半次郎

(摘要) 貨幣偽造ノ方法拙劣ナルモ之ヲ通用シタルニ於テハ貨幣偽造罪ヲ以テ處斷ス可キモノトス

原判決ヲ零叙スレハ職審判事ハ其貨幣偽造行使ノ点ニ對シ被告人ハ半錢銅貨ヲ十錢銀貨ニ偽造セント欲シ半錢ノ半ノ字入ト横一トヲ削除シ十字ト爲シ之ニ玻璃鏡ノ亦銀ヲ塗付ケ銀色ト爲シタル物四個ヲ造リ明治廿年六月十八日夜熊本區古城堀端町湯屋田代高常方へ入浴ニ立越シ右鏡色ノ銅貨一枚ヲ湯番田代トヨニ渡シ過錢ヲ乞タル所トヨハ

其形ヲ見テ二十錢ナリヤト尋テタルニ然リト答ヘトヨチシテ十八錢四厘ノ過錢ヲ交付セシメタルモノナリ然レハ之ヲ十錢銀貨ニ比スルニ其形ナ頗ル差異アリテ殆ント二十錢銀貨ニ均シ然レハ之ヲ二十錢銀貨ノ偽造ナリトセンカ現ニ十錢トアリテ二十ノ文字ナク云々又豫審判事ニ於テ過錢及ヒ湯錢共合セテ二十錢ヲ取リタルモノト爲シ終結シタルハ穩當ナラサレ者トス何トナレハ湯錢ノ如キハ其義務ヲ免脱シタルニ止マリ別ニ詐欺ノ手段ヲ以テ財物ヲ騙取シタリト謂フヲ得サレハナリ依テ被告人ハ單ニ金拾八錢四厘ヲ騙取シタル者トス云々治罪法第二百五十二條ニ依リ之ヲ認可ストアリ依テ按スルニ附帶上告第二項ハ騙取シタル金員差異アルニ止リ刑ノ適用ニ影響ヲ及ホサ、ルヲ以テ敢テ全部ヲ破毀スルノ要ナキニ因リ原言渡ヲ認可シタルモノナレハ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スニ足ラスト雖モ本案ノ根源タル貨幣偽造行使ノ點ニ對シ原會議局ハ前顯事實ヲ判決スルニ凡ソ貨幣ノ偽造アリトセンニハ偽造タル貨幣ノ眞貨ニ摸造シ外見整備シテ通用ノ爲メニ殆ント支障ナキモノタルヲ要スト解示セリ然レモ貨幣偽造ノ罪ハ右判決ノ如キヲ要セス形体ノ同異偽造ノ巧拙被害者ノ知愚ニ因テ罪ノ構成如何ヲ定ムルモノニアラスシテ被告人カ不正ノ意思ヲ以テ摸造ヲ施シ其摸造シタル貨幣ヲ常價ニ通用シタル時ハ其罪ヲ構成スヘキモノナリ故ニ惡意アリテ之カ偽造ヲ施シ之ヲ通貨ト爲シテ行使シタル者ナレハ偽造ノ罪アルコト言テ俟タス原判決ハ貨幣摸造ノ外見又ハ行使ノ模様ヲ説明シテ其意思ノ如何ニ解及サス若シ詐欺ノ手段ニ供シタルモノナレハ其

理由ヲ明示セサル可ラサルニ輒ク詐期取財ノ罪ナリト判定セシハ事實理由ノ不備ニシテ未タ其擬律ノ當否ヲ確認ス可カラス依テ治罪法第四百十條第九ニ定メタル上告ノ理由アル者トス

○明治廿二年十月廿三日判決 東京府平民岡田忠藏

(摘要) 半錢銅貨ノ縁邊ニ刻ミ形ヲ付ケ之ニ銀色ヲ付着シ使用スルモ貨幣ノ偽造及ヒ變造ナリトスルヲ得ス則チ詐欺取財ノ方法ナリトス

抑モ銀貨偽造又ハ變造ノ罪アリトセンニハ單ニ銅貨ニ銀色ヲ付ケ又ハ其周圍ニ刻形ヲ付ケタル而已キ以テ充分ナリトセス必スヤ其價格ヲ表スル所ノ文字ヲ更改シ又ハ其質ヲ減シ又ハ其字額ヲ増シタルノ所爲ナカレ可カラズ今原判文ヲ閱スルニ(前畧其所爲タル半錢銅貨ノ縁邊ニ刻ミ形ヲ付ケ銀ノ流粉ニテ銀色ヲ付着セシメタル迄ニシテ銅貨其物ノ價直ヲ表セル半錢ノ文字ハ明カニ存シ置キ云々)トアリテ其文字ヲ更改シタル等ノモノニアラサレハ未タ以テ銀貨ヲ偽造シ又ハ變造シタリト爲スヲ得サルモノトス又偽造ノ未タ成ラサルモノトハ其文字ノ如ク偽造ニ着手シ未タ其全体ヲ爲サ、ル者ヲ云フヤ勿論ナリ然ルニ本件ノ所爲ハ既ニ其事ヲ了シタルモノニシテ初メヨリ眞物ノ如ク偽造スルコトナク唯銀色ト刻ミ形ヲ付ケタルノミナリ以テ夜ニ乘シ二十錢銀貨ト詐言シ物品ト釣錢トチ騙取シタルニ過キサレハ之ヲ偽造ノ未成トモ云フヘカラサルモノトス故ニ原裁判所カ詐欺取財ヲ以テ處斷シタルハ相當ニシテ上告論旨ハ不相立者トス

第百八十三條 内國ニ於テ通用スル外國ノ金銀貨ヲ偽造シテ行使シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第百八十四條 官許ヲ得テ發行スル銀行ノ紙幣ヲ偽造シ若クハ變造シテ行使シタル者ハ内外國ノ區別ニ從ヒ前二條ノ例ニ照シテ處斷ス

第百八十五條 内國通用ノ銅貨ヲ偽造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第百八十六條 前數條ニ記載シタル貨幣ノ偽造變造已ニ成テ未タ行使セサル者ハ各本刑ニ照シ一等ヲ減シ其未タ成ラサル者ハ二等ヲ減ス

若シ偽造ノ器械ヲ豫備シテ未タ着手セサル者ハ各三等ヲ減ス

(疑義) 正當ノ事由ヲクシテ貨幣鑄造ノ器械又ハ紙幣製造ノ器械ヲ所有スル者アラハ之ヲ如何處分スヘキヤ

(説明) 只之ヲ所有スルノミニテ偽造ノ豫備ヲ爲シタル者ト認ムヘカラサルモノハ刑法ノ得テ罰スヘカラサルモノナリト雖モ若シ其器械ヲ所有シ正當ノ事由アルコトヲ辨明スル能ハスシテ其貨幣又ハ紙幣ヲ偽造セント欲シテ其豫備ヲ爲シタル者ト認ムヘキモノハ本條第二項ニ照シ處分セサルヘカラス

(疑義) 本條末項偽造ノ器械ヲ豫備シテ未タ着手セサルモノハ各三等ヲ減ストアリ然ルニ偽造器械ノ豫備而已ニ着手シ其七八分ハ成就セント雖トモ猶二三分ヲ具備セサルモノアルトキハ是ヲ豫備ノ未遂犯トシテ總則ニ於ケル未遂犯條ニ照シ處分ス可キモノナルヤ

(説明) 本法ニ器械ヲ豫備シタルハ偽造ニ必要ナル諸器械ヲ充分備ヘ付ケタルモノニ限ラス既ニ其幾分ヲ豫備シタルモ亦同シ故ニ前項ノ場合ニアリテハ本條末項ヲ適用ス可キモノトス

適例

○明治二十年六月廿日判決 廣島縣平民堀要平外一名

(摘要) 器械方法等拙劣ニシテ銀貨偽造ノ目的ヲ達スル能ハサルモノハ不能犯ナリ本案上告ノ理由トスル所ハ凡ソ不能犯ナルモノハ器械ノ精粗方法ノ巧拙ニ拘ハラス其

器械方法等ニ不能ノ性質ヲ有スル場合ヲ云ヒ其方法ヲ拙劣ナルヲ以テ不能犯トナス可
ラス然ルニ原裁判官ハ器械方法等ニ不能ノ性質ヲキニ拘ハラズ單ニ拙劣ナリトノ理由
ヲ以テ不能犯ト断定シタルハ到底二十錢銀貨ヲ偽造スル能ハサルヲ以テ云々トアリテ
其器械方法等拙劣ニシテ銀貨偽造ノ目的ヲ達スル能ハサルモノナリト認定シタリ果
テ然レハ不能犯ニシテ必スシモ其器械方法ノ性質如何ニノミアルヘキモノニアラス故
ニ原裁判官カ以上ノ事實ヲ認メ刑法第百八十六條第二項第百八十七條ニ依リ處斷スヘ
キ限リニアラストシ無罪ヲ言渡シタルハ相當ニシテ越權又ハ擬律ノ錯誤ニアラストス

第百八十七條 貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ雇テ受ケタル職工ハ
前數條ニ記載シタル犯人ノ受ク可キ刑ニ照シ各一等ヲ減ス
若シ職工ノ補助ヲ爲シテ雜役ニ供シタル者ハ職工ノ刑ニ照シ一等
又ハ二等ヲ減ス

第百八十八條 貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者
ハ偽造變造ノ各本刑ニ照シ二等ヲ減ス

第百八十九條 偽造變造ノ貨幣ヲ内國ニ輸入シタル者ハ偽造變造ノ

刑ニ同シ

第百九十條 偽造變造ノ情ヲ知テ其貨幣ヲ取受シ之ヲ行使シタル者
ハ偽造變造シテ行使シタル者ノ刑ニ照シ各二等ヲ減ス
其未タ行使セサル者ハ各三等ヲ減ス

(疑義) 本條中偽造變造ノ情ヲ知テ云々トアリ其情ヲ知テトハ偽造變造者ノ誰タル
及ヒ偽造變造ノ事實共ニ全ク知ル者ヲ指示セシモノナルヤ
(說明) 既ニ其貨幣ニシテ何人カノ偽造變造シタルモノナル事ヲ知テ取受行使スレハ
原偽造變造者ノ誰タルヲ知ルヲ要セサルモノトス

第百九十一條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ
六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第百九十二條 貨幣ヲ偽造變造シ及ヒ輸入取受シタル者未タ行使セ
ズ前ニ於テ官ニ自首シタル時ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ
監視ニ付ス

若シ職工雜役及ヒ房屋ヲ給與シタル者未タ行使セザル前ニ於テ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

〔參照〕 福井始審裁判所檢事ヨリ贋造金銀貨幣截斷等處分ノ儀ニ付司法省ヘ伺 明治十六年十月二日

豫審公判檢事ノ搜查ニ於テ贋造金銀貨幣取扱規則ニ依リ截斷ス可キ金銀貨幣ヲ發見シ法ノ沒收ニ係ラサル時ハ其旨ヲ以テ裁判所所在ノ警察署ニ引渡シ該貨幣ハ同署ノ處分ニ任セ可然哉

指令 明治十六年十月二十日 何之通

第九十三條 貨幣ヲ取受スル後ニ於テ偽造又ハ變造ナルヲ知リ之ヲ行使シタル者ハ其價額ニ倍ノ罰金ニ處ス但其罰金ハ二圓以下ニ降スヲ得ス

〔疑義〕 本條ニ其價額ニ倍ノ罰金ニ處ストアルハ其貨幣ノ價額ノ二倍ノ罰金ニ處スルノ意ナルカ將タ其行使シタル價額ノ二倍ノ罰金ニ處スルヲ云フモノナル乎
〔說明〕 本條ニ所謂價額トハ例ヘハ偽造ノ壹圓金ナルヲ知リ之ヲ行使シタルキハ二

圓ノ罰金ニ處スルカ如ク其偽造又ハ變造ノ貨幣ノ價額ニ依ルノ意義ナリトス

適例

○明治二十年四月二十九日判決 埼玉縣平民加藤留治郎

〔摘要〕 偽造紙幣ヲ行使セント欲シ之ヲ他人ニ交付セシ時ハ直ニ刑法第九十三條ノ罪ヲ組成スルモノトス
刑法第九十三條貨幣ヲ取受スルノ後ニ於テ偽造ナルヲ知リ之ヲ行使シタル罪ハ其結果ヲ得ルト否トニ拘ハラズ既ニ他人ニ交付シタルノ所爲ノミヨテ犯罪ノ成立スルモノナリ然ルニ本案原裁判官ハ其受取シタル五十錢紙幣二枚ハ後ニ於テ偽造ナルヲ知テ之ヲ使用シタリシ事實ヲ認メナカラ法律罰スヘキ正條ナシトシ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ上告論旨ノ如ク擬律ノ錯誤ニ出テタル不法ノ裁判ナリトス

第二節 官印ヲ偽造スル罪

第九十四條 御璽國璽ヲ偽造シ又ハ其偽璽ヲ使用シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第九十五條 各官署ノ印ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ重懲役ニ處ス

〔疑義〕 官印ヲ偽造シ未タ使用セサルニ際シ其良心ノ悔悟ニ因リ之ヲ廢棄シタルキハ

其處分如何

(說明) 官印ヲ偽造シタル上ハ犯罪固ヨリ成立スルカ如クト雖モ真心悔悟シテ之ヲ廢棄シタルニ於テハ其形跡ハ已ニ消滅シ最早之ヲ使用スルノ患ナク隨テ他人ヲ害スルコトナカルヘキヲ以テ實際之レヲ處分セサル方穩當ナルヘキナリ

(疑義) 官印ヲ偽造スルニ當リ其印面全体ヲ必要トセス只其幾部ヲ必要トスル場合ニ於テ其必要ナル部分ノミヲ製造シタルモノ、處分如何

(說明) 半面ヲ以テ全面ノ効用ヲ爲スヘキ場合ニ於テ若シ其必要ナル部分ヲ偽造シタルモノハ本條官印偽造ノ已遂罪トシテ處分スヘキモノトス

(疑義) 官印ヲ偽造スルニ其字畫毫モ眞印ト撰フ所ナキモノ一二ノ缺失アル時ハ本條ニ掲クル偽造罪ハ構成セサル乎又官印ヲ偽造スルニ其印面ノ字句員數同一ナルモ其字體字畫ヲ異ニスルキハ又偽造ヲ構成セサル乎

(說明) 眞印ト少シニテモ異ナル所アル者ハ行使スルモ無効ニ屬スルヲ以テ官印偽造トハ爲スヘカラサルカ如クナレモ實際上ニ就テ考フレハ眞印ト少差アルモ眞印ト誤認シ易キ者ヲ官印偽造ト爲サ、ル時ハ狡猾ノ徒之ニ乘シ奸詐ヲ逞フシ良民ヲ害シ其弊ヤ遂ニ底止スル所ナキニ至ラン殊ニ法律ノ精神モ亦此ノ如クナルヘシ因テ前段假令印章ノ文字ヲ少シク變換シタルモ實際官印ヲ模擬シタルモノニシテ眞印ト誤認シ易キモノト認定スヘキ場合ニ於テハ總テ本條ニ依リ處分スヘキモノトス

適例

○明治十九年五月十日判決 福井縣平民内田正二郎

(摘要) 戶長私ニ其役場印ヲ彫刻セシメ所持スルモ法律上罪トナラス

刑法第七十七條ニ罪ヲ犯ス意ナキ所爲ハ其罪ヲ論セストアリ今本案被告人カ所爲ニ於ケル原裁判官ノ認定セシ事實ニ依レハ戶長奉職中旅行先ニ於テ借金證書ニ公證ヲ爲サントスルニ方リ役場印ヲ彫刻セシメタルモ該公證ヲ要セスシテ其儘ニ所持シ居タルニ過ギスシテ毫モ惡意アルニアラサルノミナラス之ヲ不正ニ行使スル事跡ナケレハ罪ヲ犯ス意ナキ所爲ナルハ論ヲ俟タサルナリ而シテ戶長職務ニ付擅權等ノ所爲アルコト於テハ官吏懲戒令ニ處セラルヘキハ格別無届ニテ役場印ヲ彫刻セシトテ直ニ之ヲ以テ官印偽造罪ノ構成セシモノト云フヲ得ス故ニ原裁判官カ認メタル事實ニ對シ無罪放免ノ言渡シヲ爲シタルハ相當ニシテ之ヲ擬律錯誤ナリト云フヲ得カラサルヲ以テ上告ノ旨趣ハ其理由ナキモノトス

○明治二十年一月廿日判決 京都府平民小倉善平外一名

(摘要) 官署ノ印ハ現ニ使用スルモノ、ミナラス已ニ廢印ニ屬スルモノト雖モ猶ホ公益ヲ害スルニ至リテハ之ヲ偽造シタルキハ官印偽造ノ罪ヲ免カレス

刑法第九十五條ニ所謂官署ノ印トハ其官署ニ於テ現ニ使用スルモノヲ指スノミナラス已ニ廢止ニ屬スルモノト雖モ亦公益ヲ害スルニ至テハ差異ナキモノナレハ之ヲ偽造

スルカ如キハ該條ノ制裁ヲ免カルヘカラサルモノトス然ルニ原裁判茲ニ出テスシテ本案被告等ヲ罰ス可カラサルモノトセシハ上告論旨ノ如ク擬律ノ錯誤アル不法ノ裁判ナリ

第九十六條 產物商品等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其

偽印ヲ使用シタル者ハ輕懲役ニ處ス

書藉什物等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

適例

○明治十九年五月廿五日判決 大分縣平民庄司茂四郎

(摘要) 人力車夫他人ニ托シ檢印ヲ鑄造セシメ其車ニ烙記セシ所爲ハ刑法第九十六條ニ開擬スヘキモノトス

抑モ官廳ノ何レニ論ナク各官署ニ於テ用フル所ノ印及ヒ記號印章ヲ偽造シ又ハ使用シタル者ハ刑法第二編第四章第二節ニ掲クル所ノ區別ニ從テ處斷スヘキハ論ヲ竣タサルナリ然リ而シテ被告等ノ所爲ハ如何ト云フニ原判文判示スル事實ニ據レハ所管郡衙ニ於テ用フル所ノ檢印即チ印章ヲ偽造シテ押印シタルモノト認メタルヤ明確ナリ果シテ然ラハ上告論旨ノ如ク刑法第九十六條第二項什物等トアルニ包含スルモノナレハ該

條ヲ適用スヘキハ當然ナルニ之ヲ法律ニ正條ナシトテ刑法第二條ニ依リ無罪放免ヲ以テ決放シタルハ法律ノ誤解ヨリ來シタル擬律錯誤ノ裁判ナルヲ以テ破毀ノ原由アルモノト錯定ス

第九十七條 御璽國璽官印記號印章ノ影蹟ヲ盜用シタル者ハ前數

條ニ記載シタル偽造ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ

(疑義) 茲ニ郡書記奉職中該郡役所ト國立銀行トノ間ニ用ユル金額振出し切符ノ用紙數葉ヲ竊取シ之レニ該郡役所出納課印及同僚ノ官印並見認印ヲ盜捺シ未タ金額番號年月日等ヲ記載セス其儘所持スル者アリ然ルニ郡書記免職トナリタル後他ノ犯罪事件ニ付家宅搜索ノ際發見シタリ因テ訊問スルニ被告ハ機ヲ見テ金額其他ノ文字ヲ記人調製シ以テ該國立銀行ヲ欺キ金員ヲ詐取セントノ意思ニテ今猶所持セリト云フ該犯ヲ處スル右切符用紙ヲ竊取シタルハ竊盜罪ヲ免レスト雖モ其官印ヲ盜捺シタル點ニ至テハ只豫備ノ所爲ニ止マリ法律上犯罪ヲ構成サセルモノ、如シ抑モ本條中盜用トアルハ蓋シ單ニ盜捺シタルノミニアラスシテ其盜捺シタルモノヲ以テ文書其他ノ効用アルモノヲ僞作シ之ヲ使用シテ始メテ犯罪ヲ成立スル精神ナラン然ラスンハ法文用ノ字ヲ要セサルモノト思惟ス然レモ或ハ官印ノ如キハ其性質ニ已私人ノ印ト異リ其使用ノ如何ニ論

ナク已ニ盜捺スレハ尙ホ盜用ノ犯罪ヲ免カルベカラスト論スルモノアリ右ハ果シテ適
說ナル乎

(說明) 本法第二百六條後段ニ盜用トアル文詞ノ解釋ハ其盜捺シタルモノヲ以テ文書
其他ノ効用アルモノヲ僞作シ之レヲ使用シテ始メテ犯罪ヲ成立スルモ前段ノ如ク既ニ
印影ヲ盜捺シタルモノハ使用ノ未遂犯トシテ論セサルヘカラス又該切符ノ如キハ無價
ト同様ニ見做スヘキモノニテ損害ヲ生スルニ至ラサルニ依リ竊盜ヲ以テ論スルノ限ニ
アラサルヘシ

(疑義) 本條御璽國璽官印記號印章ノ影跡ヲ盜用シタル者ハ云々トアリ然レハ官署ノ
印影ヲ盜用スルハ乃チ官署ノ信用ヲ損フモノニ官署ハ衆庶ノ尤モ信ヲ措ク處ナレハ
之ヲ不正ニ使用スルハ其害ヲ及ホス淺少ナラサルヲ以テ其罪亦隨テ重キ律意ト思考ス
果ノ然リトセハ公正ノ証書ヲ僞造スルニ因リ官印ヲ竊ニ押捺スルカ如キハ其印影ノ効
力ヲ有スル必要ナル書類ニ不正ニ用ヒタル者ナレハ即チ本條ニ該ルノ重罪ヲ構成シ本
條ヲ適用スルハ無論ナリト雖モ其初ヨリ官印ノ必要ヲ見サル私文書ニ他ノ官印(貸借證
造シテ其官印ヲ
盜用スルノ類)ヲ盜用スルモノハ其意思固ヨリ一箇私印ノ効用ヲ得ント欲スルヲ以テ
故ニ官印ヲ盜用スト雖亦官印ノ能力ヲ籍リテ他ヲ欺罔スルニ非ス其效果一般私印ヲ盜
用シタルニ異ナルナシ今直チニ之ヲ本條ニ問擬セン乎恐クハ法律ノ本意ニ非サルヲ疑
フ或ハ第二百八條第二項ニ依テ論セン乎頗ル其解ヲ煩ハシテ法律ノ文辭ヲ讀ムニ困ム

然ラハ則効力ノ如何害ノ深淺ヲ論セス苟モ官印ヲ竊ニ用ヒタル者ハ總テ本條ニ依リ處
斷スヘキモノナル歟

(說明) 本件盜捺シタルノ印ハ官印ニシテ私印ニアラサルヲ以テ私文書ニ押捺シテ之
ヲ使用スルモ私印盜用ト云フヲ得ザルハ無論ナリトス又官印盜用ノ罪ナシ何者少シク
注意スル片ハ其私印ニアラサルコトハ容易ニ知り得ヘキヲ以テ爲メニ害ヲ蒙ルコトナカル
ヘシ若シ實際ニ於テ欺罔セラルコトアルモ是レ不注意ノ甚キ者ニシテ本法ノ保護ノ及ハ
サル所ナリ且ツ所爲極メテ疎拙ナルヲ以テ官印ノ信用ヲ害スルコト亦アラサルヘシ依テ
官印私印盜用ノ罪俱ニ成立タサルモノトス

第百九十八條 官ヨリ發行スル各種ノ印紙界紙及ヒ郵便切手ヲ僞造
變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ一年以上五年以下ノ重
禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第百九十九條 已ニ貼用シタル各種ノ印紙及ヒ郵便切手ヲ再ヒ貼用
シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

(疑義) 借用證へ印紙ヲ貼シ消印セシニ後證書ヲ書換へ前證書ヲ廢シ其印紙ヲ剝去リ
之ヲ新證へ貼付シタル者ハ前證ノ効力有無ヲ問ハス印紙再貼用トシテ罰スヘキ乎

(説明) 一度貼用シタル印紙ヲ剝去リテ他ノ證書ニ貼用シタル上ハ假令前證書ヲ使用セスノ之ヲ廢止ニ付スルト雖モ尙ホ再貼用ヲ以テ論セサルヘカラサルハ勿論ナリトス
 (疑義) 自己ノ營業上ニ關シ家族某ノ名前ヲ以テ通帳ヲ製シ人ニ交付シ置キ後該帳家族名前ノ上ニ貼紙シテ自己ノ姓名ニ改メ曩キニ家族ノ印紙消印ノ上ニ更ニ自己ノ印章ヲ以テ複テテ消印シタルモノアリ右ハ印紙再貼用ヲ以テ論スヘキヤ
 (説明) 前段ノ如キハ印紙再貼用ヲ以テ論スヘキモノニアラス

適例

○明治十九年五月十日判決 岩手縣平民菊池仁兵衛外一名

(摘要) 詞訟ノ答書ニ印紙ヲ貼用シ未タ其効用ヲ爲サ、ル前之ヲ切取り更ニ他ノ答書ニ貼用スルモ罪トナラス

刑法第九十九條ニ己ニ貼用シタル各種ノ印紙及ヒ郵便切手ヲ再ヒ貼用シタル者トアルハ己ニ貼付シテ其効用ヲ爲シタル印紙ヲ再ヒ貼用シ脱税ヲ謀リタル所爲ヲ云フモノニシテ假令一旦之ヲ貼付スルモ其効用ヲ爲サ、ル前ニ於テハ再貼用ヲシテ脱税ヲ謀リシモノト云フテ得サレハ素ヨリ其罪ヲ組成セサルモノトス今原裁判所カ認ムル事實ニ依レハ被告ハ訴訟事件ニ付答書ヲ差出シタルニ連名ニテ差出スヘシトノ達ニヨリ新タニ答書ヲ調製シ曩ノ答書ニ貼付シタル印紙ヲ切り取り之ニ貼付契印シ更ニ呈出シタル者ニテ曩ノ答書ハ一旦其筋ヘ差出シタルモ裁判ハ勿論審問ヲ受ケサルモノナレハ其効

用ヲ爲シタル者ニアラスシテ必竟一ノ印紙ニ二度消印シタルニ異ナラサレハ刑法第九十九條ノ一罪ヲ組成セシモノト云フテ得ス然ルニ原裁判所ニ於テ輒スク本刑ヲ科シタルハ擬律錯誤ノ裁判ニシテ治罪法第四百十條第十二相當スル上告ノ原由アルモノトス
 ○明治十九年十月二十九日判決 岡山縣平民小見山喜代治

(摘要) 印紙貼用ノ罪ハ即時犯ヲ以テ處斷ス可シ

證券印紙再貼用ノ罪ハ即時ニ成立スルモノニシテ連續犯ヲ以テ論ス可キモノニアラストス然リ而シテ被告ハ本院檢事附帶上告論旨ノ如ク印紙再貼用ニ牽連シ印稅連脫ノ附帶犯アルモノニシテ其罪質ニ至リテハ檢事ノ意見ニ反シ是亦印紙再貼用ト全時ニ成立セシ即時犯ナリトス然ルニ原裁判所ハ印紙再貼用ノ罪ヲ連續犯トシテ處斷セシノミナラス其附帶犯タル印稅連脫ノ罪ヲ不問ニ措キタルハ俱ニ擬律錯誤ノ裁判云々
 (以下畧之)

第二百條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

適例

○明治十九年十月十二日判決 長野縣平民北澤喜太郎

(摘要) 煙草印紙再貼用シタル時ハ未タ販賣セサルモ既遂犯ナリ煙草印紙ハ販賣前ニ

貼用スル制規ナルヲ以テ之レニ印紙ヲ再貼用シタルニハ未タ販賣セサルモ既遂タル論ヲ埃タサル處ナリ然ルニ原裁判所ハ被告カ一旦用ヒタル印紙ヲ再ヒ貼用シタルハ煙草ヲ販賣セントシテ差押ヘラレタルモノト既遂ノ事實ヲ認メナカラ未遂犯者ナリトシテ刑法第二百條第百十二條等ヲ適用シ處斷シタルハ上告論旨ノ如ク事實理由ノ齟齬ニアラスト雖モ擬律錯誤ノ裁判ナリ

第二百壹條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

(疑義) 本條ニ於テ此節ニ記載シタル輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付スト有リ然ルニ第九十九條ノ刑ノ如キ輕罪ナリト雖モ只罰金ヲ科スルニ止リ敢テ身体ヲ拘束スルコトナキヲ以テ之ヲ監視ニ付スルハ稍酷ナルカ如キニ付右輕罪ノ刑トアルハ實決ノモノニ限り適用スヘキモノトシ差支ナキ乎

(說明) 本條ハ輕罪ノ刑ニ處スル者六月以上二年以下ノ監視ニ付スルノ明文ニシテ而シテ第九十九條已ニ貼用シタル各種ノ印紙及ヒ郵便切手ヲ再ヒ貼用シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處スル旨ヲ定ム其罰金ハ即チ輕罪ノ刑ナルヲ以テ本條ニ依リ監視ニ付セサルベカラサルカ如シ然レモ罰金ハ財產ニ對スル刑ナレハ之ニ附加スルニ身体ヲ拘束スルノ監視ヲ以テスルハ是レ恐クハ立法ノ精神ニ非サルナリ且ツ總則第四

十條ニ依ルニ監視ノ期限ハ主刑ノ終リタル日ヨリ起算ストアリ去レハ今本刑罰金ニ該ルモノハ乃チ何レノ日チ主刑ノ終リタルト爲ス可キヤ其納定ノ日ナル歟將タ一月内納完セスニテ輕禁錮ニ換フルノ日ナル歟或ハ其輕禁錮ノ終リタル日ナル歟就レモ皆第四十條ノ所謂主刑ノ終リタル日ナリト爲スコト得ス故ニ此場合ニ於テハ其計算ヲ起スノ日ナシ則チ計算スヘキノ期限ナシ期限ナケレハ即チ監視ノ附加刑アル可キノ謂レナシ依テ第九十九條ノ輕罪ニ付テハ監視ノ刑ヲ附加セサル者トス

第二節 官ノ文書ヲ偽造スル罪

第二百二條 詔書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

其詔書ヲ毀棄シタル者亦同シ

(疑義) 本條并ニ第二百三條第二百四條等ノ偽造變造タルノ情ヲ知テ行使シ而シテ偽造變造者ノ共犯從犯ニアラサルモノハ何條ニ依リ處分スヘキヤ

(說明) 本條及ヒ第二百三條第二百四條第二百五條他人ノ偽造ニ係ルヲ知リ行使シタル者ノ件ニ付テハ條文不備ナリト論スル者アリ又偽造罪ハ止タ偽造シタルノミコソ之ヲ行使セザレハ(詔書ハ重シ未タ行使セサルモ偽造ノミヲ以テ罪ヲ得)未タ其害ヲ見ス畢竟官ノ文書以下ハ行使スルヲ專ラ責ム可キ者トス故ニ他人ノ偽造シタル情ヲ知テ行使シタル者ハ己レ自ラ偽造セスト雖モ偽造シテ行使シタル者ヲ以テ處分セサルヲ得ス

ト論スルモノアリ今之ヲ覆考スルニ法律ノ不備トシテ之ヲ不問ニ置クヨリ後段ノ論ニ從ヒ偽造シテ行使シタル者ヲ以テ論スルヲ穩當ナリトス然レハ詔書偽造ニ行使ノ事ヲ揭ケスト雖モ偽造シタル時ハ未タ之ヲ行使セサルモ己ニ罪トナル法ナリ去レハ即チ之レヲ行使スルニ於テ猶此罰ヲ得ル罪ナルヲ勿論タルヘキヲ以テ偽造ノ情ヲ知テ行使シタル者ハ己レ自ラ之ヲ偽造セサルモ尙ホ偽造罪ヲ以テ論スヘキモノトス

第二百三條

官ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ無期徒刑ニ

處ス

其詔書ヲ毀棄シタル者亦同シ

(疑義) 茲ニ郵便爲換手形ヲ竊取シ其手形中金員受領人ノ氏名押印ヲ爲スヘキ所ニ自己ノ氏名ヲ偽書シ有合ノ印ヲ押シ正當ノ受領人ト詐稱シ郵便局ニ至リ金圓ヲ詐取セントセシモ遂ニ正當ノ受領者ニアラサルヲ發見セラレタル者ノ如キハ如何處分スヘキヤ

(說明) 前段手形ヲ竊取セシ者ハ竊盜ヲ以テ論セサルヘカラス又其欄内ニ受取人ノ氏名ヲ偽書シ有合ノ印ヲ押捺シタル所爲ハ官文書偽造罪ナリトス何トナレハ郵便爲換証書ハ元ト官衙ノ簿冊ニ綴リタル所ノ紙片ニ金額等ノ記載ヲ爲シ恰モ割符ノ如ク之カ半ヲ割テ爲換差出人ニ下附スルモノナレハナリ又其受取人ノ氏名ヲ偽書シ有合ノ印ヲ押

捺シテ爲替金額ヲ受取ラントシテ遂ケサルモノハ詐欺取財ノ未遂犯ナリトス因テ前段ノ場合ハ以上數罪俱發ノ例ニ依リ處分スヘキモノトス

(疑義) 茲ニ借用証書ヲ作爲スルニ當リ証人二名ヲ要スルモ其二名ノ内一名ノ承諾ヲ得テ捺印ヲ請ヒシモ他ノ一人ノ承諾ヲ受クルノ暇ナカリシカ幸ヒ曾テ其者ヨリ預リ置ク實印アルヲ奇貨トシ其名下ニ押印シ以テ戶長役場ノ公証ヲ受ケタルモノアリ其處分方如何

(說明) 本問ノ場合ニ於テハ証書ノ全部ヲ詐爲セシニアラス只タ証人ノ一部ニ止マルモノナリト雖モ元來戶長カ公証ヲ爲スハ証書ノ全面ヲ公認スルニ出ツルモノニシテ即チ前段ノ場合ハ虛偽ノ公証ヲ爲サシメタル者ナレハ官文書偽造タルヲ固ヨリナリ故ニ其犯人ハ官文書偽造及印影盜用ノ二點ヲ罰セサルヘカラス

(疑義) 市町村役場ニ設置スル處ノ國稅府縣稅土地臺帳若シハ身分上ニ關スル書類ヲ偽造行使スル者ハ官文書偽造ヲ以テ論スルハ勿論ナレモ市町村稅ニ關スル書類ヲ偽造行使スル者ハ私文書ヲ以テ論スヘキヤ

(說明) 市町村役場ニ備ヘ置ク處ノ文書中國稅府縣稅土地臺帳等ノ如キ國ノ事務ニ屬スル書類ニ關スルモノト雖モ彼ノ自治制則チ市町村役場ニ備置スル以上ノ官文書ト云フヲ得ニ果シテ官文書ト云フヲ得サルハ其他ノ書類ニ刑法上是ヲ論スル場合ニ於テハ總テ私文書ヲ以テ論スヘキモノトス

(疑義) 登記官吏ヲ欺キ詐欺ノ登記ヲ爲サシメタル者ノ處分ニ付キ左ノ疑義アリ
 夫レ公式契約ヲ履行スル爲メ其權義ヲ官ノ公正簿冊ニ登記シタルモノハ則チ公ケノ證
 認ヲ得タルモノナリ故ニ既ニ廢セラレシ戸長ノ公證法ト云ヒ現行ノ登記法ト云ヒ其精
 神ハ全ク契約ヲ公示シ以テ世人ヲ保護シ彼ノ秘密契約ノ爲メニ害ヲ被ムルモノナカラ
 シメント欲スルニ在リ而シテ二法俱ニ其精神ヲ同フスルモノナルニ付其文書ノ調製式ニ
 於ル一ハ證書ニ與書制印スルヲ以テ公證ト爲シ一ハ登記簿ニ其契約ヲ登記スルヲ以テ
 公式ノ證ト爲ス此二者ノ法式差異アリト雖モ公式契約ノ効力ニ至テハ是亦俱ニ同一ナ
 リトス然ルニ其文書ヲ偽造變造セシ場合一ハ證書ニ公證アルヲ以テ本法第二百四條ヲ
 適用シ一ハ證書ニ公證ナキヲ以テ無罪トセン乎豈夫レ然ラサルヘシ何トナレハ公式契
 約ノ効力公示法ノ精神各同一ナルニ獨リ調成式ノ少シク異ル爲メ一ハ有罪トシ一ハ
 無罪トスルカ如キ甚タ大ナル不權衡ノ結果ヲ見ルヘシ試ニ登記官吏カ人民ト共謀シ詐
 欺ノ登記ヲ爲シ以テ他人ニ害ヲ與フル所爲アリシトセンニ其官吏ハ本法第四百條及ヒ
 第二百五條又ハ第二百三條ニ該當シ其人民モ亦同法第四百條及ヒ第二百三條ヲ適用シ
 罰セサルヲ得サルヘシ果シテ然ラハ登記官吏ヲ欺クニ足ルヘキ手段ヲ用ヒ官吏ヲシテ
 登記簿ニ詐僞ノ登記ヲ爲サシメタルモノ即チ官文書ヲ偽造セシムル者ハ本條ヲ適用シ
 處分スルヲ適當トセサル乎

(説明) 官吏ヲ欺クニ足ル可キ手段ヲ用ヒ官吏ヲシテ官文書ヲ偽造セシムルハ猶瘋癲

人ヲシテ他人ヲ殺傷セシムルト均シク其殺傷ニ手ヲ下シタルモノハ一ノ器械ヲ用ヒ
 過キサルヲ以テ刑法上ノ責ヲ受クルコトナキモ其手ヲ借リタル者即チ器械ヲ使用シテ人
 ヲ殺傷シタルモノハ其責ヲ免ルヘカラサルハ論ヲ竣タサルナリ由是考フレハ官吏ハ官
 文書ヲ偽造スルノ意思ナク一ノ器械トナリタルニ過キサルヲ以テ其罪ノ成立ツヘキ理
 ナシト雖モ其文書ヲ偽造セシメタルモノハ假令自己ノ手ヲ以テ爲シタルニ非サルモ器
 械ヲ使用シテ偽造シタルト異ナルコトナキヲ以テ其罪ヲ免ル可カラサルヲ知ルニ足ラン
 因テ官吏ヲ欺キ官文書ヲ偽造セシメ行使シタル者ハ本條ニ包含スヘキモノトス又官吏
 ヲ欺キ公証等ヲ爲サシメタル者ノ如キモ右ノ理由ニ依リ解釋スヘキハ論ヲ待タサルナ
 リ

(疑義) 本條ノ官ノ文書トハ都テ官衙ヨリ發スル文書ノ如クナルモ其旨意汎然トシテ
 如此解釋スレハ實ニ際涯無キニ至ルナリ之レヲ以テ例ヘハ官衙ヨリ人民ニ對スル達命
 令書等ノ其未タ人民ノ手ニ達セサル以上ヲ云フモノニシテ一タヒ人民ノ手ニ達スル以
 上ハ都テ自家ノ私有タレハ官ノ文書ノ限ニアラスルヘシ然ラハ即チ陸軍省ヨリ後備豫
 備ノ兵卒ニ下付スル証書警察署ヨリ監視人ニ下與スル旅券ノ如キモ其ノ兵卒監視人ニ
 下與スル以上ハ私ノ文書タルハ勿論ナルヘキ乎去レハ若シ兵卒ノ犯罪ノ爲メ其証書ヲ
 毀棄シ監視人ノ旅券ヲ毀棄スルノ事件ノ如キハ單ニ其結果タル罪ノミチ處分シ其目的
 ヲ達スル爲メニ文書ヲ毀棄シタル罪ハ問フヘカラサルモノナル歟

(説明) 監視旅券ノ如キハ元ト官署ノ調製ニ係ルモ既ニ人民ノ手ニ下付シタル後之ヲ毀棄スル時ハ官文書ヲ毀棄スルヲ以テ論ス可キ者ニアラス然レモ陸軍省後備豫備ノ違背スル時ハ第五百五十五條以下ニ依リ處分ス可キモノトス而シテ陸軍省後備豫備ノ兵卒ニ下付スル証書ノ如キ等シク官ノ調製ニ係ルモ已ニ下付シタル以上ハ猶ホ官文書毀棄ヲ以テ論スヘキモノニアラス而シテ召集 期ニ後ル、等ノコトアル時ハ陸軍刑法ニ依リ論スヘキモノトス

(疑義) 使丁小使脚夫等官衙往復ノ文書并ニ人民ニ通達スル書狀ヲ開封シ又ハ開封ノ後糊封シ故ノ如クナシタルモノハ毫モ毀損ノ狀ナキモ本條ニ依リ處分スヘキ者ナル歟
(説明) 官衙ヨリ發シタル書狀ヲ開封シタル時ハ毫モ毀損ノ狀ナキモ本條第二項ニ依リ處斷スヘキモノトス

(疑義) 茲ニ民事詞訟ヲ爲シ其訴狀副本ニ被告呼出狀ヲ添ヘ使丁ヲ以テ送達スヘキ處原告ノ願ニ依リ下ケ渡シタル後原告ハ他ハニ其送達方ヲ委託セシメ其委託ヲ受ケタル者ニ於テ訴狀副本呼出狀其封皮ニ藏メ表面ニ被告ノ名宛及ヒ側ニ送達賃金何錢ヲ拂フヘシト朱書シ裏面ニ某始審裁判所ト記載送達セシメテ遂ニ告訴セラレタル場合ニ於テハ右所爲ノ官ノ文書ヲ偽造セルモノトシ本條ニ依リ處分スヘキモノナル歟
(説明) 凡ソ文書偽造ノ罪ヲ構造スルノ原素中ニハ惡意即チ害ヲ他ヘ被ラシムルノ意及ヒ其所爲ニ因リ既ニ害ヲ生シ若クハ生スヘキノ推測アルヲ必要トス故ニ若シ其原素

ノ一チ欠クキハ乃チ偽造ノ罪ヲ成立セス是レ蓋シ一般ノ通論ナルヘシ果ノ然リトセハ本件ハ假令使丁ノ手ヲ經テ訴狀ヲ被一人ヘ送達セシメ原告人ヨリ他人ヲシテ之ヲ送達セシメシ時モ亦其賃金・訴訟入費ノ一部ナルヲ以テ曲者ノ擔當ニ歸スヘキモノナリ左スレハ追テ裁判確定ノ後被告人直者ト決シタルキハ其立替置キタル送達賃金・曲者タル原告人ヨリ償却ヲ受クルノ權理アルヘキニ付決シテ損失トナラサルヘシ是ニ因テ之ヲ觀レハ裁判所ノ名義ヲ以テ訴狀ノ皮封ニ賃金何錢ヲ拂フヘシト記載セシメ所爲ハ賃金ヲ詐取スル 惡意ニ出テシ者ニアラサルハ明白ナルノミナラス其所爲ニ因リ害ヲ生シ若クハ生スヘキノ理由モ亦之レナキモノナレハ文書偽造ノ罪ヲ成立スルノ基礎ヲ欠クモ、ナルヲ以テ本條ヲ適用スルノ限ニアラス

(疑義) 府縣曾ハ成法ニ於テ制定セラレタル者ニシテ官民ノ權利義務ニ關スルコト重且大ナリト謂フヘシ隨テ其會議筆記ハ將來ノ証左トナルヘキモノニシテ其重要ナルハ今亦辨ヲ俟タサル所ナリ然ルニ會議筆記ニ開會中曾テ議セシコトナキモノヲ議決セント記載シ又ハ之ヲ増減變換シタル者アルキハ無論本法第二百十條前項權利義務証書云々ニ依リ處分スヘキモノナル歟
亦前條ノ外若シ直接權利義務ニ關スルコトナント雖モ間接權利義務ニ影響ヲ及ホシ或之ヲ不問ニ付ス片ハ將來弊害ヲ醸生スル等ノ恐レアルモノハ同條末項私書云々ニ依リ處分スヘキヤ

(説明) 府縣會筆記ヲ偽造シタル者ハ本條ニ依リ處分スヘキモノトス

適例

○明治二十年五月五日判決 島根縣七族羽田榮治

(摘要) 自己及家族ノ名稱凡俗ナルヲ厭ヒ戸籍簿ニ登記アル名字ヲ變換スルモ文書變造罪ヲ組成セス

文書變造ノ罪ハ眞實ヲ變換スルコト害ヲ生スルヲ要意アルコトノ三要件ヲ具備スルニアラサレハ構成セサルモノトス本案被告カ所爲ハ擅ニ戸籍簿中ノ名字ヲ改竄シタルハ眞實ヲ變換スルノ事柄ニシテ害ヲ生スルモノタルハ言ヲ俟タズ素ヨリ善良ノ所爲ニアラサルナリ然レモ其意思ノ如何ヲ推究スレハ自己及家族ノ名凡俗ナルヲ厭ヒタルマテニシテ他ニ又那ノ意思ナキハ原判文證明シタル事實ニ依テ明瞭タリ果シテ然レハ惡意ノ一原素ヲ欠キタルモノニシテ其變換ノ罪ヲ構成セス刑法ノ制裁ヲ受クヘキモノニアラス然ルニ此惡意ノ一原素ヲ欠キタル事實ヲ認メナカラ官文書變換ノ刑ヲ適用シタルハ則チ擬律ヲ錯誤シタル不法ノ裁判ナリトス

○明治廿一年二月十日判決 千葉縣平民推名小鍋太郎

(摘要) 營所ノ名ヲ以テ罰金言渡書ヲ偽造シ及ヒ灸術免許鑑札ヲ偽造スルモ官文書偽造罪等ヲ以テ論ス可カラス即チ詐欺取財ノ方法ナリトス
上告ニ付密接スルニ佐倉營所ハ原ト罰金ノ言渡書爲シ又ハ灸術免許鑑札ヲ下渡ス等ノ

職權ヲ有スル官衙ニアラサレハ縱令該營所ノ名ヲ以テシタル罰金言渡及灸術免許鑑札ヲ偽造スルノ事實アルモ是レ唯詐欺取財ノ法タルニ外ナラス特ニ佐倉營所ハ之レカ爲メ社會ノ信用上何等ノ損害ヲモ生セサルモノナレハ其偽造罪ノ成立スヘキ理由アラサルナリ又官印盜用ノ如キモ亦是レ金員騙取方法中ノ一所爲ニ過キス己ニ其文書偽造罪ノ成立セサル上ハ其盜用モ何等ノ効果ヲ生セサルモノト看做シ得ヘケレハ官印盜用ノ罪モ成立セタリト謂フヲ得サルナリ (以下略之)

○明治廿一年四月十日判決 兵庫縣平民扇野幸兵衛

(摘要) 官文書偽造罪ニハ其文書ノ体裁アルコト及ヒ之ニ摸擬シタリト誘ムヘキ官署ノ用紙若クハ押印アルヲ要ス
立會檢事赤司欽一ノ意見ヲ聽キ以テ之ヲ審案スルニ被告人カ第一第二ノ論点ハ自己ノ附會說ヲ伸張シテ事實ノ認定ヲ批難スルニ過キスト雖モ擴張論旨ニ述ル如ク凡ソ官文書偽造ナルモノハ其文書ノ資格アルコト及ヒ之ニ摸擬シタリト看認ムヘキ官署ノ用紙若クハ押印アルヲ要ス本案原判文ヲ閱スルニ被告ハカ堀部市松へ渡シタル罰金ト納ノ受領証三通ハ輕罪書記局トノミアリテ之ニ押印シタル印ハ兵庫書記局ト記セル印判トアリ且其印判ハ被告人ニ還付ストノ言渡アレハ無論犯罪ノ用ニ立タサル者ト認メタル者ナリ然レハ則チ該受領証ナルモノハ官文書ノ性格ヲ具備セスシテ被告人カ市松ヨリ神戸輕罪裁判所へ上納ノ委託ヲ受ケタル罰金ヲ騙取スルノ手段ニ用サタル一片紙ノ文書

タルニ外ナテサルヲ明晰タリ然ルチ官文書偽造ノ罪アリトナシ刑法第二百三條ヲ適用シタルハ擬律錯誤ノ裁判ニシテ上告ノ理由アル者ト判定ス

○明治廿一年十一月六日判決 崎玉縣平民鉢須茂吉

(摘要) 詐言ヲ用テ保証人ニ押印セシムルモ私印盗用罪ハ構成セス

印鑑等ノ証明願書ヲ作り戸長ヲ欺キ証明ヲ爲サシメタル所爲ハ公証文書偽造罪ナリ前今原判文ヲ閱スルニ被告カ川久保市太郎ノ宅地ヲ横奪セントシ市太郎ノ復歸届地所賣買証登記願書地所及ヒ印鑑証明書等ヲ偽造シ之レニ市太郎ノ實印ヲ盗用シテ行使シ以テ内田廣吉ヲシテ川久保市太郎ト詐稱セシメ登記官ヲ欺キ虚偽ノ登記ヲ爲シ郡長ヲ欺キ地券ヲ變換シテ遂ニ目的ノ如ク該宅地ヲ騙取シタル事實ヲ確認シ之レカ各証憑ヲ明示アリテ加害ノ意思及ヒ害ヲ與ヘタル事明カナルヲ以テ原檢事ノ附帶上告モ相立サレモノナリ又市太郎ノ實印ハ被告カ豫メ預リ暗キタルヲ取出シ擅ニ押捺シタルモノナレハ其盗用ハ別ニ手段ヲ要セサルニ付代理人擴張第一点モ相立タス然レ上告第一擴張第二ノ論點タル各証人ノ押印ハ被告自ラ盜捺セシニラアス故ニ假令被告カ詐言ヲ用ユルモ其押印ハ各証人承諾ノ上押捺シタルモノナレハ私印盗用罪ヲ構成スヘキ事實ニアラス然ルニ之ニ對シ刑法第二百八條ヲ適用セシハ擬律錯誤ナリ又地所及ヒ印鑑証明願書ヲ作り戸長ヲ欺瞞シ之ニ証明ヲ爲サシメタルハ即チ公証文書偽造ノ事實ナルニ之ヲ刑法第二百十條第二項ノ私書偽造ニ問ハタルハ是亦擬律錯誤ニシテ擴張第三點ハ其理

由アルモノナリ

○明治廿一年十一月九日判決 高知縣平民熊田源太郎

(摘要) 戸長カ發シタル租稅領收証ヲ變換行使シタルモノハ官文書變造罪ヲ以テ處斷スヘシ

上告ニ付審案スルニ本件領收証ハ戸長カ租稅ヲ領取シタルニ付發付シタル證書ニシテ被告人カ言フ如ク保証書ナリトスルモ官吏カ職務上作爲シタル文書ナレハ其官文書タルハ論ヲ俟タス而シテ租稅納付ノ義務ヲ免脱センカ爲メ變ニ受領シタル領收書アルチ奇貨トシ其文字ヲ描改シテ新タニ受領シタル領收書ナリト詐リ戸長ニ差出シタル上ハ官文書變造行使ノ罪ヲ構成スヘキハ亦論ヲ俟タルナリ故ニ刑法第二百三條ヲ適用シ處斷シタルハ相當ニノ上告論旨ハ原由ナキモノトス

第二百四條 公債証書地券其他官吏ノ公証シタル文書ヲ偽造シ又ハ

増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

若シ無記名ノ公債証書ニ係ル時ハ一等ヲ加フ

(疑義) 海外旅行券ヲ所持スル者其券面ノ年月ヲ増減變換等ノ所爲アルモノハ本條ニ依リ處分スヘキヤ

(說明) 元來旅行券ノ性質タル外國ニ於テ日本臣民タルヲ証明スルモノニシテ即チ

之ヲ下付シタル以上ハ之レヲ受ケタル者ノ所有ニ同シキモノナレハ假令ヒ之カ券面ノ年月増減等ノ所爲アルモ本條ニ依リ處分スヘキモノニアラサルナリ

(疑義) 茲ニ甲ナル女戸主アリ其親戚(從弟)乙ハ情義上ヨリ常ニ甲家ニ出入家事ニ干與シ居リシニ甲ニ於テ所有ノ地券狀并ニ實印ヲ都合アリテ他ノ親戚ニ預ケ方チ乙ニ托シタルヲ以テ乙ハ地券証等ノ手裏ニ入ルヤ忽チ惡意ヲ生シ右地所ヲ己ノ所有ト爲サント欲シ甲ヨリ乙ニ對スル賣渡証ヲ偽造シ甲ノ名下ニハ其實印ヲ盜用シ而シテ甲ノ代人ト偽リ登記法第四十條及ヒ登記請求手續第三條ノ定規ニ從ヒ所轄戸長ニ印鑑及ヒ地所ノ証明書ヲ請ヒ登記所ニ提出シ登記ヲ受ケタリ右乙ノ所爲ハ私書偽造行使及私印盜用罪ノミカ將タ戸長及ヒ登記官ヲ欺キ証明書ヲ交付セシメ又ハ詐欺ノ登記ヲ受タル如キモ所謂欺クニ足ルヘキ手段ヲ用ヒ官吏チノ官文書ヲ偽造セシメタル者トシ證明書ヲ交付セシメタルハ本條ニ依リ詐欺ノ登記ヲ爲サシメタルハ前第二百三條ヲ適用スヘキヤ

(說明) 前段ノ場合ハ私書偽造私印盜用ノ罪ヲ問フノ外尙ホ官文書偽造及私書偽造ノ罪ヲ以テ論スヘキモノトス

(疑義) 甲ナル者乙ノ地所ヲ他人ニ賣ラント欲シ乙カ不用ノ印ヲ盜用シ地所賣渡給理ノ委任狀ヲ作り又其印ヲ用テ地所賣渡契約書ヲ作り而シテ其印ヲ以テ戸長ニ願ヒ印鑑保證書ヲ受ケケル^{戸長ニ失}之ヲ登記所ニ出シ賣買ヲ登記簿ニ記載シ賣買ヲ遂ケタリ右印鑑保證書ヲ爲サシメタル^{錯アリ}及ヒ公証ヲ記セシメタル所爲ハ本條ニ該當スルモノナルヤ

適例

○明治十九年四月十三日判決 山梨縣士族渡邊正

(摘要) 訴訟代人願書ノ公証ヲ偽造スルモ公証文書偽造罪ニアラス刑法第二百十條二項ヲ以テ處斷スヘシ

抑モ刑法第二百四條ニ依リ官吏ノ公証シタル文書ヲ偽造行使シタルモノチ重罪ニ入ルハ其明文ニアル如ク公債証書地券ハ勿論其他之ニ次キ社會公衆ノ權義上ニ關シ危害稍大ナルモノ即チ不動産賣買讓與又ハ質入書入等登記ヲ必要トスルノ類ニ限ルモノトナサ、ルヘカラス故ニ勸解出願ノ代人願書ニ戸長ノ與書ヲ要スルカ如キハ等シク之ヲ戸長ノ職務ヲ以テ爲ス可キモノナレ是レ唯其勸解應ニ對シ代人ノ屬籍ヲ証明スルマデニ止ルモノニシテ一般公衆ノ權義ニ關スルモノト同日ヲ以テ論スヘキモノニアラサルヲ多言ヲ俟タスシテ明カナレハ原裁判所ニ於テ之ヲ官文書偽造トナサスシテ刑法第二百十條第二項ヲ適用シタルハ固ニ其當ヲ得タルモノニシテ決シテ擬律錯誤ト云フヲ得ス

○明治二十年十一月十九日判決 千葉縣平民大塚政右衛門

(摘要) 偽造シタル私書へ公證ヲ偽造シタル場合ニ於テハ官文書偽造ノ一罪ナリトス
 前戸長ノ公證アル證書ヲ偽造シタル場合ハ其偽造ノ公證ニ與書ノ部ニ係ルト其以前即チ契約書ノ部分ニ係ルトナ問ハス單ニ刑法第二百四條ノ支配ニ歸スヘキ者ニアラス何トナレハ其證書ハ全部相俵テ一ノ官文書即チ公正證書ト稱ス可キモノニテ分ツ可キモノニアラサレハナリ然ルニ原裁判所ニ於テ之ヲ二個ニ區分シテ處斷シタルハ被告カ上告第二旨告ノ如ク擬律ノ錯誤タルヲ免レサルモノニシテ治罪法第四百十條第十項ニ適合スルモノトス

○明治廿一年十二月十五日判決 山形縣平民土井五郎七外二名

(摘要) 地所証明願書ヲ偽造シ之ニ他人ノ實印ヲ盗用シ戸長ヲ欺キ公証ヲ爲サシムルモ之ヲ登記所ニ使用セサレハ公証偽造罪ハ勿論私書偽造私印盗用罪モ組成セス
 大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ立會檢事山田喜之助ハ本件第一ノ所爲タル私書ト官文書トハ相待テ一罪ヲ組成スルモノナリ然ルキハ其公証文書偽造行使官印盗用罪ヲ組成セスト爲シタル上ハ私文書偽造罪ノ無効ニ歸スルハ論ヲ俟タサルナリ故ニ第一ノ所爲ハ無罪ヲ言渡スヘキニ私文書偽造罪ニ問擬シタルハ失當ナルコト付附帶上告シテ破毀ヲ求ムト云ヘリ因テ原裁判言渡書ヲ閱スルニ被告三名ノ第一ノ所爲中戸長代理今泉善藏ヲ欺キ地所証明願書ニ公証ヲ爲シ戸長役場印ヲ押サシメタルモ

該文書ハ所轄登記所執務時間後持參シ未タ使用ニ着手セサルヲ以テ公証文書偽造行使官印盗用ノ豫備ニ止マルモノトシ無罪ヲ言渡シナカラ五郎治ノ地所証明願書ヲ偽造シテ戸長役場へ差出シタル所爲ヲ刑法第二百十條第二項同第二百八條第二項等ニ依リ處斷シタルハ不法ナリ何トナレハ官文書偽造罪ト私書偽造罪トハ相待テ一罪ヲ組成スルモノニシテ官文書偽造罪カ豫備ノ所爲ニ歸スレハ從テ私書偽造私印盗用ハ無効ニ屬スレハナリ然ルニ之ヲ分離シテ其一部ヲ有罪トナシタルハ治罪法第四百十條第十項ニ該當スル擬律錯誤ノ裁判タルヲ免レス

○明治二十年十二月廿七日判決 神奈川縣士族井上内藏外一名

(摘要) 無實ノ事ヲ構造シ身分ヲ詐稱シテ入籍願書ヲ作り戸長ヲ欺瞞シ其與書ヲ得テ郡長へ差出入籍認可ノ指令ヲ得タル所爲ハ身分詐稱ヲ以テ處斷ス可キ官文書偽造以テテ論ス可キモノニアラス
 刑法第二百四條ニ規定セラレタル官吏ノ公證シタル文書トハ其明文ノ如ク公債證書地券ハ勿論地所建物ノ質入書入又ハ賣買讓與等各其規則ニ從ヒ相當官吏ノ公證ヲ得テ其効力ヲ生セシムル證書類ヲ指稱スルノ謂ニシテ本案脱漏入籍願書與印調印ノ如キハ之ヲ郡長ニ差出シ唯其ノ認可ヲ得ルニ止マルモノナレハ之ヲ以テ右ノ法律ニ定メラレタル公證文書トハ云フヲ得サルニ付該與書調印ヲ視テ官吏ノ公證ト做ス上告欺意ハ其當ヲ得ス又刑法第二百三十一條ヲ以テ被告ヲ各々罰金ニ處シタルヲ不當ト訴フルモ違ハ

前掲原裁判所ノ認定シタル事實ニ妥當ナル法律ノ適用ニシテ又裁判所ヲ以テ理由不備
 或ハ一件再理トスルモ其一ハ原判文ヲ通讀セハ乃チ其文書ヲ以テ詐稱シタルノ理由ハ
 自ラ明ニシテ其二ハ上告者モ自唱スル如ク豫審ニ於テ免訴セハ私書偽造ノ廉トアリテ
 身分詐稱ノ被告事件ニアラサレハ相立タル上告趣意ニシテ又本院立會檢事ノ擴張論
 旨ナル刑法第二百四條云々ノ点ハ已ニ與ヘタル辨明ノ如クニシテ刑法第二百四條ノ制
 裁外ニ屬スルモノトセハ原裁判相當ニシテ擬律ヲ誤リタルモノニアラストス

○明治廿二年六月七日判決 岐阜縣平民田中惠景

(摘要) 登記所ニ於テ爲ス可キ公證ヲ戸長役場ノ名義ニテ該公證ヲ偽造スルモ公證偽
 造罪ヲ以テ論ス可キ限リニアラス

前原裁判所ハ被告カ近藤東四郎ヨリ金圓ヲ借入ル、ニ臨ミ四郷村外三ヶ村戸長役場ニ
 於テ與書シタル体ノ文言ヲ記入シ其證書ニ役場印ヲ捺シタル所爲ニ對シ刑法第二百
 四條其他ノ法條ヲ適用シ以テ處斷シタリ然レモ公證ハ登記法實施後ニ在テハ登記役所
 ニ於テ之ヲ爲スヘキモノナルヲ勿論ナレハ縱令ヒ戸長役場ノ公證ヲ偽造シタリトテ法
 律上無効ナルモノトス其無効ナル公證ヲ偽造シ且該證書ヲ偽造セシカ爲メ役場印ヲ盜
 用シタルモ法律ニ所謂公證偽造又ハ官盜印用罪ヲ構成ス可キモノニアラサルカ故戸長
 ノ公證ヲ偽造シタルハ無効ナリトノ上告論旨ハ至當ナリトス然ルニ原裁判所カ被告カ
 四郷村外三ヶ村戸長役場ノ公證ヲ偽造シ又役場印ヲ盜用シタル所爲ニ對シ刑法第二百

四條全第九十七條第九十五條及ヒ第二百六條等ヲ適用シ以テ處斷シタルハ治罪法
 第四百十條第十項ニ該當スル被毀ノ原由アルモノトス

○明治廿二年十月十一日判決 兵庫縣平民森恒三

(摘要) 公證偽造罪ニハ官印ノ捺捺ヲ要ス故ニ必ス官印盜用等ノ罪ヲモ相伴フモノト
 ス若シ之ニ反スル場合 於テハ公證偽造罪組收スヘキモノニアラス

原判文ヲ閱スルニ第六第七中ニ戸長増田九馬次ヲ欺キ其公證ヲ爲サシメ云々ト而已
 アリテ之ニ官印ヲ捺捺シタルヤ否ヤノ理由ヲ付セサルハ本院檢事附帶上告ノ如ク事實
 理由ヲ欠キタル裁判ナリトス何者戸長ノ公證ニハ必ス官印ヲ要ス可キ者ナレハ其公證
 中ニ官印ヲ捺捺セシメタルハ尙ホ官印盜用罪ヲモ組成スヘク若シ之ニ反シテ官印押
 捺ナキハ其公證タルノ効ナキモノナル可シ故ニ本案ニ於テ官印捺捺ノ有無ハ最モ必
 要ノ事實ナルニ原裁判所カ之ヲ明示セサルヲ以テナリ

第二百五條 官吏其管掌ニ係ル文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使

シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

其文書ヲ毀棄シタル者亦同シ

(疑義) 茲ニ甲ナル戸長アリ乙ノ子丙ノ徵兵ヲ免カレシメントノ希望ヨリ乙ニ教唆シ
 醫師丁ヲ滿着メ丙ノ死亡証ヲ造ラシメ乙チノ管轄戸長役場(則甲ノ住所)ニ差出サシメ

戸籍簿ヲ削除シ而シテ用係成ニ命シ死亡承認證ヲ造ラシメ官印ヲ押捺シ之ヲ或ル寺院ニ送付シ司葬者ニ證印ヲナサシメ之ヲ領收シタリ(僧侶ニ押印ヲナサシムルニ冗長ナル事情アルモ質問ニ必用ナキヲ以テ略)而シテ其承認證ニ添フル死亡届書ニ官姓名官印ヲ押捺シテ之ヲ所轄郡長ニ届出タル事實ナリ(郡長ニ差出スハ戸長役場ノ規程ナリト云フ)然レハ甲者ノ醫師ニ死亡届書ヲ認メサセ又死亡承認證ヲ偽造セシメ之ヲ行使シ官印盜用戸籍簿變換シタル所爲ニ對シ法律ノ制裁ハ別ニ疑ナキモ承認證ヲ添ヘ死亡届ヲ郡長ニ差出シタル所爲ニ對シテ左ノ兩説アリ何レニ決スヘキヤ

第一 郡長ヘノ届書ハ己ニ司葬者ノ證印ヲ受ケ戸籍ヲ削除シ己ノ目的ヲ遂ケタル後ニテ只其結果ヲ報スルニ過ス且ツ死亡届ヲ受理シタル上ハ必ス爲サ、ルヲ得サル手續ニシテ竊盜ヲナスカ爲メ人ノ邸宅ニ入ルモ家宅侵入罪ヲ構成セサルト一班吏ニ一罪ヲ構成スルモノニアラスト

第二 假令結果ヲ報スルニ過キス且ツ爲サ、ルヲ得サル手續ナルモ更ニ進テ一所爲ヲナシタルモノナリ而シテ該届書ニ依リ人民死生調理上ニ紊亂ヲ生スル害アレハ則レ刑ヲ免カル、爲ニナシタルモノニテ更ニ一罪ヲ構成スヘキモノナリ

(説明) 戸長其ノ管ナル戸籍簿ニ詐欺ノ記入ヲ爲シ人ヲシテ死亡承認證ヲ作ラシメ又更ニ死亡届書ヲ作り之ヲ所轄郡長ニ差出シタル所爲其後ノ官文書偽造ハ前ノ官文書偽造ト別離シ更ニ一罪ヲ爲ス可キモノトス之レヲ以テ第二説ヲ可トス

第二百六條 官ノ文書ヲ偽造スルニ因テ官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタル者ハ偽造官印ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

(疑義) 茲ニ或官署ニ奉職中該官署ト銀行トノ間ニ使用スヘキ金額振出シ切符ノ用紙ヲ竊取シ之ニ官署ノ印ヲ捺シ未タ金額番號等ヲ記載セス其儘所持シ居タルニ尋テ免職トナリタル後更ニ犯罪事件ニテ家宅搜索中之ヲ發見シタリ然ルニ被告ハ機ヲ以テ銀行ヲ欺キ金額ヲ詐取セントノ意思ニテ今猶所持セシナリト云フ右ハ竊盜及官印盜用ノ点ヲ罰スヘキモノナル乎

(説明) 本條末段ニ盜用シタルモノトアルハ蓋シ只官印ヲ盜捺シタルノミニアラスシテ其盜捺シタルモノヲ以テ文書等ヲ偽作シ之ヲ使用シテ始メテ犯罪ヲ成立スルノ精神ナルヲ以テ本問ノ如ク既ニ印影ヲ盜捺シタル者ハ使用ノ未遂犯トシテ論スヘク又該切符ノ如キハ殆ント無價同様ニ見做スヘキ者ニシテ損害ヲ生スルニ至ラサルニヨリ竊盜ヲ以テ論セサルヲ穩當ナリトス

適例

○明治十九年四月廿二日判決 愛知縣平民磯員駒吉
 (摘要) 戸長ノ官印ヲ付ケ木ニテ輪廓ヲ作り文字ヲ筆ニテ描キシ所爲ハ官印偽造罪ナシト雖モ爲メニ公證ヲ偽造シタルニ於テハ其罪ヲ免ル可カラズ
 原檢察官カ附帶上告論旨ニ依リ原判文及ヒ一件書類ヲ閱スルニ被告ハ鳥居市助等カ青

山ギンノ所有地ヲ抵當ト爲シ鳥居市助ヲ擅ニ受人トシ戸長加藤文平ノ與書ヲ作爲シ半助名下ニ同人ノ實印ヲ盗用シ之ヲ七五郎ニ差入レ金圓騙取スル情ヲ知テ該證書全文ヲ筆記シ戸長加藤文平名下ニ戸長ノ印ヲ筆ニテ描キシヲ以テ市助等ハ其證書ヲ行使シタルモノナリ然レハ則チ被告ハ公證文書偽造行使ノ罪ハ現ニ犯シタル者ト云ハサルヲ得ス故ニ正犯ヲ以テ處斷スヘキモノナルニ原裁判所ハ之レヲ從犯ト爲シタルハ附帶上告論旨ノ如ク擬律錯誤ノ裁判ナリトス而シテ官印偽造ノ点ニ至テハ正犯ハ素ヨリ從犯ト云フヘキモノニアラサルナリ何トナレハ前ニ掲ケル如ク戸長加藤文平ノ印ヲ偽造シタルニアラス付ケ木ニテ輪廓ヲ作り其内ニ筆ヲ描キシ者ナレハ官印偽造ヲ以テ論スル限リニ非ラサレハナリ然ルニ之ヲ官印偽造ノ從犯ト爲シ處斷シタルハ代言人カ擴張論旨ノ如ク是亦擬律錯誤ノ裁判ナリトス

○明治廿一年五月廿六日判決 崎玉縣平民並木重次郎

(摘要) 官印ヲ朱墨ニテ偽造スルモ官印偽造ヲ以テ論ス可カラス即チ詐欺取財ノ手段ナリ又官文書ヲ偽造シ之ヲ目的の人ニ示シタルノミニテハ使用ト云フヲ得ス
 原判文ヲ鑑査スルニ略且ツ知事ノ官印ト同様ナル影跡ヲ朱墨ヲ以テ書シ全ク官印ヲ押捺シタル如クニ偽造シ又契印ニハ課ノ一字ヲ印ノ如ク朱書シ金員受領書ニモ前全様ノ手段ヲ以テ府知事ノ官印ヲ書シ云々トアリ其事實ニ因テ觀ル時ハ印類ヲ偽造シタルニアラス止タ朱墨ヲ以テ官印全様ナル影跡ヲ書シタルモノナレハ官文書偽造ノ手段ト云

フヲ得ヘキモ之ヲ以テ官印偽造ノ所爲アルモノト云フヲ得ス然ルニ原判官ハ朱墨ヲ以テ書キタル事實ヲ認定シナカラ官印偽造罪トシテ處斷シタルハ擬律ニ錯誤アルヲ免カレサルモノニシテ代言人擴張論旨ハ其理由アリトス而シテ官文書偽造罪ノ事實ヲ鑑査スルニ被告ハ官有地拂下ケ願書ヲ作り之レニ明治十八年五月十二日付東京府知事芳川顯正カ許可シタル趣ノ指令書及ヒ金員受領書ヲ偽造シ之ヲ窪田藍溪全義恭ニ示シ信認セシメタルモノニシテ官文書偽造シタル手續ハ明瞭ナリト雖モ其行使ノ事實點ニ至ツテハ原判文事實記載ノ末段ニ於テ單ニ窪田藍溪全義恭等ニ示シ信認セシメシトアリテ所謂詐欺取財ノ目的ヲ遂クル爲メ藍溪義恭ニ示シ信認ヲ得タル迄ニ過キスシテ該證書ヲ使用シタルモノニアラス果シテ然ラハ官文書偽造罪ニ尤モ必要ナル行使ノ條件ヲ具備セサルモノナルニ直チニ進ンテ官文書偽造行使ナリトシテ罰シタルハ是亦擬律錯誤ヲ免カレサルモノトス

○明治廿二年十一月十五日判決 千葉縣平民吉野櫻

(摘要) 偽造證書ヲ被害者ニ還付スルモ被告人ノ利害ニ影響ナキ時ハ上告ノ原由ト爲スニ足ラス

上告第一論旨原判文ニ戸長代理筆生神崎仙太郎ニ對シ地所ニハ不都合ナシト欺キ云々トアリテ戸長代理ヲシテ信用ヲ置カシメ以テ官印ノ押捺ヲ得タルモノニシテ官印盗用ノ事實ハ之レヲ以テ充分ナリトス第二原裁判ハ刑法第二百六條ノ規定ニ從ヒ一ノ重キ

官印盗用罪ヲ以テ論シタルモノニシテ此場合別ニ數罪俱發例ヲ引用スルヲ要スヘキニ
アラス第三村田米重郎宛金四十圓ノ借用金證ハ不正ニ成立タルモノナリト雖モ之ヲ還
付シ又ハ沒收スルモ被告人ノ利害ニ影響ヲ及ホスモノニアラサルヲ以テ上告ノ理由ト
爲スヲ得ス

第二百七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ減輕ニ因テ輕罪ノ刑ニ處ス
ル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第四節 私印私書ヲ偽造スル罪

第二百八條 他人ノ私印ヲ偽造シテ使用シタル者ハ六月以上五年以
下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
若シ他人ノ印影ヲ盗用シタル者ハ一等ヲ減ス

(疑義) 茲ニ神札ヲ製シ其表面ニ大國主神御璽及宮司ノ印裏面ニハ大社ノ印トシタル
印ノ偽造行使シタルモノアリ右ノ内宮司ノ印トアルハ官名ヲ掲ケタルモノナルヲ以テ
官印偽造トシ處分スヘキヤ

(說明) 右ハ恰モ伊勢神宮司廳ノ印ヲ偽造シタル者ト同ク素ト人民ノ信用上ヨリ成立
シタル所ノ神社神主ノ印ナルヲ以テ本條ニ依リ處分スヘキヲ正當ナリトス

(疑義) 甲者乙者ヨリ金員ヲ騙取スルノ目的ニテ竊カニ乙者ノ印影ヲ白紙ニ盜捺シ之
ヲ以テ乙者ニ金員ヲ貸與ヘタルカ如キ證書ヲ作爲シ乙者及其他ノ者ヘモ示サ、ル中事
發覺セリ此場合ニ於テ甲者ノ處分如何

(說明) 甲者ハ他人ノ印影ヲ盜捺シタルモノナリト雖モ未タ使用セサル前ニ於テ發覺
シタルヲ以テ本條第二項ノ未遂犯トシ處分セサルヘカラサルナリ

(疑義) 本條他人ノ私印ヲ偽造シテ使用シタル者云々トハ私印ノ偽造己ニ成リ而シテ
書類ヲ偽造シ之レニ押用セシ如キハ總テ使用シタル者トナシテ處斷シ得ヘキヤ將タ其
書類行使スルニ非サレハ使用ヲ以テ論スルノ限リニアラサル乎

又第二百九條及ヒ第二百十條ニ記載アル證書ヲ偽造シ而シテ之レヲ他人ニ示シ或ハ其
義務ヲ法衙ニ請求セシ如キ事ノ成否及ヒ其判決ノ如何ニ不抱兩條ノ既遂犯即チ行使シ
タル者ト爲シテ處分ス可キ歟將タ其未タ結果ヲ得サル限リハ未遂犯ヲ以テ論ス可キモ
ノナルヤ

(說明) 偽造證書ヲ證據トナシ裁判所ヘ差出スモ未タ裁判結了セサル間ハ未遂犯ニシ
テ既ニ裁判結了シ直者タルノ言渡アリタル上ハ己遂犯ナリトノ說ヲナスモノ多シト雖
モ已ニ裁判所ニ偽造證書ヲ提出セシ上ハ行使ヲ以テ論セサルベカラス彼銀行手形ノ如
キヲ偽造シ其銀行ニ至リテ之ヲ示シ金圓ヲ受取ラントシテ偽造タルヲ發覺セラレタル
片ハ則チ已ニ行使シタル者ト爲サルベカラス此ヲ以テ推ス時ハ裁判所ニ訴出タル以上

ハ行使已遂ト爲サ、ルヲ得ス若シ該犯其目的ヲ遂ケタルキハ偽造ト詐欺ノ二罪ヲ犯ス者ナリ之レヲ以テ本疑義ノ前段ハ其書類ヲ行使スルニ非サレハ使用ヲ以テ論スルノ限ニアラストシ後段ハ事ノ或否及ヒ其判決ノ如何ニ不抱他人ニ示シ或ハ其義務ヲ法衛ニ請求セシキハ行使既遂ヲ以テ論スヘキモノトス

適例

○明治廿年四月廿七日判決 兵庫縣平民山口仙吉

(摘要) 曾テ預リ置キタル押印ノ白紙ヲ利用シテ證書偽造スルモ印影盜用罪ヲ構成セス

右ノ偽造證書ヲ以テ勸解ヲ出願シタル片ハ詐欺取財未遂ナリトス
案スルニ印影盜用罪ニ付法律上ノ理論ニ於テ原檢察官カ上告論旨ノ第一ニ於テ論スル所ハ敢テ不當ト云フヲ得ス然レモ控訴判文ヲ觀ルニ上略六左衛門ノ代人トナリ明石治安裁判所ニ出頭ノ際該事件豫備ノ爲メ六左衛門ヨリ同人實印押捺ノ白紙一葉ヲ預リ置キ當時不用ニ屬シタルヲ返戻セス其儘所持シタルヲ奇貨トシ云々トアリテ其白紙ヲ不正ノ所爲ニ使用シタルハ善良ノ所爲ニアラサルハ言ヲ俟タサルナリ然レモ印影盜用ノ罪ハ使用シタルノ條件アルノミヲ以テ足レリトセス使用ノ外尙ホ所有主ノ承諾ナキニ私擅ニ押捺シタルノ條件具備セサルヘカラス本件ノ如キハ此一條件ヲ欠キタルモノナレハ其所爲ハ唯貸金証書偽造方法中ノ一所爲タルニ過キサルモノナリ故ニ本案ハ印影盜

用ノ罪組成セサルモノトシタルハ相當ニシテ上告第一ノ趣旨ハ相立タサルモノトス其第二ノ趣旨ハ偽造ノ證書ヲ以テ勸解ニ出頭シタル如キハ詐欺取財未遂ノ罪ハ成立セスト云フコ在レモ貸金アルカ如ク事實ヲ捏造シテ證書ヲ偽造シ之ヲ以テ勸解ニ出願シタルハ即チ其金額ヲ收受スル爲メニシテ既ニ其目的トシタル事物ニ着手シタルモノナレハ之ヲ詐欺取財未遂ノ場合ニアラスト云フヲ得ス故ニ第二ノ趣旨モ相立タサルモノトス

○明治廿二年三月十五日判決 岡山縣平民河合木代藏

(摘要) 他人カ印影ヲ盜捺シタル偽造證書ヲ貰ヒ受ケ之ヲ使用シタルモノハ私印盜用罪ヲ以テ處斷ス

私印盜用トハ他人ノ印影ヲ盜捺シ之ヲ使用シタルノ謂ヒニシテ單ニ盜捺シタルノミノ謂ニアラス本件被告人ハ佐藤某カ曾テ中山五平ノ印影ヲ盜捺シ以テ偽造セシ證書ナルヲ知テ之ヲ貰ヒ受ケ之ヲ使用シタルモノナレハ其事實ニ對シ刑法第二百八條第二項ヲ適用シタルハ相當ニシテ決シテ擬律ノ錯誤ニアラサルナリ(以下略之)

第二百九條 爲替手形其他裏書ヲ以テ賣買ス可キ証書若クハ金額ト交換ス可キ約定手形ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

官印盗用罪ヲ以テ論シタルモノニシテ此場合別ニ數罪俱發例ヲ引用スルヲ要スヘキニ
アラズ第三村田米重郎宛金四十圓ノ借用金證ハ不正ニ成立タルモノナリト雖モ之ヲ還
付シ又ハ沒收スルモ被告人ノ利害ニ影響ヲ及ホスモノニアラサルヲ以テ上告ノ原由ト
爲スヲ得ス

第二百七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ減輕ニ因テ輕罪ノ刑ニ處ス
ル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第四節 私印私書ヲ偽造スル罪

第二百八條 他人ノ私印ヲ偽造シテ使用シタル者ハ六月以上五年以
下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
若シ他人ノ印影ヲ盗用シタル者ハ一等ヲ減ス

(疑義) 茲ニ神札ヲ製シ其表面ニ大國主神御璽及宮司ノ印裏面ニハ大社ノ印トシタル
印 偽造行使シタルモノアリ右ノ内宮司ノ印トアルハ官名ヲ掲ケタルモノナルヲ以テ
官印偽造トシ處分スヘキヤ

(說明) 右ハ恰モ伊勢神宮司廳ノ印ヲ偽造シタル者ト同ク素ト人民ノ信用上ヨリ成立
シタル所ノ神社神主ノ印ナルヲ以テ本條ニ依リ處分スヘキ正當ナリトス

(疑義) 甲者乙者ヨリ金員ヲ騙取スルノ目的ニテ竊カニ乙者ノ印影ヲ白紙ニ盜捺シ之
ヲ以テ乙者ニ金員ヲ貸與ヘタルカ如キ證書ヲ作爲シ乙者及其他ノ者ヘモ示サ、ル中事
發覺セリ此場合ニ於テ甲者ノ處分如何

(說明) 甲者ハ他人ノ印影ヲ盜捺シタルモノナリト雖モ未タ使用セサル前ニ於テ發覺
シタルヲ以テ本條第二項ノ未遂犯トシ處分セサルヘカヲサルナリ

(疑義) 本條他人ノ私印ヲ偽造シテ使用シタル者云々トハ私印ノ偽造己ニ成リ而シテ
書類ヲ偽造シ之レニ押用セシ如キハ總テ使用シタル者トナシテ處斷シ得ヘキヤ將タ其
書類行使スルニ非サレハ使用ヲ以テ論スルノ限リニアラサル乎

又第二百九條及ヒ第二百十條ニ記載アル證書ヲ偽造シ而シテ之レヲ他人ニ示シ或ハ其
義務ヲ法衙ニ請求セシ如キ事ノ成否及ヒ其判決ノ如何ニ不抱兩條ノ既遂犯即チ行使シ
タル者ト爲シテ處分ス可キ歟將タ其未タ結果ヲ得サル限リハ未遂犯ヲ以テ論ス可キモ
ノナルヤ

(說明) 偽造證書ヲ證據トナシ裁判所ヘ差出スモ未タ裁判結了セサル間ハ未遂犯ニシ
テ既ニ裁判結了シ直者タルノ言渡アリタル上ハ已遂犯ナリトノ說ヲナスモノ多シト雖
モ已ニ裁判所ニ偽造證書ヲ提出セシ上ハ行使ヲ以テ論セサルベカラス彼銀行手形ノ如
キヲ偽造シ其銀行ニ至リテ之ヲ示シ金圓ヲ受取ラントシテ偽造タルヲ發覺セラレタル
片ハ則チ已ニ行使シタル者ト爲サルベラカス此ヲ以テ推ス時ハ裁判所ニ訴出タル以上

ハ行使已遂ト爲サ、ルヲ得ス若シ該犯其目的ヲ遂ケタルハ偽造ト詐欺ノ二罪ヲ犯ス者ナリ之レヲ以テ本疑義ノ前段ハ其書類ヲ行使スルニ非サレハ使用ヲ以テ論スルノ限ニアラストシ後段ハ事ノ或否及ヒ其判決ノ如何ニ不抱他人ニ示シ或ハ其義務ヲ法衛ニ請求セシキハ行使既遂ヲ以テ論スヘキモノトス

適例

○明治廿年四月廿七日判決 兵庫縣平民山口仙吉

(摘要) 曾テ預リ置キタル押印ノ白紙ヲ利用シテ證書偽造スルモ印影盜用罪ヲ構成セス

右ノ偽造證書ヲ以テ勸解ヲ出願シタルハ詐欺取財未遂ナリトス
案スルニ印影盜用罪ニ付法律上ノ理論ニ於テ原檢察官カ上告論旨ノ第一ニ於テ論スル所ハ敢テ不當ト云フヲ得ス然レモ控訴判文ヲ觀ルニ略六左衛門ノ代人トナリ明石治安裁判所ニ出頭ノ際該事件豫備ノ爲メ六左衛門ヨリ同人實印押捺ノ白紙一葉ヲ預リ置キ當時不用ニ屬シタルヲ返戻セス其儘所持シタルヲ奇貨トシ云々トアリテ其白紙ヲ不正ノ所爲ニ使用シタルハ善良ノ所爲ニアラスハ言ヲ俟タサルナリ然レモ印影盜用ノ罪ハ使用シタルノ條件アルノミヲ以テ足レリトセス使用ノ外尙ホ所有主ノ承諾ナキニ私擅ニ押捺シタルノ條件具備セサルヘカラス本件ノ如キハ此一條件ヲ欠キタルモノナレハ其所爲ハ唯貸金証書偽造方法中ノ一所爲タルニ過キサルモノナリ故ニ本案ハ印影盜

用ノ罪組成セサルモノトシタルハ相當ニシテ上告第一ノ趣旨ハ相立タサルモノトス其第二ノ趣旨ハ偽造ノ證書ヲ以テ勸解ニ出頭シタル如キハ詐欺取財未遂ノ罪ハ成立セスト云フニ在レモ貸金アルカ如ク事實ヲ捏造シテ證書ヲ偽造シ之ヲ以テ勸解ニ出願シタルハ即チ其金額ヲ收受スル爲メニシテ既ニ其目的トシタル事物ニ着手シタルモノナレハ之ヲ詐欺取財未遂ノ場合ニアラスト云フヲ得ス故ニ第二ノ趣旨モ相立タサルモノトス

○明治廿二年三月十五日判決 岡山縣平民河合木代藏

(摘要) 他人カ印影ヲ盜捺シタル偽造證書ヲ貰ヒ受ケ之ヲ使用シタルモノハ私印盜用罪ヲ以テ處斷ス

私印盜用トハ他人ノ印影ヲ盜捺シ之ヲ使用シタルノ謂ヒニシテ單ニ盜捺シタルノミノ謂ニアラス本件被告人ハ佐藤某カ曾テ中山五平ノ印影ヲ盜捺シ以テ偽造セシ證書ナルヲ知テ之ヲ貰ヒ受ケ之ヲ使用シタルモノナレハ其事實ニ對シ刑法第二百八條第二項ヲ適用シタルハ相當ニシテ決シテ擬律ノ錯誤ニアラスナルナリ(以下畧之)

第二百九條 爲替手形其他裏書ヲ以テ賣買ス可キ証書若クハ金額ト交換ス可キ約定手形ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其手形証書ニ詐偽ノ裏書ヲ爲シテ行使シタル者亦同シ

第二百十條 賣買貸借贈遺交換其他權利義務ニ關スル証書ヲ偽造シ

又ハ増減交換シテ行使シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以上ノ罰金ヲ附加ス

其餘ノ私書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ一圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(疑義) 茲ニ甲者アリ乙者ヨリ金圓ヲ騙取セント欲シ虛無ノ人ヲ作り其者ハ豪商ナル旨ヲ詐リ且金員借用證書ヲ作爲シ其名下ニ有合ノ印ヲ捺捺シ金百圓ヲ騙取セリ此場合ニ於テ詐欺取財ノ罪アルヘキハ勿論ナリト雖モ本條ノ罪ヲ構成スルニ足ルヘキヤ

(說明) 蓋シ有テ無トシ無ヲ有トスルモ亦タ眞實ヲ變換シタルモノナルヲ以テ本問ノ如ク虛無ノ人ヲ作りテ以テ證書ノ眞實ヲ變換セシモノハ詐欺取財及本條ノ罪ト二罪ヲ構成シタル者ナリトス

(疑義) 甲者アリ自己ノ不動産ヲ抵當トシ乙者ヨリ金員ヲ借受クルニ際シ實子丙ノ不在ニ拘テ保證人トシテ其名下ニ有合印ヲ捺捺シテ此證書ヲ乙者ニ渡シ金員ヲ借入レタリ此場合合ニ於テ甲ノ處分如何

(說明) 蓋シ本問ノ場合ニ於テ甲者乙者即チ債主ヲ害スルノ意思ナク且其害ヲ生スヘカラサル場合ニ於テハ仍ホ法律カ親子間ニ和合ヲ破ラシメサルノ精神ニ基キ其所爲ヲ問ハサルヘシ

(疑義) 偽造證書ノ行使ハ其目的ヲ遂ゲタルト否トヲ問フニ及ハサル乎

(說明) 偽書ヲ以テ眞實ト欺キ書トナルヘキ方法ニ展示シ又ハ提出スルキハ即チ偽造證書ノ行使ニシテ之カ爲メ名譽ヲ毀害シ或ハ財物ヲ騙取スル等ノ目的ヲ遂ケ得ルヲ必要ト爲サザルナリ

(疑義) 茲ニ外國製造酒ヲ摸造シテ販賣シ且外國酒ノ商標ヲモ偽造スルモノアリト雖モ外國商標ハ吾商標條例範圍外ノモノニシテ特別ノ約條ナキハ同條例ノ保護ヲ與フヘカラサル乎然ハ之レヲ私書偽造罪トシテ處分スルヲ得ヘキヤ

(說明) 前段ノ如キハ之ヲ私書即チ本條第一項ニ所謂其他ノ私書トアルニ引付ケ處分ヲ爲スヘキモノトセンカ其單ニ圖式彩紋等ヲ摸造シタルノミニテ足レリトス其住所姓名等ヲモ明記セサル以上ハ之ヲ私書トシテ處分スルヲ得サルモノナリトス

(疑義) 茲ニ酒類ヲ密造スルモノアリ其罪跡ヲ蔽ハシカ爲メ酒造家甲ヨリ買受ケタルカ如キ酒類賣買證ヲ偽作シ之ヲ官吏ニ差出シタルモノアリ其處分如何

(說明) 本問ノ文書タル賣主買主双方ノ合意ヨリ成ルモノナレハ彼此權利義務ニ關スル事ナク即チ文書偽造罪ニ必要ナル損害ヲ生シ得ヘキノ條件ヲ欠クモノナルヲ以テ此

ノ如キ場合ニ於テハ總テ私書偽造罪トシテ處分スルヲ得サルヘシ
 (疑義) 郵便爲替證書ヲ増減變換シテ行使シタル者ハ爲替手形ヲ増減變換シテ行使シ
 タル者ト同視シテ刑法第二百九條ニ依リ處分スヘキカ將タ單ニ權利義務ニ關スル證書
 ヲ増減變換シテ行使シタルモノトシテ本條ニ依リ處分スヘキカ

(説明) 爲替手形ノ性質タル其之ヲ増減變換シテ行使スルヤ忽チ金融ヲ沮遏シ信用ヲ
 害シ商業上重大ナル弊害ヲ來スルコ至ルカ故ニ法律上其違犯者ニ重刑ヲ科スル所以ナ
 リ然ルニ郵便爲替證書ノ如キハ金員遞送ノ便ヨリ設ケラレタルモノニシテ爲替手形ノ
 如ク所持人ノ誰タルヲ問ハス受取リ得ヘキモノニアラス從テ爲替手形ノ如ク商業上ニ
 重大ノ關係ヲ及ホスヘキモノニアラサルヲ以テ其名稱ノ相似似スルニ拘ハラズ其性質
 大ニ異ナルヲ以テ賣買交換其他權利義務ニ關スル證書中ニ包含スヘキモノトシ本條ニ
 依リ處分スヘキモノナリ

(疑義) 公證人規則二十五條ニ公證人ハ司法大臣之ヲ任ス亦其第六條ニ公證人ハ司法
 大臣ニ隸屬シ控訴院長始審裁判所長ノ監督ヲ受ルモノトストアリ又其第二條ニ公證人
 ハ他ノ官吏ノ作ル可キ公證書類ヲ作ルヲ得ストアリ是ニ由リテ之レヲ見ルトキハ公
 證人ハ其身分官吏ノ如クナレトモ其實際ニ於ケル職制及官等ノ定メモノク唯一個ノ營
 業者ナルニ由リ公證人ノ作ル可キ文書ヲ偽造シタルモノハ私文書偽造ヲ以テ論スヘキ
 モノナルヤ否ヤ

(説明) 公證人ノ職務ハ公證人規則第一條ノ明示スル如ク人民ノ囑托ニ應ジ民事ニ關
 スル公正證書ヲ作ル可キモノニシテ其事柄人民相互ノ權利義務ヲ明カニシ爭訟ヲ未然
 ニ防止スル爲メノ全ク一個ノ營業者タルニ過キス而シテ公證人ノ作爲シタル證書ヲ公
 正證書トシテ法律上十分ノ信憑力ヲ之ニ與フル上ハ又之レカ取締ノ法ヲ嚴重ニナス可
 キハ自然ノ數ナリ即チ試験ノ手續ト云ヒ司法大臣ノ任命ト云ヒ控訴院長始審裁判所長
 ノ監督ト云是皆信用上取締ノ方法ニ外ナラズ然ルニ是等ノ規則アルカタメ公證人ニ官
 吏ノ身分ヲ附シ其作爲スヘキ文書ヲ偽造シタルモノヲ以テ官文書偽造トシテ處分スル
 ハ穩當ナラサルモノトス依テ前段ノ場合ハ單ニ私文書偽造ヲ以テ論スヘシ

(疑義) 本條第二項ニ其餘ノ私書ヲ偽造シ行使シタル者ハ云々トアリ右行使トハ例ヘ
 ハ地所ヲ抵當ニシ金借證書ヲ偽造シ戸長役場ノ公證ヲ受ケ之ヲ債主ニ渡シ債主ヨリ金
 圓ヲ受取タルヲ以テ行使ノ實アルモノト爲スヘキ乎又其行使ノ未遂トハ戸長ヲ欺キ已
 ニ公證セシメタルモ未タ金圓ノ授受ヲ遂ケサル等ヲ云モノナル乎果シテ然ラハ其戸長
 役場ニ至リ公證ヲ乞ハントスルニ際シ未タ其實即チ公證ヲモ遂ケ得サル内ニ發覺シタ
 ル者ノ如キハ行使ノ未遂ヲ以テ論セサル方穩當ナルヘキヤ去レハ又戸長役場ニ對シ其
 公證ヲ乞ハシカ爲メ之ニ添付スル願書ヲ偽造シ共ニ該役場ニ差出シタルモノ、如キハ
 其公證ヲ乞ハシカ爲メニスル迄ノモノニテ爲メニ其ノ目的ヲ達スル能ハサル者ノ如キ
 ハ元ト公證ヲ乞ハシカ爲メニ作リタル願書ナルモ前段ノ如ク公證ヲ遂クルヲ以テ始メ

テ行使ノ未遂トスル片ハ仍ホ願書ヲ偽造セシ者ト雖モ不問ニ付セサルヲ得サル乎
 (説明) 前段行使トハ或ハ官廳ニ呈シ或ハ對手人ニ交付スル等其文書ヲ實用ニ供シタ
 ルノ所爲ヲ謂ヒ行使未遂トハ右ノ所爲即チ其實用ニ着手シテ未タ遂ケサルモノヲ謂フ
 故ニ前段疑義ノ場合戸長ヲ欺キ公證セシメントシタルモノハ行使未遂ヲ以テ論スルコ
 トヲ得ス又後段公證ヲ乞ハシカ爲メ之ニ添付スル願書ヲ偽造シ戸長役場ニ差出シタルモ
 ノハ畢竟偽造ノ本書ニ公證ヲ受ケンカ爲メニセシモノニシテ此願書ヲ以テ他人ヲ害
 セントスルノ意思アルニ非ス依テ前後段共本條第二項餘ノ文書ヲ偽造行使シタルノ罪
 ニ擬スルハ頗ル穩當ナリトス
 (疑義) 茲ニ盜兒アリ或夜他人ノ家宅ニ忍入リ雜若干羽ヲ竊取シ事發覺シ輕罪裁判所
 ニ於テ之ヲ重禁錮監視各一年ニ處セリ被告ハ之ヲ不常トシ控訴ヲ爲シ某ヲ辨護人ニ囑
 托シタリ辨護人惟ラツ本件ハ無罪タルコト至難ナリ因テ被害者ト私和シ以テ裁判官ヲ囑
 若シ無罪タルコトヲ辨護スルニ若クハナント是ニ於テ被害者ト私和シ以テ裁判官ヲ囑
 ノ雜チ他人ニ竊取セラレタリト思料シタル處弟某ニ於テ竊取シタル事今般發覺シタル
 チ証明スル旨ノ証書ヲ作爲シ被害者及ヒ弟某ニ連署セシメ被告宛ニ記名シ又被告ハ品
 行方正常ニ商業ニ勉勵シ惡所爲ノ舉動ナキ者ノ品行保證書ヲ作爲シ被告隣佑ノ者數名
 チ教唆シ之ニ連署セシメ且ツ其情ヲ告ケ戸長ヲ與書セシメタル後チ被告ノ犯罪ヲ免
 カレシメン爲メ其詐僞ノ証書ヲ行使シタル者ハ本條第二項ノ犯罪ヲ構成シタル者トス

ヘキヤ或ハ詐僞ノ證書ハ法律ニ明文アルノ外之ヲ處分スルヲ得スト論スル者アリ右ハ
 果シテ然ル可キ乎
 (説明) 本件ノ文書タル固ヨリ虛僞ノ事項ヲ記載スルモノナリト雖モ其被告人若クハ
 辨護人ヨリ該文書ヲ法廷ニ呈出スルモ元來證據タルノ効力ナキモノナレハ爲メニ公害
 チ生スルノ恐アルコトナシ又該文書ニ記載スル所幾分カ記名者ノ名譽ヲ害スヘシト雖モ
 畢竟記名者承諾シテ自ラ記載スルモノナレハ法律上其者ヲ害スルモノト認ムヘキニ非
 ス然レハ文書偽造ノ罪ニ必要ナル「害ヲ生シ若クハ生シ得ヘキ」ヲ要スルトノ一條件
 チ欠クテ以テ偽造罪ヲ以テ論スヘキモノニ非ス
 (辭義) 茲ニ甲乙丙ノ三名アリ甲者舊里ニ於テ實父及實弟ト供謀ノ人ヲ謀殺ス依テ處
 分ヲ受ケタルヲ以テ甲者舊里ニ歸住ヲ恥ヂテ乙者ノ住居スル村ノ者ヲランコトヲ謀ル乙
 者其ノ情ヲ憫量シ丙者ト謀リ自己ノ親屬ト爲シ戸長役場ヘ戸籍編入願ヲ差出シタルヲ
 以テ戸長與書ノ上其筋ヘ進達許可ヲ得テ入籍シタリ依テ之レヲ本條第二項ニ依テ處分ス
 ルヲ至當ト云フモノアリ又刑法上明文ナキヲ以テ無罪放免スヘキモノナラント云フモ
 ノアリ何レヲ採擇スヘキヤ
 (説明) 前段ノ如キハ他人ニ害ヲ加フルノ意思アリシヤ否ヤヲ審究シ若シ他人ニ害ヲ
 加フルノ意思ナキニ於テハ文書偽造罪ヲ構成スルモノニアラス又他ニ刑法ノ正條ナキ
 キ以テ無罪トスルヘキモノトス

(疑義) 甲者乙者ヨリ金員ヲ騙取セント欲シ證書ヲ認ムルニ當リ後日返済ノ義務ヲ免
レシカ爲メニ自分名下へ實印ニアラサル有合印ヲ押捺シテ交付シタルモノナリ然ルニ
返済期日ニ至リ甲者義務ヲ盡クサハルニ因リ乙者之ヲ裁判所ニ出訴シ後其事發覺セリ
右甲者ノ處分如何

(說明) 證書名下ニ有合印ヲ押捺セシノミニテ其證書面ニ記載シタル事實ノ果シテ眞
實ナル片ハ未タ偽造文書ヲ以テ論スルニ足ラスト雖モ本問ノ如キ甲者最初ヨリ其義務
ヲ免レントスルノ目的ヲ以テ故ニ有合ノ印ヲ押捺シタルヲ以テ偽造文書ノ罪ヲ構成ス
ルニ足ルヘキ眞實變換他人ニ害ヲ加フルヘキ及ヒ害ノ生スヘキ結果アルヘキ等總テ全備ス
ルニ依リ詐欺取財罪ノ外猶本案ノ罪ヲ免ルヲ得サルヘシ

適例

○明治十九年四月廿九日判決 大坂府平民牧野重太郎外二名

(摘要) 銀行宛ノ當座預リ金引出小切手ヲ偽造行使シタル片ハ刑法第二百十條第一項
ヲ適用處斷ス可シ
刑法第二百九條ニ所謂爲替手形其他裏書ヲ以テ賣買ス可キ證書若クハ金額ト交換ス可
キ約定手形ノ如キハ專ラ會社ノ融通ヲ媒介シ商業上片時モ欠ク可カラザル者ニシテ最
モ信用ヲ貴フモノナレハ其効用殆ント貨幣ト差等ナキヲ以テ之ヲ偽造シ又ハ増減變換
シテ行使シタル者ヲ重罪トシ特ニ之ヲ保護スル所以ナリトス今被告重太郎カ偽造行使

セシ銀行宛當座預リ金引出切手ハ一時ノ預ケ金ヲ受取ル爲メノ切手ニシテ前文ノ如キ
性質効用ヲ有スル證書ニアラサレハ同第二百十條ニ該當スル輕罪ナルヘキ明カナルニ原
會議局ニ於テ同第二百九條ヲ適用スヘキ重罪ナリトシ豫審掛リ被告三名ハ大坂重罪裁
判所ヘ移ストノ言渡ヲ認可シタルハ管轄ニアラサル裁判所ニ事件ヲ移シタル不法ノ處
分ニシテ治罪法第四百十條第三項ニ相當スル原由アルモノトス

○明治十九年十月廿二日判決 京都府平民大藪重左衛門外二名

(摘要) 證書授受ノ後權利者更ニ他ノ者ヲシテ該證書ニ連署セシムルモ罪トナラス
抑モ文書ヲ偽造シ又ハ變造ノ行使スルノ罪ヲ組成スルニハ眞實ヲ變換スルヘキ人ヲ害ス
ルノ意思アルヘキ及ヒ害ヲ生シ得ヘキコトノ三條件ヲ要スルモノタルハ論テ俟タス然リ而
シテ原裁判官ノ認定シタル事實ニ據ルモ被告信次郎ハ重左衛門ノ委任ヲ受ケ重左衛門
ト共ニ岡村伊三郎方ニ至リ貸金催促ノ末増抵當ヲ取り更ニ岡村伊三郎外三名連帶ノ證
書ヲ認メシメ之ヲ受領シタル後舊ニ依リ藤岡傳七ヲ連署者トナシ置カサルニ於テハ後
日不便ナリトノ思慮ヨリ擅ニ藤岡傳七ニ連署ヲ求メタリト云フニ過キス果シテ然ラハ
證書授受後ニ於テ連帶セシメタルハ其當ヲ失シタリトスルモ其本人タル藤岡傳七ニ於
テ承諾上ニ出テサルモノナレハ毫モ被害ノ點ナキヲ以テ本罪ヲ構成セサルモノトス然
ルニ原裁判所ニ於テ刑法第二百十條ヲ適用シタルハ擬律錯誤ノ裁判ニシテ原檢察官ノ
上告論旨モ亦相立タルモノトス

○明治二十年一月十五日判決 兵庫縣平民山本良吉

(摘要) 出訴期限ノ經過シタル貸金證書ヲ偽造變造スルモ仍ホ權利義務ニ關スル証書ノ偽造變造罪ナリトス

上告ノ理由トスル所出訴期限ヲ經過セシ證書ヲ變造スルモ罪ナシ報酬トシテ受ケタル金圓ヲ騙取トシタルハ不法ナリト云フニ在ルモ假令出訴期限ヲ經過シタル證書ト雖モ之ヲ變造行使シタルニハ害ヲ生セス又ハ生シ得ヘカラサルモノト斷定シ難クハ決シテ罪ナシト云フヲ得ス又其金圓騙取ノ點及追伸書ノ趣意ニ付テハ徒ラニ判官ノ認メタル事實探證ノ當否ヲ非難スルモノナレハ上告ノ理由ト爲スヲ得ス依テ被告本人ノ上告ハ相立タサルモノト雖モ抑モ刑法第二百十條初項ノ犯罪タル賣買貸借ノ如キ權利義務ニ關スル性質ヲ有スル證書ヲ行使シタル場合ニ構成スルモノナリ今原裁判所ニ於テ認メタル本案變造ニ係ル證書ハ金圓貸借ニ係ル即チ權利義務ノ性質ヲ有スル證書ナルヲ明カナレハ假令出訴期限ヲ經過スルモ前段辨明ノ如ク直ニ無害物ト見做スヲ付ス況ンヤ本件ハ現ニ該證書ヲ以テ金圓ヲ騙取セシニ於テオヤ然ルニ原裁判所カ右ノ事實ヲ認メナカラ出訴期限經過ノ故ヲ以テ刑法第二百十條第二項ニ問擬シタルハ附帶上告論ノ如ク錯誤ノ裁判ナリト判定ナ

○明治二十年四月十二日判決 鳥取縣平民吉田常藏外一名

(摘要) 贓物ヲ抵當ト爲スニ際シ證書ヲ偽造シ債主ヲ欺瞞シテ財ヲ得ルモ盜罪ノ結果

ニ外ナラサレハ詐欺取財ヲ組成セス故ニ盜罪ト證書偽造罪トヲ以テ處斷スヘシ

前本院檢察官カ附帶上告ノ第一點ハ歸スル所治罪法第四百十條第十項ニ因リ破毀ノ原由タルモノト何トナレハ凡ソ盜罪ハ其贓物ノ處置如何ハ之ヲ關置シテ問ハサルモノナレハ之ヲ販賣又ハ抵當ト爲シタル事跡ヲ以テ皆チ其結果ナリトハ概言スルヲ得スト雖モ本案ノ事實ハ被告ハ債主ヲシテ錯誤ノ約諾ヲ表セシメ贓物ヲ借用金額返済ノ担保ニ充テ其貸借契約ヲ證明スルニ偽造證書ヲ用ヒタルニ在レハ被告カ其金額ヲ借得セシ所以ハ主タル債主ノ約諾ト偽造證書行使謀畫ノ後因トニ外ナラスシテ決シテ從タル抵保物件ノ爲メニハアラサレハ隨テ原裁判所カ適用セシ刑法第三百九十條ノ犯罪ヲ構成スヘキ元素ハ之ヲ茲ニ見サレハ以テ詐僞取財ト名狀ス可カラサレハナリ(以下略之)

○明治二十年十一月廿九日判決 愛媛縣平民淺野省伯

(摘要) 預ケ金證書ヲ變造シ其贓本ヲ示シ金員ヲ騙取セントスルモ私書變造罪ヲ組成セス詐欺取財未遂ノ一罪ナリ

凡ソ私書變造罪ハ實ニ眞實ヲ變換シ及ヒ其害ノ生スヘキ事ト惡意アリテ之レヲ爲ストノ原素具備スルノミニテハ未タ充足セス必スヤ其變換證書ヲ行使セサレハ之ヲ構成スヘカラサルハ刑法第二編第四章第四節ニ徴シ瞭然タリ然ルニ原判文ヲ閱スレハ被告カ曾テ大本島藏ヨリ受取リタル金百圓ノ預リ證券ニ惡意ヲ以テ相當ノ利子ヲ加ヘ云々但書ヲ酒井勇雄ニ加筆セシメ井上佐平太ヲ以テ島藏ニ右預ケ金返還ノ督促ヲ爲シ遂ニ島

藏ニ於テ其證據物ヲ一見セント求メタルヨリ被告ハ自カラ該證券ヲ贖寫シ佐中太ヲシテ島藏ニ之ヲ交付シ其利子ヲ騙取セントシタルモ島藏ノ告訴ニ因リ其目的ヲ遂ケ得カリシ旨ヲ揭ケ未タ其變換證書ヲ行使セス之ヲ貯存シテ唯證據タルノ効力モナキ其贖本一片ヲ自ラ作為シ島藏ニ交付シタルニ止ル事實ヲ認メテ 顯法條ニ照セハ未タ其罪構成ナキヲ炳然タルニ此行爲ニ對シ刑法第二百十條一項第二百十二條第二百十一條第一百十二條等ヲ適用シ詐欺取財未遂ノ罪ト俱發セシモノトシ同第一百條ニ照シ其變造證書行使未遂ノ罪ヲ重シトノ重禁錮三月罰金十圓監視六月ニ處シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリ

○明治廿一年二月三日判決 埼玉縣平民竹内庄次郎外一名

(摘要) 委任狀ヲ偽造スルモ財產上ノ權利義務ニ關係ナキヲ以テ刑法第二百十條第二項ヲ以テ處分ス可シ

前大審院檢事川目享一ノ附帶上告ハ委任狀ヲ偽造セシ罪ハ刑法第二百十條第一項ヲ適用スヘキ云々ト論スルニアレハ本案委任狀ノ如キハ財產上權利義務ニ關係ナキモノニ付原裁判官カ之ヲ同條第二項ニ問ヒシハ固ヨリ相當トス

○明治廿一年三月三十一日判決 福島縣平民青山三二

(摘要) 郵便爲替券ヲ偽造行使スルモ刑法第二百九條ヲ以テ罰ス可カラス全第二百十條ヲ適用處斷スヘシ

刑法第二百九條爲替手形云々トアルハ裏書ヲ以テ賣買讓與シ即チ其所有權ヲ移轉シ得

ヘク若クハ所有權ヲ受ケタルモノニ支拂フヘキ約定アル手形ノ類ヲ謂フモノニシテ郵便爲替手形ノ類 裏書ヲ以テ賣買讓與等爲シ得ヘキモノニアラサレハ假令其受取人ノ姓名宿所ヲ記入行使スルモ唯タ權利義務ニ關スル證書ト云フニ過キサレハ右法條ヲ以テ制裁ス可キ限リニアラス故ニ本案被告カ小爲替券十二葉ヲ竊取シ之レニ他ノ名義ヲ記入シ且ツ宿所ヲ改描シ行使シタルハ乃チ權利義務ニ關スル證書ヲ變造行使シタルモノナリ然ルニ原裁判所カ刑法第二百九條ニ依ルヘキ犯罪ナリトシ輒ク管轄違ノ言渡ヲ爲シタルハ治罪法第四百十條第三項ニ該當シ破毀ノ原由アルモノニシテ上告趣意ハ相當ナリトス

○明治廿一年五月四日判決 山形縣平民海老名莊助

(摘要) 證書偽造罪ハ其目的ト爲ス可キ人ニ對シ使用スルニアラサレハ組成スヘキモノニアラス

前證書偽造罪タルヤ其目的ト爲スヘキ人ニ對シ之ヲ使用スルニアラサレハ法律上見テ以テ行使ト云フヲ得サルモノナリ今原判文ヲ閱スルニ略右偽造ノ私印ヲ押捺シ之レニ戶長役場及ヒ戶長ノ偽造印ヲ以テ其公証ヲ偽造シ 略即時該金員雜貸渡旨斷ハラレタルニ際シ喜七ヲシテ強テ金七十四圓ヲ借用セシメ被告莊助等ハ更ニ該偽造證書ヲ喜七ニ交付シ云々トアル事實ニ依テ見レハ其目的ヲ達セス其効用ヲ爲サス豫備ノ所爲ニシテ行使シタルモノニアラサルニ刑法第二百四條全第二百十條ヲ適用シタルハ上告第一論

旨ノ如ク擬律錯誤ノ裁判タルヲ免レヌ

○明治廿一年五月五日判決 福岡縣平民船越喜平

(摘要) 判文中變造シタル證書ヲ差示シ行使シタル者ナリトアルノミニテハ事實理由不備タルヲ免レヌ

承審官カ認メタル本案ノ事實即チ借用シタル米三十俵ハ此受取書ノ如ク返戻シタルヲ以テ抵當地ヲ返還スヘシト鐵次ニ談判ヲ爲シ變造シタル受取書ヲ差示シ行使シタルモノナリトノ事實ハ蓋シ本案ノ一大緊要點ニシテ罪ノ輕重ハ勿論罪ノ有無ハ其行使タル所爲ノ如何ニアリ夫レ差示シ行使シタルハ鐵次ニ差示シタル迄テノ所爲ナル歟將タ又差示シタルニ止マラス行使ノ所爲アリシモノナル歟若シ差示シタル迄ナレハ或ハ豫備ノ所爲ニ止マリ行使ノ罪ハ勿論未遂ノ罪モ構成セサルコトモアルヘク或ハ行使ヲ試ミシモ犯人ノ意思ニ關セス障礙ノ爲メ中止セラレシナラハ未遂ノ罪ヲ構成スルコトモアルヘク或ハ行使シタル所爲アリシナラハ已遂ノ罪ヲ構成スルコトモアルヘシ然ルニ原裁判ハ差示シ行使シタル者ナリトノミ掲ケタルモノナルニ付其實明瞭ナラサルナリ依テ擬律ノ當否モ亦監査スルニ由ナク即チ原裁判ハ治罪法第四百十條第九項ニ該當スル事實理由ヲ附セサル瑕瑾アル者ニ付破毀スヘキ原由アルモノト判定ス

○明治廿一年六月廿九日判決 愛媛縣平民松尾松藏
(摘要) 偽造證書ヲ勸解ニ提供シタル片ハ行使ヲ以テ論スヘシ

又詐欺取財罪ハ親屬ニ係ル片ハ不論罪ニ付共犯人モ未タ財ヲ分タサル片ハ其罪ナキモノトス

前略證書偽造ハ詐欺ノ方法ニシテ主タル詐欺取財ノ不論罪ナルニモ拘ハラヌ從タル證書偽造ノ所爲ノミ罰セラルヘキ謂フシト云フモ刑法第三百九十條第二項ニ因テ官私ノ文書ヲ偽造シ又ハ云々各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ストアルニ依リ證書偽造罪ヲ問シハ正當ナリトス但シ證書偽造ハ信用ヲ害スル罪ナルヲ以テ詐欺取財ノ罪ヲ刑法第三百九十八條ニ依リ論セサルモ偽造罪ハ此例ニアラスト又詐欺取財ノ未遂ノミヲ問ヒ刑法第二百一十一條ヲ適用セザリシハ擬律ノ錯誤ナリト云フモ原承審官ハ偽造證書ヲ勸解廷ニ提供セシヲ行使ト認メタルモノナルヲ以テ該第二百一十一條ヲ適用セザリシハ當然ナリトス蓋シ原承審官ニ於テ詐欺取財ノ未遂ヲ問シハ擬律ノ錯誤ナリトス何トナレハ假令ヒ其財ヲ得ルモ之ヲ分タサレハ其罪ヲ論セサルニ付其財ヲ得サル前之ヲ論スルノ理由ナクハナリ

○明治廿一年十月十二日判決 福井縣平民鈴木原左衛門外三名

(摘要) 故ナク自己ヲ利スルノ目的ニ出テ契約者雙方共謀シテ事實ヲ變換シ他人コ害ヲ與ヘタル場合モ證書偽造罪ヲ構成スルモノトス
上告ノ要旨ニ付之ヲ按スルニ證書偽造罪ノ構造ハ契約者雙方ノ間ニ於テ合意ノ實ヲ變シ以テ害ヲ生シ及ヒ害ヲ生シ得ヘキ事實ヲ要スルハ素ヨリナリ然レモ契約者雙方ノ合

意ニ出テ作成セシ證書ナリト雖其合意タルヤ故ナク自己ヲ利スルノ目的ニ出テ双方共謀シテ事實ヲ變換シ他人ニ害ヲ與ヘタル場合モ亦證書偽造罪ヲ構成シタルモノト論斷スルヲ得ヘシ何トナレハ證書偽造罪構成ニ必要ナル原素ヲ具備スレハナリ今原判文ニ認メタル被告等カ實事ヲ監査スルニ被告鈴木平左衛門外三名相共謀シテ平左衛門ノ債主野村進輔ヲ害シ自己ヲ利スルノ目的ニ出テ既往ノ月日ニ溯回シタル虛無ノ小作契約證及其特約證ヲ作り平左衛門茂平ノ間ニ於テ之ヲ受授シ而シテ後ヲ進輔ヨリ小作米ヲ奪領シタル事實明カナレハ原裁判所カ之ニ對シ證書偽造ノ罪アリト認メタルハ適法ナリトス而シテ本件ハ證書外ナル第三者ニ間接ノ害ヲ生シタル如ク論スレハ被告等カ共謀シテ作成セシ偽造證書ヲ行使シ野村進輔ヲ害シタルハ即チ直接ノ加害ト謂フヘケレハ是亦證書偽造罪原素ニ欠缺ノ点アルコトナシ云々(以下畧之)

○明治廿一年十二月廿六日判決 岡山縣平民安福伴治外一名

(摘要) 虛偽ノ診斷書ヲ作為シ之ヲ行使シタルモノハ刑法第二百十條第二項ヲ以テ處斷ス可シ

原判文ニ認メタル事實ニ依レハ被告人正路ハ被告人伴治ノ依頼ニ應ジ診斷ヲ爲サ、ル想像ノ診斷書ヲ製シ之ヲ岡山始審裁判所ヘ差出シタ、者ニシテ該所爲ハ私書偽造行使ノ罪ナルヲ以テ則チ刑法第二百十條第二項ニ依リ罰スヘキモノナルヲ原裁判茲ニ出テス刑法第二條ニ依リ無罪ヲ言渡シタルハ擬律錯誤アル不法ノ裁判ニシテ附帶上告論旨

チ正當トス

○明治廿二年四月廿四日判決 靜岡縣平民山下利八

(摘要) 死者ノ證書ヲ偽造スルモ罪トナラス

前略 代理人カ擬律錯誤ナリト擴張論告ニ付原判文ニ認メタル私書偽造ノ事實ヲ審査スルニ被告ハ道畑勝藏ヲ殺害シタル後ヲ榎坂太郎中横畑久三郎カ各金五圓宛勝藏ヨリ借用シ居ルヲ知リ明治廿一年四月七日頃自宅ニ於テ勝藏生存中被告ヨリ金圓借用シタルコトアリ其代リニ太郎平久三郎ヘ勝藏ヨリ貸金十圓ハ被告ヘ廻金スヘキ筈ナル体ニ勝藏ヨリ太郎平久三郎宛ナル金五圓ノ證書二通ヲ偽造シ云々トアリテ被告カ證書偽造ノ所爲タル勝藏ヲ殺害シ數月ヲ經過シタル後太郎平久三郎ノ兩名ヨリ金圓ヲ騙取セント死亡者名義ノ證書ヲ偽造シタル事實ナルコト明カナリ故ニ該所爲ヲ以テ直ニ私書偽造罪ヲ組成シタルモノト論斷スルヲ得ス何トナレハ死者ノ證書ヲ偽造シタ、連具死者ニ對シ被害ヲ生シ得ヘキ理由ナク既ニ害ノ生セサルモノトセハ私書偽造罪構成ニ必要ナル原素ヲ欠ケハナリ果シテ然ラハ原裁判所カ其實事ヲ認メテカラ之ニ刑法第二百十條等ヲ適用シ處斷シタルハ治罪法第四百十條十項ニ該當シ擬律ノ錯誤ヲ免カレサル不法ノ事判ニシテ代理人擴張論告ノ如ク破毀ノ理由アルモノトス

○明治廿二年六月十八日判決 香川縣平民久保權藏

(摘要) 詐欺ノ死亡届書ヲ偽造シタルモノハ刑法第二百十條第二項ヲ以テ處分ス可シ

上告論旨ニ付裁判言渡書ヲ檢閱スルニ前明治廿年陰曆三月十九日生出シタル者ニシテ當時其出產届ヲ爲サズ被告入カ養女ニ貰受ケ云々明治廿二年二月廿一日亡セリ茲ニ於テ云々死亡届ヲナシ以テ埋葬スルコトニ差支テ生シタリヨリ被告人ハ芳太郎ニ協謀ノ上醫師牟田口澄ニ謀リ以テシケハ被告人ノ私通婦小川サカ分婉シ間合モナク室息ニテ死亡シタル体ノ届書ヲ認メ貰ヒ己レハ庶子久保シケ明治二十二年二月廿日生明治二十二年二月廿一日午前一時死亡ト記シタル届書ヲ他人ニ認メ貰ヒ以テ右醫師ノ届書ト共ニ之ヲ戸長役場へ差出シ埋葬認可ヲ得テ云々トアリテ被告ノ所爲ハ故意ヲ以テ虚偽ノ事柄ヲ記載シタル死亡届書ヲ差出シ戸籍上ニ錯雜ヲ來サシメタルモノナレハ即チ私書偽造罪ノ構成ニ必要ナル原素ヲ具備シ刑法第二百十條第二項ノ制裁ヲ免カレサルモノトス然ルニ原裁判所ハ其事實ヲ認メナカラ他人ノ名義ヲ妄用シタルモノニアラストノ理由ヲ以テ被告ノ所爲ハ罪トナラストシ無罪ヲ言渡シタル擬律ノ錯誤ニ出テタル不法ノ裁判ニシテ上告論旨ノ如ク破毀ノ原由アルモノト判定ス

〔參照〕 醫師公務ニ關セサル詐僞ノ疾病証書ヲ造ル者ノ儀ニ付山形始審裁判所酒田支廳檢事ヨリ司法省へ伺 明治十七年六月廿八日

戶主ヲ廢スルカタメ又ハ被告人召喚ノ際或ハ保釋中呼出ノ節又ハ其他ノ事ニ因リ醫師囑託ヲ受ケ詐僞ノ疾病証書ヲ造リタル者ハ公務ヲ免カル可キタメノ一元素ナキカ故ニ刑法第二百十五條ノ犯罪ニ非サルヘシ然レモ不應爲ノ事タルハ勿論爲ニ害ヲ生スルモ

ノナレハ刑法第二百十條第二項ノ犯罪ニシテ該條ニ依リ處分ス可キモノニ候哉

内訓 明治十七年七月三十日

別紙伺之趣ハ後段見解ノ通此旨及内訓候也

第二百一十一條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百十二條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第五節 免狀鑑札及ヒ疾病証書ヲ偽造スル罪

第二百十三條 官ノ免狀又ハ鑑札ヲ偽造シテ行使シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタル時ハ偽造官印ノ各本條ニ照シテ處斷ス

適例

○明治十九年九月廿一日判決 宮城縣平民小野寺廣作

(摘要) 行商鑑札ヲ偽造シテ所持スルモ之ヲ以テ該鑑札ヲ行使シタルモノト云フテ得
 刑法第二百十三條ノ罪タル惡意偽造及ヒ行使ノ事實ヲ具備シテ組成スルコト勿論ニシテ
 其條件ヲ有セサルハ該法章ヲ用テ問擬ス可キ限リニアラサルナリ本件上告ノ主眼トス
 ル所行商鑑札ハ寶貨等ト異ナリ人ニ交付スヘキモノニアラサレハ假令人ニ示サ、ルモ
 行商中ノ所持シタルハ即チ行使ナリト論告スレモ抑モ行使ト 他ニ對シ現ニ其鑑札
 ヲ使用シタル場合チ云フモノニシテ之ヲ他人ニ示サス單ニ所持シタルト云フヲ以テ右
 法律ト謂フ所ノ行使トナス可キモノニアラス今尙ホ原判文ニ就キ被告カ事實ヲ見ルニ
 略真物ト一點ノ差異ナキ様取拵ルハ憚リアリトテ板札ニ行商鑑札ノ四字ト姓名ノミ真
 物同様ニ書シ餘ハ殊更ニ十餘字ヲ脱略シ云々之ヲ所持品ノ内ニ仕舞置キ未タ曾テ人ニ
 指示セサル内云々ト掲載シ毫モ行使ノ事實ヲ認メタルニアラサレハ刑法第二百十三條
 ノ罪ヲ構成セサルヤ明カナリ然ルヲ以テ之ニ對シ刑法第二條ヲ適用シタルハ相當ノ擬
 律ニシテ決シテ錯誤シタルモノニアラサレハナリ

第二百十四條 屬籍身分氏名ヲ詐稱シ其他詐欺ノ所爲ヲ以テ免狀鑑
 札ヲ受タル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十
 圓以下ノ罰金ヲ附加ス

官吏情ヲ知テ其免狀鑑札ヲ下付シタル者ハ一等ヲ加フ

(疑義) 故意又ハ懈怠ニ因リ自家戸籍上已ニ死去セシ父母若シハ他家ヲ相續セシ子女
 ノ名籍ヲ存シ置キ爾后之ヲ削除スルニ至リ醫師ニ囑托シ虛偽ノ診斷書ヲ作爲シ其名籍
 者ノ新クニ死亡スル旨ヲ申出テ埋葬証ヲ受クル者アリ右處分方如何

(說明) 總テ或事ヲ行フコト官ヨリ許可シタルノ證書ヲ免狀ト云フ去レハ埋葬證ハ埋
 葬ヲ爲スコトヲ許可シタルコトヲ證明スル者ナルヲ以テ免狀中ニ包含スヘキハ勿論ナリ依
 テ前段ノ場合ハ本條第一項ニ依リ處分セサルヘカラス

(疑義) 茲ニ先ニ檢印ヲ受ケタル車ヲ他人ヘ貸與ヘ其荷臺紛失シタリト詐僞シ更ニ荷
 臺ヲ新調シ檢印ヲ受ケタル者アリ右ハ本條ニ依リ處分スヘキモノナリヤ

(說明) 本條ニ免狀鑑札ト記載スル以上ハ檢印ハ之ヲ包含セサルヘシ因テ本問ノ如キ
 ハ本條ニ依リ處分スヘキモノニアラス

適例

○明治十九年十二月十四日判決 岩手縣平民中村長次郎外一名

(摘要) 氏名ヲ詐稱シテ雇夫鑑札ヲ受ケタルモノハ刑法第二百十四條ヲ適用スヘシ
 前原裁判所ハ其雇夫氏名ヲ詐稱シテ雇夫鑑札ヲ受ケタル事實ヲ認メナカラ之ヲ刑法第
 二百十四條ニ所云ノ鑑札トハ且性質ヲ異ニスト爲シ刑法第二百三十一條ニ問擬シタル
 ハ上告論旨ノ如ク擬律錯誤ノ裁判ナリトス何トナレハ刑法第二百十四條ニハ單ニ免狀

鑑札ヲ受ケタル者ハ云々ト記載セラレタルノミニシテ其免狀鑑札ノ性質等ヲ規定セラレタルトナキカ故ニ其族籍氏名等ヲ詐稱シテ免狀又ハ鑑札ヲ受ケタルモノハ其何等ノ性質ニ拘ハラズ皆該條ノ制裁ヲ受ク可キモノナレハナリ(以下略之)

第二百五十五條 公務ヲ免ル可キ爲メ醫師ノ氏名ヲ用ヒ疾病ノ証書ヲ偽造シテ行使シタル者ハ自己ノ爲メニシ他人ノ爲メニスルヲ分タス一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

醫師囑託ヲ受ケテ其詐偽ノ証書ヲ造リタル者ハ一等ヲ加フ

(疑義) 被告人裁判所ノ召喚ヲ受ケテ之ヲ免カレンカ爲メ疾病ト詐稱シ或ハ醫師ト相謀リ共ニ其診斷書ヲ偽造セシモノ、如キ之レカ醫師ヲ處スルノ法即チ偽証ノ律アリト雖モ被告人ヲ處スルノ法ナキカ如シ去リ逆テ本條ヲ適用スルハ少シシ穩當ナラサルカ如シ如何

(説明) 醫師ハ本條後項ニ依リ其囑托者ハ共犯人トシテ本條前項ニ依リ處分スヘキモノトス

第二百十六條 陸海軍ノ徵兵ヲ免カル可キ爲メ疾病ノ証書ヲ偽造シ

テ行使シタル者及ヒ囑託ヲ受ケ其詐偽ノ証書ヲ造リタル醫師ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

第二百十七條 免狀鑑札及ヒ疾病ノ証書ヲ増減變換シテ行使シタル者ハ亦偽造ノ刑ニ同シ

第六節 偽証ノ罪

第二百十八條 刑事ニ關スル証人トシテ裁判所ニ呼出サレタル者被告入ヲ曲庇スル爲メ事實ヲ掩蔽シテ偽証ヲ爲シタル者ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス

- 一 重罪ヲ曲庇スル爲メ偽証シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 二 輕罪ヲ曲庇スル爲メ偽証シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 三 違警罪ヲ曲庇スル爲メ偽証シタル者ハ違警罪ノ本條ニ依テ處

斷ス

(疑義) 茲ニ刑事ニ關スル證人トシテ裁判所ニ呼出サレタル者獨リ自己ノ利益ヲ圖リ事實ヲ陳述セサル者例ヘ、殺傷ノ現場ヲ認メタルニ之ヲ認メヌ又ハ自己ノ立去リタル後ノ事ナレハ更ニ知ラス杯ト偽リノ陳述ヲ爲スモノアルハ其處分如何

(說明) 本條以下ハ刑事ニ關スル証人被告人ヲ曲庇スルタメ又ハ被告人ヲ陷害スル爲メ事實ヲ隱蔽シテ偽証ヲ爲シタル者ヲ處分スルノ正條ニシテ本問ノ如キ被告ヲ曲庇又ハ陷害スルノ意ニ出ルニアラサレハ本節ニ掲クル所ノ偽証罪ヲ組成スルモノニアラス治罪法第百八十三條宣誓シテ陳述ヲ肯セサル時云々トアルニ包含セルモノトシ處分ス可キモノナリ

(疑義) 治罪法第百二十三條ノ規則及ヒ檢事ノ報知書ニヨリ喚出シタル証人事實ヲ証言シタル後被告ヨリ金品ヲ受ケ曲庇スル爲メ事實ヲ隱蔽シ詐欺ノ申立ヲ爲シタル證據十分ナルハ其處分如何スヘキカ

(說明) 豫審又ハ公判ニ於テ宣誓セシメタル証人ニアラサレハ偽證罪ヲ構成スルモノニアラス

(疑義) 官吏ヲノ其職務ニ關スル事件ニ付陳述セシムルハ敢テ其宣誓ヲ爲サシムルヲ要セサルモノナリ之レ特ニ官吏タルノ故ヲ以テ取扱上常人ト別異ヲ設ケタルモノナリ然レモ其陳述ノ効力ニ至テハ常人ノ誓言ト異ナルコトナキモノナラン然ラハ其官吏像

審又ハ公判ニ於テ偽證ヲ爲シタルハ勿論擬証律ニ問擬ス可キモノ、如シト雖モ抑モ偽證ノ法タル即チ破誓律ニシテ原ト治罪法ノ規則ニ從ヒ宣誓ヲ爲シタルモノヲ待ツノ法意ト解釋スルコト至テハ其宣誓ヲ爲サドル者ノ如キハ之レヲ偽證罪ニ問擬スルハ穩當ナラサルカ如何

(說明) 宣誓ヲ爲スヘキノ常人ニシテ宣誓ヲ爲サシテ詐僞ノ陳述ヲ爲シタルモノハ其陳述ハ證據ノ性質ヲ有セサルヲ以テ偽證罪ヲ以テ論スルヲ得サルハ勿論ナリト雖モ其宣誓ヲ爲スヲ要セサル官吏ハ宣誓ヲ爲サドルモノ固ヨリ證據ノ性質ヲ有スルモノナレハ前段ノ如キハ則チ偽證罪ヲ以テ處斷セサルヘカラス

第二百十九條 偽証ノ爲メ被告人正當ノ刑ヲ免カレタル時ハ偽証者ノ刑前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

第二百二十條 被告人ヲ陷害スル爲メ偽証ヲ爲シタル者ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス

- 一 重罪ニ陷ラシムル爲メ偽証シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 二 輕罪ニ陷ラシムル爲メ偽証シタル者ハ六月以上二年以下ノ重

禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 三 違警罪ニ陷ラシムル爲メ偽証シタル者ハ一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

適例

○明治十九年五月六日判決 兵庫縣平民河森ミチ外一名
 (摘要) 民事原告人ノ親屬ヲシテ證人トシ官誓セシメタ 處其宣誓ニ反シ不實ノ陳述ヲ爲スモ偽證罪ヲ構成セス

刑法第二百二十條第二項ノ犯罪ハ第一惡意アルコト即チ裁判官ヲ欺クコト第二信實ニ違フコト即チ誓ニ反スルコト第三害アルコトノ三條件具備シテ以テ構成スト雖モ其誓ニ反シタル者ハ必ス證人ノ資格ヲ有スルモノニシテ宣誓ヲ爲シ此レニ反シタルコトアラサレハ構造スルモノニアラス今上告第三條ニ依リ一件書類ヲ查閱スルニ被告人河森誠造ハ被告山田フサニ對シ詐欺取財ノ告訴ヲ爲シ併セテ民事原告人トナルノ申立ヲ爲シタルヤ明瞭タルハ從テ其民事原告人河森誠造ノ親屬タル被告人等ハ證人タルノ資格ナキヤ治罪法第百八十一條第二項ニ照シテ明カナリ果シテ然ラハ原裁判官ニ於テ證人ノ資格ナク宣誓ヲナカシムヘカラサル被告人等ニ宣誓ヲ爲サシメタルモノナレハ其宣誓ニ反シタリトテ刑法第二百二十條第二項ノ偽證罪ヲ構造シタルモノト云フヲ得ス然ルチ原裁判官

ハ河森誠造ノ告訴書ヲ探資シテ其事實ヲ認メナカラ右第二百二十條第二項ニ依リ處斷シタルハ擬律ニ錯誤アル不法ノ裁判ナリトス

第二百二十一條 偽証ノ爲メ被告人刑ニ處セラレタル後ニ於テ偽証ノ罪發覺シタル時ハ偽証者ヲ其刑ニ反坐ス若シ反坐ノ刑前條ニ記載シタル偽証ノ刑ヨリ輕キ時ハ前條ノ例ニ照シテ處斷ス
 其刑期限内ニ於テ偽証ノ罪發覺シタル時ハ現ニ經過シタル日數ニ照シテ反坐ノ刑期ヲ減スルコトヲ得但減シテ前條偽証ノ刑ヨリ降スコトヲ得ス

第二百二十二條 偽証ノ爲メ被告人死刑ニ處セラレタル時ハ反坐ノ刑一等ヲ減ス其未タ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時ハ二等ヲ減ス

若シ被告人ヲ死ニ陷ル、ノ目的ヲ以テ偽証ヲ爲シタル時ハ死刑ニ反坐ス其未タ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時ハ一等ヲ減ス

第二百二十三條 民事商事又ハ行政裁判ニ關シテ偽証ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(疑義) 民事商事行政裁判ニ關スル証人ニシテ偽証ヲ爲シタルモノハ本條ニ照シテ其罪ヲ罰ス可キハ論ヲ俟タス然ルニ民事商事行政裁判ノ手續上未タ其証人ヲシテ宣誓ヲ爲サシム可キ法例ナシ然ラハ則チ其宣誓ヲ爲サシメサル証人ノ陳述中縱令偽リアルモ直チニ偽証ノ罪アリトシテ之ヲ本條ニ照シ處分スルハ聊カ穩當ナラサルカ如シ就テハ民事商事行政裁判ニ關スル証人タリトモ治罪法第百十八條第百八十一條第百八十二條等ノ規則ニ準シ其証人ヲシテ宣誓ヲ爲サシムヘキモノナル乎

(説明) 民事商事行政裁判上ノ証人ヲシテ宣誓ヲ爲サシムルニ及ハサルヘシ然レモ其偽証ヲ爲シタル者ハ本條ニ依リ處分スヘキモノトス

適例

○明治廿一年四月十三日判決 岡山縣平民入江丈助
 (摘要) 民事ニ付キ偽證ヲ爲シクルモノハ仮令ヒ宣誓ヲ爲サスト雖モ刑法ノ制裁ヲ免カレス

民事商事又ハ行政裁判ニ關シテ偽證ヲ爲シタルモノハ宣誓ノ法式ヲ履行スルト否トニ

拘ハラフ刑法第二百二十三條ノ明文ノ上ハ其制裁ヲ免カレサルヤ固ヨリ論ヲ俟タサル處ナリ今原判文ヲ見ルニ被告丈助カ辻瀧藏妹島治作等ノ訴訟ニ關シ民事ノ證人トナリテ偽証ヲ爲シタル事實ヲ認メナカラ民事上宣誓ハ法式規定ナキヲ以テ刑法ノ制裁ヲ負ハシムルヲ得ストノ理由ヲ付シ免訴ノ言渡ヲ爲シタルハ法律ノ誤解ニ起因シ越權ノ處分ヲ免レサルモノニシテ上告論旨ハ相當ナリトス

第二百二十四條 鑑定又ハ通事ノ爲メ裁判所ニ呼出サレタル者詐僞ノ陳述ヲ爲シタル時ハ前數條ニ記載シタル偽証ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百二十五條 賄賂其他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽證又ハ詐僞ノ鑑定通事ヲ爲サシメタル者ハ亦偽證ノ例ニ同シ

適例

○明治廿二年五月八日判決 茨城縣平民高安秀三郎
 (摘要) 親屬ヲ曲庇センカ爲メ他人ニ囑託シテ偽證ヲ爲サシメタルモノハ刑法第二百二十五條ヲ以テ處斷ス可シ

檢察官上告論旨ニ付被告高安秀之介ニ對スル原裁判言渡書ヲ閱スルニ(被告秀之介ハ

宮田徳助官金竊取重罪被告事件ニ付海老根津右衛門及大會根巳之介ニ依頼シ云々不實ノ陳述ヲ爲サシメ以テ徳助ノ重罪被告事件ヲ曲庇セシメタル事實ニ云々明確ナリ而シテ被告秀之介ハ田宮徳助ト兄弟ノ關係アルモノナレハ云々刑法ニ之ヲ罰スヘキ正條ナキヲ以テ免訴且放免ストアリ抑モ親屬ノ犯罪事件ニ付テハ証ハト爲ルノ資格ナシト雖モ偽証罪ニ付テハ親屬ノ關係ヲ定メタル法條ナリ本條ノ如キハ假令兄弟ニモセヨ他人ニ囑托シテ宣誓ノ上偽証ヲ爲サシメ被告人ヲ曲庇シタル上ハ刑法第二百二十五條ノ犯罪タルハ當然ナリトス然ルニ原裁判所ハ前掲ノ如ク他人ニ囑托シテ偽證セシメタル事實ヲ明認シナカラ其被告人ト兄弟タルノ故ヲ以テ罰ス可キ正條ナシトシ免訴ノ言渡ヲ爲シタルハ上告論旨ノ如ク擬律ノ錯誤ニ係ル破毀ノ原由アル裁判ナリトス

第二百二十六條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者其事件ノ裁判宣告ニ至ラサル前ニ於テ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

(疑義) 茲ニ甲者アリ乙者ヲ教唆シテ丙者ノ犯罪被告事件ニ付偽証ヲ爲サシメタリ然ルニ乙者ハ一旦偽証シタルモ丙者ノ被告事件宣告ニ至ラサル内官ニ自首シタリ此ノ場合ニ於テ乙者ハ本條ニ依リ本刑ヲ全免スルハ勿論ナルモ之レカ教唆者即チ甲者ノ處分ニ至テハ聊疑ヒ無キ能ハス抑モ本法偽証罪ニ限り自首全免ヲ與フル者ハ要スルニ其所爲毫モ害ヲ爲サ、ルノ故ナラン而シテ又教唆罪ノ如キハ其教唆シタルノ時ニ於テ罪ノ成

立ツヘキモノニアラスシテ教唆ヲ受ケタル者之ヲ實行スルト否ト又其實行ノ輕重如何トニ因テ成否ヲ決シ輕重ヲ定ムヘキモノニシテ譬ヘハ影ノ形ニ於ケル響ノ音ニ於ケルカ如キ密附ノ關係ヲ有シ決シテ獨立スヘキモノニアラサレハ前顯ノ如ク乙者ノ偽証罪モ害ヲ爲サスシテ全免ヲ得ル場合ニ於テハ從テ甲者ノ教唆罪モ成立セサルモノト同視シ不問ニ措クヘキモノナルカ然ルニ或ル論者ハ甲者ノ教唆罪ハ乙者カ一旦偽証シタル時ニ於テ既ニ成立シタルモノニシテ乙者カ自首シタルノ故ヲ以テ其罪ヲ消滅スヘキノ理ナシト右ハ如何ニ決スヘキヤ

(説明) 本件教唆者ノ罪ハ固ト本犯ノ罪ヲ待テ成立スルモノナレハ本犯其罪ヲ自首スルニ依テ免刑ヲ得可キ場合ニ於テハ教唆者モ亦免刑ヲ得可キカ如シト雖モ教唆者ノ罪ハ本犯ノ犯罪ニ依テ業已ニ成立シタルモノニシテ本犯ノ自首ハ教唆者ノ干預シタル所ニ非サルヲ以テ本犯ト均シク其澤ヲ蒙ル能ハサルモノトス

第七節 度量衡ヲ偽造スル罪

第二百二十七條 度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シテ販賣シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ盜用シタル時ハ偽造官印ノ各本條ニ

照シ重キニ從テ處斷ス

第二百二十八條 偽造變造ノ情ヲ知テ其度量衡ヲ販賣シタル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ減ス

第二百二十九條 商賈農工定規ヲ増減シタル度量衡ヲ所有シタル者ハ一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ其度量衡ヲ使用シテ利ヲ得タル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

(疑義) 明治九年第十七號公布度量衡改正規則第二條但書ニ依リ廢ノ字ヲ印シタル舊器ヲ商業上ニ使用シタルモノハ同則第六條ニ依リ明治十四年七十二號公布第四條ニ照シ處分スヘキモノナルガ將タ本條第一項ニ依リ處分スヘキモノナルカ

(說明) 廢ノ字ヲ印シタル舊器ヲ商業上ニ使用シタルノミナレハ改正條例第六條ニ依リ處分スヘシト雖モ同條例第二條但書ニ新器ニ適合セサル分トアルハ即チ定規ニ増減アルモノヲ指稱スルモノナルヲ以テ若シ故ラニ之ヲ使用シテ利ヲ得タル時ハ本條第二項ニ依リ詐欺取財ヲ以テ論セサルヘカラス

(疑義) 前第二百二十八條ニ於テ偽造變造ノ情ヲ知テ其度量衡ヲ販賣シタルモノ云々トアリ又本條ニハ情ヲ知テノ文字無之元來無意ノ犯罪ハ刑ヲ科スヘキ限ニアラサルハ總則第七十七條ニ明揭セル處ナルモ故ラニ前第二百二十八條ニ情ヲ知テノ文字有之ヲ見レハ本條ノ所爲ノ如キハ假令情ヲ知ラスシテ偽造變造ノ度量衡ヲ所有シタルモノト雖モ之ヲ該條ニ依テ處斷ス可キモノナル乎

(說明) 本法第七十七條無意ノ罪ハ之ヲ論セス又罪ト爲ル可キ事實ヲ知ラスシテ犯シタル者ヲ不論罪トス然ラハ則チ本條定規ヲ増減シタル度量衡ヲ所有スル者其情ヲ知ラサルニ於テハ固ヨリ其罪ヲ論スルコトヲ得ス假令前條(二百廿八條)ニ情ヲ知テ云々トアリ而シテ本條其明文ナキモ是故ヲ以テ總則ノ例規ヲ適用セサルモノト爲シ難シ因テ本條ハ定規増減ノ情ヲ知ル者ニ限り制裁スヘキモノトス

適例

○明治十九年五月廿四日判決 岩手縣平民高橋養吉

(摘要) 米穀商ニアラサル者ト雖モ定規ヲ減シタル樹ヲ以テ米穀ヲ販賣シ利ヲ得タル時ハ刑法第二百二十九條ノ制裁ヲ免カレス
上告ノ理由トスル處被告ハ農工商ニアラサレハ假令定規ヲ減シタル樹ヲ以テ米穀ヲ販賣スルモ刑法第二百廿八條ノ正面ニ該當セスト云フニ在レモ假令被告ハ土方堂自業ニモセヨ既ニ縁金ノ破壊セシ即チ定規ヲ減シタル樹ニテ白米ヲ量リ販賣ノ利ヲ得タル

事實明カナル上ハ面アタリ商賣ノ業ヲ營ミタ、テ敢テ疑フ所ナクシテ素ヨリ刑法第二百二十九條ノ制裁外ナリト論アリテ得ス(以下略之)

○明治廿一年五月十九日判決 静岡縣平川澤田善助

(摘要)

烙印ナキ不正當ノ樹ヲ商業上ニ使用スルモ罪トナラス而シテ舊衡ニ擅ニ緒紐ヲ付替ヘ使用スルハ度量衡改定規則違犯ナリ

本案二個ノ樹ノ原判文ニ正當ノ場所ニ於テ製出シタリモノニアラス形体ハ樹ノ如クナ
ルモ云々法律上樹ト稱ス可カラストノ理由ヲ付シ又舊衡ハ從來ノ儘所持云々トアル判
旨ハ被告人カ定規ヲ増減シタルニアラサルヲ説明シタル者ト解釋シ得可ケレハ從テ
刑法第二百二十九條ノ制裁ヲ受ク可キ者ニアラスト判定シタルハ不法ト云フ可カラス
舊權衡ヲ改メ所ニ差出シ檢査ヲ受ケスシテ商業上ニ使用シタル所爲ハ度量衡改定規則
第二條第六條ニ該ル者ト認メ明治十四年第十二號布告第四條ニ照ラシ處斷シタルモ
ノナレハ原裁判相當ニシテ上告及ヒ付帶上告趣旨ノ如ク理由ノ不備又ハ越權且擬律錯
誤等不法ノ点アルヲ見ス

第二百三十條 人ノ囑託ヲ受ケテ度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シタル者

ハ其囑託シタル犯人ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

第八節 身分ヲ詐稱スル罪

第二百三十一條 官署ニ對シ文書又ハ言語ヲ以テ其屬籍身分氏名年

齡職業ヲ詐稱シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

(疑義)

或ハ曰フ被告人訊問中族籍氏名年齢等ヲ詐稱シタル者ハ自己ノ刑辟ヲ免ル、
爲メ一時ノ辨護ニ係ルヲ以テ不問ニ付スルモノナリト果シテ然ラハ假令ハ警官犯人ト
思料スヘキモノヲ押エ其族籍氏名等ヲ訊問スルニ當リ該犯人ノ詐稱スルモ亦本條
ニ依リ其罪ヲ問ハサル乎又被告人被告事件ノ訊問ヲ受クルノ際此事件ハ誰某(現在人ノ
稱)ノ所爲ナリト其罪ヲ他人ニ嫁スル如キモ誣告罪ニ問フノ限リニアラサル乎

(說明)

訊問中族籍氏名年齢等ヲ詐稱シタル被告人ト雖ハ故意ヲ以テ之レヲ爲シタル
場合ニハ仍ホ本條ニ依リ處分スヘキモノトス又現在人ノ氏名ヲ確稱シ自己ノ犯罪ヲ他
人ニ嫁スル者ハ誣告ヲ以テ論スヘキモノトス

(疑義)

町村長カ町村制第六十九條ノ規定スル所ニ從ヒ司法警察補助官タル職務ヲ執
行スル場合又ハ府縣郡ノ行政事務ニシテ市町村ニ屬スル事務(國稅又ハ地方稅ヲ徵收
スルノ類)ヲ執行スル場合ニ於テ町村長ニ對シ身分ヲ詐稱スルノ罪ヲ犯シ又ハ呼出等
ニ應セサルモノアルトキハ官署ニ對シ身分ヲ詐稱シ又ハ官署ノ呼出ニ應セサルモノヲ
以テ論スルヲ得ルヤ

(說明)

前項ノ疑義ハ是ヲ要スルニ町村長カ國ノ事務又ハ府縣郡ノ行政ニシテ町村ニ

屬スル事務ヲ執行スル場合刑法上官吏ノ取扱ヲ以テ處分スルヲ得ルヤ否ヤト云フニ
アリ然レモ市町村長ノ身分ハ既ニ官吏ヲ以テ論セサルモノナル以上ハ其事務執行ノ區
分ニ依リ是ヲ分別スルハ到底ナシ能ハサルモノナリ故ニ町村長等ニ對シ身分ヲ詐稱シ
又ハ其呼出ニ應セサルモノアルモ身分詐稱罪又ハ官署ノ呼出ニ應セサルモノヲ以テ論
スルコトヲ得サルナリ

(疑義) 本條官署ニ對シ文書又ハ言語ヲ以テ其屬籍身分氏名年齢職業ヲ詐稱シタル者
ハ云々トアリ右ハ獨リ自己ノ身上ヲ詐稱スル者而已ニ止マラス戶籍ニ關シ私生兒ヲ公
生兒ト届出若クハ他人ノ所生兒ヲ我子ト詐稱シテ届出ルカ如キ其情實若クハ便宜ノ爲
メ官ノ文書ヲ錯亂セシメ隨テ後來其措置上ニ錯誤ヲ生スルノ弊ナキ能ハサルモノナレ
ハ宜シク相當ノ制裁ナカルヘカラス依テ是等ノ如キハ自己ノ屬籍等ヲ詐稱シタルモノ
ト等シク本條ニ據リ處分スヘキモノナルヤ

(說明) 戶籍ニ關シ私生兒ヲ公生兒ト届出若クハ他人ノ所生兒ヲ我子ト詐稱シテ届出
ルカ如キハ其場合ニヨリ寧ロ官文書偽造ニ問フヘキモノニシテ前段疑義ノ如キハ本條
ノ制裁スル限内ニ非サルモノトス

適例

○明治十九年十月十二日判決 福井縣平民吉岡治右衛門

(摘要) 刑事ノ被告人取調ヲ受クルニ際シ郷貫氏名ヲ詐稱シ尙ホ監獄ニ在リテモ同シ

ク詐稱セシハ辨護ノ結果タレハ罪トナルヘキ事實ニアラス

刑事被告人カ曾テ裁判所ニ於テ取調ヲ受フル際辨護ノ爲メ詐稱シタル郷貫氏名ヲ在監
中其儘用ヒ來ルハ即チ其辨護ノ結果ナレハ裁判確定後司獄官ニ對シ詐稱シ來ルカ如キ
モ新タニ犯罪ヲ組成シタルモノト爲シ能ハサルモノナリ故ニ原裁判所カ被告ニ對シ無
罪ヲ言渡シタルハ相當ニシテ刑法第二百三十一條ノ制裁ヲ受ク可シトノ上告論旨ハ却
テ相當ヲ得サルモノトス

○明治廿二年二月十六日判決 愛媛縣平民高橋ハツ

(摘要) 前罪ノ發露ヲ恐レ氏名ヲ詐稱シテ裁判言渡ヲ受ケ該裁判確定後詐稱罪發覺ス
ルモ辨護上ニ出テタルモノナレハ罪トナラス
前被告カ官署ニ對シ氏名ヲ詐稱シタルハ竊盜罪ノ發露ヲ恐レ即チ辨護上ニ出テタル者
ナレハ其所爲罪ト爲ル可キ者ニアラス故ニ原裁判所カ被告ニ對シ無罪ヲ言渡シタルハ
相當ニシテ上告論旨ハ不相立者トス

第二百三十二條 官職位階ヲ詐稱シ又ハ官ノ服飾徽章若クハ内外國
ノ勳章ヲ僭用シタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓
以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九節 公撰ノ投票ヲ偽造スル罪

第二百三十三條 公撰ノ投票ヲ偽造シ又ハ其數ヲ増減シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(疑義) 本條以下第二百三十六條迄ニ規定セル公撰ノ投票トハ官省府縣ノ布告布達ヲ以テ制定セラレタルモノ、外町村總代人又ハ社寺ノ氏子檀家總代人等ノ投票モ包含スヘキヤ

(說明) 官廳ノ布告布達シタル規則ニ從ヒ公益ニ關スル事件ニ付公撰ノ投票ヲ爲サシムル場合ニ於テ其投票ヲ偽造シタル者ニ限リ本條以下ニ從ヒ處分スヘキモノトス

適例

○明治十九年六月五日判決 愛媛縣平民鎌田國治

(摘要) 公賣ノ投票ヲ變造スルモ他人ニ對シ害ノ生ス可キ道理ナクハ之ヲ罰ス可キモノニアラス

上告ノ旨趣ヲ審按シ原判文ヲ閱スルニ同判文ニ(其所有ノ田畑廿二筆ヲ公賣ニ付セラシムルニ際シ右ノ田畑ハ云々三好繁雄等カ講金ノ抵當ト爲シタルヲ以テ公賣落札ヲ低クシ再ビ被告ヘ買戻シ講金ノ抵當ヲ完フシ被告カ所有ノ權ヲモ失ハサル爲メ三好繁雄ト謀リ他ニ投票者ノ無キヲ偵知シ金六十圓ヲ他借シテ繁雄ニ渡シ全人ヲシテ低價ノ入札

ヲ爲サシムル前其投票ノ控ヲ貫ヒ請ケ云々トアルニ據レハ裁判所ハ三好繁雄カ爲シタル本件ノ投票ハ其實被告カ自己ノ爲メ同人ヲシテ之ヲ爲サシメタルコトヲ認メタルモノト云ハサルヲ得ス然レハ則チ假令ヒ被告ニ於テ該投票ヲ變換スルモ他人ニ對シ害ノ生スヘキ道理ナキヲ以テ之ヲ罰ス可キモノニアラサルニ原裁判茲ニ出テ被告ヲ所罰シタル上ハ上告論旨ノ如ク擬律ノ錯誤ニシテ即チ治罪法第四百十條第十項ニ適スル破毀ノ原由アルモノトス

第二百三十四條 賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメ又ハ賄賂ヲ受ケテ投票ヲ爲シタル者ハ二日以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十五條 投票ヲ檢查シ及ヒ其數ヲ計算スル者其投票ヲ偽造シ又ハ増減シタル時ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十六條 調書ヲ造リ投票ノ結局ヲ報告スル者其數ヲ増減シ其他偽詐ノ所爲アル時ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以

上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

〔疑義〕 某縣會議員投票ヲ爲スニ際シ撰舉人ヨリ郡書記奉職中ノ甲者及ヒ地租十圓以上ヲ納ムルノ義務ヲ有セサル乙者外一名ヲ撰舉セシニ付テハ故意ニ出テタルノ証憑ナキニ因リ其被撰舉權ナキ三名ヲ撰舉人ヨリ過テ撰舉シモノニシテ郡長ニ於テモ亦乙者外一名ハ戶長ヨリ呈出セシ被撰舉人名簿ニ記載アルヲ以テ十圓以上ノ地租ヲ納ムルノ義務アルモノト認認シ當籤者ト爲シタロモノト看做スノ外ナシ然ルニ甲者ハ當時郡書記奉職中ナレトモ既ニ辭職願書ヲ差出シ居且撰舉人過テ之ヲ撰舉セシテ奇貨トシテ郡長ハ同人ヲ議員ニ舉ケントノ意思ヨリ例ヘハ廿年一月十一日ニ實際開票シ翌十二日ニ調査ヲ結了シ十三日ニ郡書記ヨリ報告ヲ受ケシモ陽ニハ未タ其開票ヲナサハル姿ニ爲シ十三日ニ辭職願書ノ辭令書到着セシヨリ同日撰舉會ハ更ニ十四日ニ延期スル旨故ラニ溯テ九日付ニテ管内ヘ公告ノ手續ヲ爲シ十四日辭職願書ノ辭令書ヲ甲者ニ下付シ而シテ十九日ニ當籤狀ヲ交付セシモノト認メタリ右ニ付キ或ハ云ク撰舉會ハ元ト公然ノ場所ニ於テ之ヲ開クヘキモノナレハ公債証書ノ抽籤法ノ如ク必シモ立會人アルヲ要セサレハ人民ニ於テ自カラ來テ之ヲ觀サル限リハ其撰舉會ノ結了セシヤ否ハ一般ニ知ラサルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ當該官ニテ其既ニ結了セシ撰舉會ヲ未タ結了セサル姿ニナシ會日ヲ延期セント欲セハ實際ナシ得ヘカラサルコト非ス固ヨリ如此詐欺ハ書類ヲ變換スル等ニ比スレハ之ヲ發見スル容易ナル如クナレハ人民ニ於テ之ヲ覺

知セス異議ヲ唱ヘスシテ止ムニ至ラハ終ニ計ルヘカラサルノ危害ヲ生スヘシ殊ニ該會則第十八條ニ依レハ本案ノ如キ會日ニ於テ郡書記ニシテ被撰舉權ナキ者ハ假令投票ノ多數ヲ占ムルモ不適當ノ投票ナレハ之ヲ捨テ、他ノ高點者ヲ取ラサルヘカラス然ルニ故意ヲ以テ之レヲ適當ナラシメシコトヲ希圖シ一旦結了セシ撰舉會ヲ未タ結了セサル姿ニナシ其資格ヲ生スルマデ詐リテ會日ヲ遷延セシハ實際ニ有害ナル詐欺ノ所爲ト云ハサル可カラス然ルニ本法草案按直譯第二百六十七條ニ公ノ現詳ノ變換トアルハ固ヨリ如此詐欺ヲ包含セス是レ畢竟輕禁獄ノ重罪ノ刑ヲ以テ罰スルカ故ニ發見スルニ容易ナラサル書類ノ變換ニ止メタル者ト知ルヘシ而シテ現行本條ニハ書類ノ變換ニ止メテ廣ク詐欺ト記載シ草案ノ重罪ヲ降シテ輕禁錮ノ輕罪トナシタルハ該疑義ノ如キ詐欺モ亦之ヲ罰セサレハ實際ニ弊害アリト認メタルニ因ルヘシ故ニ郡長ハ本條ニ依リ之ヲ罰セサルヘカラサルヘシト該說ノ當否如何

〔說明〕 前段疑義ハ郡長ノ所爲ノル單ニ皮相上ヨリ觀察スルキハ詐偽ヲ以テ甲者ヲ當撰者ト定ムルモ同人ハ固ト投票ノ多數ヲ占ムルヲ以テ實際ニ害ナク隨テ本法ノ制裁ヲ用ユルニ及ハサルカ如シト雖片元來公撰ノ投票ヲ偽造スル等ノ罪ハ一般ノ信用ヲ害シ且他人ノ被撰舉權ヲ滅却スルニ因テ成立スルモノナリ左レハ本件ノ如キ之ヲ不問ニ付スル片ハ管ニ一人ノ權利ヲ害スルノミナラス延テ官廳ノ信用上ニモ大關係ヲ及ホスノ恐アリ因テ前段疑義ノ如キハ本條ヲ以テ處分スヘキモノトス

第五章 健康ヲ害スル罪

第一節 阿片烟ニ關スル罪

第二百三十七條 阿片烟ヲ輸入シ及ヒ製造シ又ハ之ヲ販賣シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

(疑義) 本條以下阿片烟ニ關スル罪ノ如キ外國ニ於テハ之ヲ罰スル法條ヲ掲ケサル國土多キ由去レハ今ヤ外交日ニ月ニ繁密ナル時ニ於テ日本人ニシテ阿片烟吸喰等ノ所爲ヲ罪トセサル國ニ在テ吸喰シタルコトアルモ歸國ノ後一切法ニ觸ル、ノ所爲ヲ作サ、ル者ハ日本ニ於テ其外國ニ在テノ所爲ニ遡リ糾治スルニ及ハサル歟

(説明) 外國ニ於テ日本國ノ法律ヲ犯シ歸國シタル者ハ外國ニ於テ罰セサル所爲ナルモ必ス我カ法律ニ依リ處斷スヘキモノトス

第二百二十八條 阿片烟ヲ吸食スルノ器具ヲ輸入シ及ヒ製造シ又ハ之ヲ販賣シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第二百二十九條 稅關官吏情ヲ知テ阿片烟及ヒ其器具ヲ輸入セシメタル者ハ前二條ノ刑ニ照シ各一等ヲ加フ

第二百四十條 阿片烟ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖ル者ハ輕懲役ニ處ス

人ヲ引誘シテ阿片烟ヲ吸食セシメタル者亦同シ

第二百四十一條 阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二百四十二條 阿片烟及ヒ吸食ノ器具ヲ所有シ又ハ受寄シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二節 飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪

第二百四十三條 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上五圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十四條 人ノ健康ヲ害ス可キ物品ヲ用ヒテ水質ヲ變シ又ハ腐敗セシメタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三

十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十五條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第三節 傳染病豫防規則ニ關スル罪

第二百四十六條 傳染病豫防ノ爲メ設ケタル規則ニ違背シテ入港ノ船舶ヨリ上陸シ又ハ物品ヲ陸地ニ運搬シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十七條 船長自ラ前條ノ罪ヲ犯シ又ハ人ノ犯スヲ知テ制セサル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ加フ

第二百四十八條 傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ流行地方ヨリ他所ニ出タル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十九條 獸類ノ傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ獸類ヲ

他所ニ出シタル者ハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四節 危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ物品製造ノ規則ニ關スル罪

第二百五十條 官許ヲ得スシテ危害ヲ生ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

(釋義) 本條ニ官許ヲ得スシテ危害ヲ生ス可キ物品ノ製造所ヲ設立シタル者及ヒ第二百五十一條ニ危害ヲ豫防シ健康ヲ保護スル規則云々トアリ右等ノ規則現今公布ナキ事件ハ縣限リ適宜取締規則ヲ施行スト雖モ違フ者ハ右兩條ニ據テ罰スル限ニアラサルカ(說明) 前段疑義ハ本條及ヒ第二百五十一條ノミニ限ラス凡ソ本法中官トアルハ舊法ノ如ク太政官ノミニ限ラス一般ノ官衙ヲモ汎ク指シタルモノニシテ一般ノ官衙ヲ言ヒンモノナレハ危害ヲ生ス可キ物品ノ製造所ヲ設立スル規則及ヒ危害ヲ豫防シ健康ヲ

保護スル規則ニシテ縣限ノ取締ニ係ルモノト雖モ之ニ違フ者ハ仍ホ本條及ヒ第二百五十一條ニ依リテ處斷スヘキモノトス

第二百五十一條 官許ヲ得テ前條ニ記載シタル製造所ヲ創設スト雖モ危害ヲ豫防シ健康ヲ保護スル規則ニ違背シタル者ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

第二百五十二條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第五節 罪 人ノ健康ヲ害ス可キ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル

第二百五十三條 人ノ健康ヲ害ス可キ物品ヲシテ食物ニ混和シテ販賣シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

(疑義) 茲ニ搗米渡世ニシテ金剛砂ヲ米穀ニ混入シテ搗精シ之ヲ販賣シタル者ハ本條ニ依リ處分シ其搗精ニ止リ未タ販賣セサル者ハ第四百二十六條第四項ニ照シ處分スヘキカ

(說明) 凡ソ人身ノ健康ニ害ヲ生スヘキ物質ニ係レハ之ヲ販賣シタル者ハ本條ニ依リ處分シ其未タ販賣セサル者ハ第四百二十六條第四項ニ依リ處分スヘキモノトス

第二百五十四條 規則ニ違背シテ毒藥劇藥ヲ販賣シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十五條 二前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第六節 私ニ醫業ヲ爲ス罪

第二百五十六條 官許ヲ得スシテ醫業ヲ爲シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

(疑義) 本條ニ官許ヲ得スシテ醫業ヲ爲シタルモノ云々トアリ該醫業トアルハ獸醫ヲモ包含スルヤ

(說明) 前段獸醫ハ本條中ニ包含セサルモノトス
(疑義) 本條中醫業ヲ爲シタルモノ云々トアルハ常ニ醫業ヲ爲スモノヲ云フカ將タ其所爲一度ニテモ醫業ト認ムヘキハ本條ニ含蓄スルモノトシテ處分スヘキカ

(説明) 本條ニ於テハ常ニ醫ヲ業トスルト又一度ニテモ醫業ト認ムヘキ所爲アルモノトノ區別ナキヲ以テ要スルニ其所爲醫業ト認メ得ヘキハ總テ本條ニ依リ處分セサルヘカラス

適例

○明治十九年四月廿九日判決 山口縣士族增野文平

(摘要) 刑法第二百五十六條ハ平素醫術ヲ業トスルモノニアラサレハ制裁セズ抑モ刑法第二百五十六條ハ免許ヲ得シテ醫術ヲ業トスルモノヲ制裁スルノ法條ナルヲハ同條中醫業云々ノ文字アルニ依テ見ルモ明カナリ然ルニ原裁判言渡ニ掲ケタル所ニ據レハ被告ノ所爲ハ單ニ藤井辰五郎ニ對シ投藥ヲ爲シタル而已ニテ平素醫業ノ所爲アルコアラサレハ其辰五郎ニ投藥セシハ果シテ自己ノ利益ヲ企圖シ爲メニ之ヲ業トスルノ意思アリタルニアラサル以上ハ該條ノ犯罪者トシテ處罰シ得サルモノナルニ原裁判所ガ犯罪上欠ク可カラサル即チ被告カ私利ヲ謀リ以テ之ヲ業トスルノ意思アリタルヤ否ヤノ事實ヲ明示セス直ニ同條ニ問擬セシハ所謂理由ノ不備ニシテ付帶上告論旨ノ如ク不法ノ裁判ナリ云々(以下略之)

○明治廿年五月十九日判決 和歌山縣平民富岡東榮外二名

(摘要) 醫生醫師ノ指揮ニ從ヒ患者ヲ代診スルモ罪トナラス抑モ免許ヲ受ケスシテ私ニ醫業ヲ爲ス者ハ其醫師タルニ充分ナル學術ヲ備フルト否ト

ヲ論セス刑法第二百五十六條ノ制裁ハ免カレスト雖モ本案被告東榮ハ開業醫ニシテ患者ノ往診ヲ乞ヒ來リタル者アレハ代診ヲ爲サシメシメカ爲メ被告一貞恒次ヲ雇入置一貞恒次ハ其指揮ニ從ヒ患者ヲ往診シタルニ止マリ別ニ醫業ヲ爲シタル者ト云フヲ得ス故ニ被告等ノ所爲ハ刑法ノ制裁ヲ受クヘキ者ニアラサルニ原裁判ハ該所爲ニ對シ刑法第二百五十六條ヲ適用シ罰金ノ刑ニ處シタルハ本院檢事長カ非常上告論旨ノ如ク法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡シタル者ト云々(以下略之)

(參照) 明治十六年十二月廿八日 司法省丁第三十九號達

大審院 裁判所

本年第三十五號布告ヲ以テ明治十五年第三十九號布告被廢候ニ付同年當省丁第四十二號達ハ自然消滅ノ處今般內務卿ヨリ更ニ照會ノ趣モ有之候條同省へ通牒方從前ハ通可取計此旨相達候事(明治十五年丁第四十二號 本年第三十九號公布ニ依リ今般內務卿ヨリ照會ノ趣モ有之候ニ付ヲハ自今醫師タル者醫業ニ關スル犯罪有之處斷致シ候節ハ其都度該宣告文騰本相添內務省へ通知候様可致此旨相達候事)

(參照) 明治廿年二月二十三日 司法省訓令第十號 裁判所

十八年八月第二十八號布告及十九年九月第十一號農商務省令ニ依リ今般農商務省ヨリ照會ノ趣モ有之候ニ付テハ自今獸醫免許規則第十四條並獸類傳染病豫防規則第十九條ノ犯罪其他刑法ニ正條アル獸醫ノ犯罪處斷致候節ハ其都度裁判宣告文騰本相添へ農商務省へ通知ス可シ

第二百五十七條 前條ノ犯人治療ノ方法ヲ誤リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第六章 風俗ヲ害スル罪

第二百五十八條 公然猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十九條 風俗ヲ害スル冊子圖畫其他猥褻ノ物品ヲ公然陳列シ又ハ販賣シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

(疑義) 猥褻ノ寫真ヲ隱密ニ販賣シタル者アルハ其處分如何

(說明) 本條風俗ヲ害スル冊子圖畫其他猥褻ノ物品ヲ公然陳列シ又ハ販賣シタルモノハ云々トアル其公然トハ公衆ノ目撃シ得可キ場所又ハ需要ニ供給スル場合ヲ云フモノニシテ之レ等ノ場合ニ於テ陳列シ又ハ販賣即チ需要ニ供給セシトキハ直チニ本條ノ罪ヲ組成スルモノトス然リ而シテ其陳列シタル場合ニ於テハ其陳列ノ場所ハ必ス公衆ノ目撃シ得可キ場所ヲササル可カラスト雖トモ需要ニ供給スル即チ販賣ノ場合ハ其物品ヲ交附シタル場所ノ如何ニ關セサルモノトス故ニ店頭又ハ公衆ノ目撃シ得可キ場所ニ

於テ販賣交附シタルト否ラサルトナ問ハス唯一ノ營業トシテ何人ノ需要ニモ供給シ販賣シタルハ其一事ヲ以テ既ニ公然ト云ハサルヲ得ス之レ公然ナルノ語ハ隱密ニ對スルノ語ニシテ其隱密トハ何人ノ需ニモ應シ供給ス可キ性質ノモノニアラサレハナリ是ヲ以テ前項疑義ノ場合ニアリテハ公然販賣シタルモノトナシ本條ヲ適用シ處斷ス可キモノトス

(疑義) 本條ニ掲グル物品ヲ貸貸シタル者元ヨリ公然ニ非サルニ於テハ不問ニ置クヘキヤ將タ尙ホ本條ニ依リ處分シ其物品ハ之レヲ沒收スヘキ歟

(說明) 風俗ヲ害スル冊子圖畫等ヲ公然陳列シ又ハ販賣スル者ハ本條之ヲ罰スヘシト雖其之ヲ密ニ貸貸シタル者ニ付テハ別ニ之レヲ罰スルノ明文無キヲ以テ不問ニ措クヘキモノトス

第二百六十條 賭場ヲ開張シテ利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ招結シタル者ハ三月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十一條 財物ヲ賭シテ現ニ博奕ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其情ヲ

知テ房屋ヲ給與シタル者亦同シ但飲食物ヲ賭スル者ハ此限ニ在ラ
ス

賭博ノ器具財物其現場ニ在ル者ハ之ヲ沒收ス

(疑義) 爰ニ鶏ヲ闘ハシメ以テ賭博ヲ爲スモノアリ本犯處斷ノ際其鶏ハ所謂賭博ノ器
具トアルニ包含スルモノトシ沒收スヘキヤ

(說明) 器具トハ骨子骨牌ノ如キ通常賭博ニ用ユル爲メ製作セラレタルモノニ止マリ
鶏ノ如キハ之ヲ包含セサルヲ以テ沒收スヘキモノニアラス

(疑義) 茲ニ飲食物ハ有名無實ニシテ其實名ヲ飲食ニ假リ以テ勝收ノ割引ヲ爲シテ金
錢ヲ請求スルノ目的ヲ以テ之ヲ賭ケ最終ニ至リ計算ヲ爲シ金錢ヲ授受スルモノアリ右
ハ本條ニ依リ處分スヘキモノナルヤ

(說明) 飲食物ハ刑法ノ範圍外ニ措キタリト雖モ本問ノ如キ陽ニ飲食物ヲ賭スルノ形
様ヲ爲シ其實陰ニ金錢ヲ賭スルモノハ現場ニ金錢ヲ出サスト雖モ現行犯ナルニ於テハ
本條ニ依リ處分スヘキモノナリ

(疑義) 茲ニ賭博犯處分規則實施中ニ賭博ヲ爲シ共犯者三人ノ内二人ハ其際懲罰ニ處
セラレタルニ他ノ一人ハ該規則廢止ノ今日ニ至リ初メテ自首ヲ爲シタルモノアリトセ
ハ其一人ニ對スル處分如何

(說明) 蓋シ賭博犯罪ニシテ現行犯ト認メ得ラル、場合ニ於テハ刑法ニ依リ處罰スヘ
シト雖モ本問ノ事實タル賭博ノ現行犯トハ認メ難キモノナルヲ以テ本條ニ依リ處分ス
ヘカラサルモノトス

(疑義) 本條ニ財物ヲ賭シ現ニ賭博ヲ爲シタルモノ云々トアリ其所謂現ニトハ現行犯
ノ意義ナルヤ將タ現實等ノ意義ヲ有スルモノナルヤ

(說明) 賭博ノ所爲タル元來自己ノ財物ヲ賭シテ空利ヲ圖ルモノナレハ正業トハ稱ス
ヘカラサルモ眞ニ所謂犯罪ノ性質ヲ具備スルモノニアラサルナリ去レハ法ノ規定ヲ待
テ始メテ罪トナルヘキモノニシテ法ノ之ヲ罰スルハ之ヲ爲ス儘ニ放任スルハ風俗ヲ
紊亂スルノミナラス往々他ノ犯罪ヲ誘孕セシメシメテ豫防スルニ在リ果シテ然ルハ
刑法ハ賭博ノ事實アリシカタメ刑罰ヲ加フルニアラスシテ其所爲ノ現行ナル場合ニ於
テノミ之ヲ處罰スルノ精神ナルヲ明瞭ナリトス依テ本條ノ現ニトハ現行犯ノ意ナリト
ス

(疑義) 賭博犯處分規則既ニ廢セラレタルニ茲ニ舊規則ニテ處分ヲ受ケタル過料金今
日ニ至リ未納者無資力ナルハ之ヲ換刑處分ヲ爲スニ當リテハ警察署ハ之ヲ其地ノ檢
事ニ引渡シ檢事ニ於テハ刑法第二十七條ニ照シ換刑ノ手續ヲ爲スヘキヤ

(說明) 賭博犯處分規則ハ已ニ廢止セラレタリト雖モ其廢止前過料ニ處セラレタルモ
ノ之ヲ換刑スルニ當リテハ科料金執行ノ結果ニシテ司法上ノ事ニアラハレハ警察署ニ

於テ處分スヘキモノナルト明瞭ナリ

(疑義) 房室ヲ給與シ賭博ヲナサシメタルモノハ其博奕現ニアラサルモ罪スヘキモノナルヤ

(説明) 刑法ニ於テハ賭博ハ現行犯ニアラサレハ罰セズ從テ賭博ヲ爲スノ情ヲ知テ房屋ヲ給與シタルモノ亦タ現行ニアラサレハ罰スルヲ得サルヘシ蓋シ賭博ヲ爲スト房屋ヲ給與スルトハ其所爲異ナリト雖モ家屋ヲ給與スルハ賭博ヲ容易ナラシメタルモノナレハ等シク其犯ナリ故ニ一ハ現行犯而已チ罰シ他ハ非現行犯ノ場合ヲモ罰ス可キノ理萬々アル可カラサルナリ是ニ由リテ前項房屋ヲ給與シ賭博ヲナサシメタルモノハ其博奕現行ノ際發覺シタルニアラサレハ是ヲ罰スルヲ得サルモノナリ

(疑義) 賭博犯處分規則實施中犯シタル犯人ハ本法第三條ニ依リ比照例ヲ適用スヘキモノナルヤ

(説明) 前項ノ犯人ハ本法第三條ノ比照例ヲ適用スヘキモノニアラス又賭博犯規則實施中ノ犯罪ト雖モ刑法ニ依リ罰スヘキモノハ單ニ刑法ニ依リテ以テ處分スヘキモノナリトス

適例

○明治廿二年十月四日判決 兵庫縣平民高岡關太郎

(摘要) 行政處分ノ下ニ犯シタル賭博犯ニシテ刑法處分ノ下ニ發覺シタルモノハ之ヲ

罰スヘキモノニアラス

賭博犯罪ヲ處分ス可キ行政規則ハ明治廿二年六月十日法律第十七號ヲ以テ廢止セラレタリト雖モ其廢止以前即チ同規則施行中ニ犯シタル賭博罪ニ對シテハ直チニ刑法上處分ノ區域ニ移シ刑法第二百六十一條ヲ及ホス可キモノニアラス然ルニ原判文ヲ檢スルニ被告カ賭博犯罪ハ明治廿一年三月八日ニシテ則チ行政處分規則施行中ニ係ル事實ヲ認メナカラ其所爲ニ對シ無罪ヲ言渡サス其廢止後ノ犯罪ヲ制裁ス可キ刑法第二百六十一條ヲ適用シ處斷シタルハ擬律ノ錯誤ヲ免レサレ裁判ニシテ附帶上告論旨ヲ正當ナリトス

○明治廿二年十月廿九日判決 千葉縣平民齋藤仁助外一名

(摘要) 賭博犯ニシテ刑法處分ノ停止ヲ解キタルヨリ七日ノ施行期限内ニ於テ爲シタル所爲ハ周知期限内ニ係ルヲ以テ罰スルヲ得ス
刑法第二百六十條第二百六十一條ニ掲載セシ賭博犯罪處斷ノ法條ハ明治十七年第一號布告ヲ以テ一旦其施行ヲ停止シ行政警察ノ處分ニ屬セシメ而シテ本年法律第十七號ヲ以テ布告ヲ廢シ即チ刑法施行ノ停止ヲ解キタルモノナリ抑モ刑法ノ正條ハ固トヨリ一般人民ノ周知スル所ナリト雖モ其法條ノ施行ヲ停止シ又其停止ヲ解キタル法律ノ如キハ之ヲ施行スルニ於テ必ス施行期限ヲ定メタル規則ヲ遵守セサル可カラサルモノニシテ其停止ヲ解キタルヨリ七日ヲ經過セサル前即チ施行期限内ニ係ル賭博犯ニ對シ直

ニ刑法ノ正條ヲ適用スルコトヲ得サル者トス故ニ原裁判所カ本案被告事件ニ付刑法第三條第一項治罪法第三百五十八ヲ當行シ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ相當ノ裁判ニシテ上告論旨ハ相立タス依テ治罪法第四百廿七條ニ從ヒ本案上告ヲ棄却ス云々

〔參照〕 明治廿二年六月十日
法律第十七號

明治十七年第一號布告ヲ廢ス

〔參照〕 明治廿二年六月十二日
內務省訓令第二十六號

廳 府 縣

本年法律第十七號ヲ以テ明治十七年第一號布告廢止ニ就テハ右法律頒布前ニ係ル賭博犯ニシテ其未ク處斷ヲ經サルモノハ管轄裁判所ニ送致ス可シ

第二百六十二條 財物ヲ醜集シ當籤ヲ以テ利益ヲ僥倖スルノ業ヲ興行シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

〔疑義〕 明治十五年第二十五號公布第一條ニ於テハ富籤賣買ノ牙保及ヒ幫助者ヲ處罰シ第二條ニ於テハ其購買者ヲ處罰スルコト明カナリト雖右二條ノ罪俱ニ發シ又ハ刑法ノ罪ト併セ發シタル時（本件牙保幫助者ノ如キハ常ニ自己モ購買スルヲ例トス）ハ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス各個ノ體刑ニ處セサルヲ得サルモノ、如シ何トナレハ明治十四年第七十二號布告第五條ニ法律規則ヲ犯

シタル者ニハ刑法ノ再犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用ヒストアレハナリ然レモ富籤賣買ノ牙保幫助購買者ヲ處罰スルニ各個體刑ニ處スルハ他ノ法規ニ參照シ甚ク權衡ヲ得サルヲ覺フルノミナラス該罰則ノ如キハ本條ノ增補ト見做スモ法ノ精神ニ於テ敢テ不可ナキモノ、如シ就テハ右罰則第一第二條ノ俱發シタル時又ハ刑法ノ罪ト併發シタル場合ニ於テモ一ノ重キ罪ニ從テ處斷ス可キモノナルヤ

〔說明〕 明治十四年第七十二號布告第五條ニ所謂法律規則トハ本法第五條ニ之アル他ノ法律規則ト同シク特別法ヲ指シタルモノナルハ論ヲ俟タス而シテ本件ノ如キ富籤ヲ賣買シタル者ヲ罰スル法ノ如キハ一般ノ法律ニ屬スル性質ノモノニシテ特別法ニ非サルヲ以テ固ヨリ本法ニ依リ數罪俱發ノ例ヲ用フヘキモノトス

〔疑義〕 本條ハ富籤ヲ賣其金ヲ得タルマテナレハ興行シタル者ニハ非サルカ果シテ然ラハ明治十五年廿五號布告モ富ヲ興行セサル上ハ罪トナラサルカ

〔說明〕 富籤ヲ販賣スルハ興行ニシテ本條ニ依リ處分シ其牙保若クハ幫助ヲ爲シタル者ハ明治十五年第二十五號布告ニ依リ處分スヘキモノトス

第二百六十三條 神祠佛堂墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ所爲アル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
若シ說教又ハ禮拜ヲ妨害シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ

處ス

第七章 死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪

第二百六十四條 埋葬ス可キ死屍ヲ毀棄シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

適例

○明治十九年四月三十日判決 群馬縣平民藤卷金十郎

(摘要) 人ヲ毆打スルノ意思ニテ既ニ死去シタル者ノ屍ヲ毆打シ及ヒ共謀者ノ一人ニテ人ヲ毆打シ遂ニ死ニ致シ他共謀者其場ニ在リタルモ之ニ加巧セサレハ罪トシ論ス可キモノニアラス

上告ノ要旨ハ原裁判ハ事實理由ニ不備アリト云フニ在ルモ原判文ニハ即時昏倒斃死シタル際云々トアルハ被告カ毆撃ハ死後ナリト認メタリヤ明瞭ナルヲ以テ敢テ不備ナリト云フヲ得ス又死屍ヲ毆撃シタルト斷定セシナラハ刑法第二百六十四條ヲ適用セザリシハ不當ナリト云フモ該條ハ故ラニ死屍ヲ毀棄シタル者ヲ制裁スルノ法章タリ然ルニ被告カ藤一郎ヲ毆撃シタルハ其意活ケル藤一郎ヲ毆撃スルニ在ツテ死セル藤一郎ヲ毆

撃スルニ在ラスサレハ被告カ所爲ニ對シ該條ヲ適用スヘキニアラス又附帶上告第一ノ要旨ハ被告カ薪木ヲ携ヘテ金十郎ト共ニ其場ニ臨ミタルハ幫助ノ所爲ナリト云フニ在ルモ箇ハ被告カ金十郎ト共ニ藤一郎ヲ毆撃セントスルノ所爲ニ止リ金十郎藤一郎ヲ毆打シタルニ關シ毫モ幫助ノ所爲アルニアラサレハ之ヲ以テ刑法第三百六條ニ適スル幫助ノ所爲ト云フヲ得ス若シ之ヲ以テ幫助ノ所爲ナリトセハ同第三百五條ニ所謂現ニ手ヲ下シ傷ヲ成ス輕重ニ從テ各自ニ其刑ヲ科スノ法文殆ント解スヘカラサルニ至ラン如何トナレハ共謀人ヲ毆打シタル者ハ皆幫助ノ罪アルヲ以テ傷ヲ成スノ輕重ニ從テ各自ニ其刑ヲ科スルヲ要セサレハナリ然ルニ附帶上告者ハ同第三百六條ニ對シ一箇ノ說ヲ附シ同第三百五條ハ共謀ニテ毆打ヲ爲ス場合ニ適用スヘカラスト云フモ右兩條共二人以上共ニ人ヲ毆打云々トアリテ其法文毫モ異ナル所ナケレハ一ハ共謀ノ場合ニ適シ一ハ適ス可カラスト云フヲ得サルノミナラス同第三百六條ハ單ニ共謀人ヲ毆打スル幫助者ノ制裁ヲ規定シタルニ止リ共謀者各自ニ人ヲ傷ケタルノ場合ニ適用スヘキニアラス然ルニ該條ニ人ヲ傷ケスト雖モトアレハ共謀ニ出テ、人ヲ傷ケタルハ勿論該條ニ依テ處斷セサル可カラスト云フモ如何シテ如此者ヲ該條ニ依テ處斷シ得ヘキヤ該條ニハ其處斷シ得ヘキ法文ナキヤ如何セン論シテ此ニ到レハ前文辨明ノ如ク該條ハ單ニ幫助者ヲ制裁スルノ法章ニ止マリ其共謀人ヲ毆打シテ各々傷ヲ成シタル者ハ同第三百五條ニ依ラサルヲ得スシテ同條ノ共謀毆打ヲ爲ス場合ニ適用スヘキトハ勿論從テ本件被

告カ所爲ハ同第三百六條ノ幫助ニ適セサルコト倍々著明ナリトス (以下略之)

第二百六十五條 墳墓ヲ發掘シテ棺槨又ハ死屍ヲ見ハシタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ死屍ヲ毀棄シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十六條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第八章 商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪

第二百六十七條 偽計又ハ威力ヲ以テ穀類其他衆人ノ需用ニ欠ク可カラサル食用物ノ賣買ヲ妨害シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ニ記載シタル以外ノ物品ノ賣買ヲ妨害シタル者ハ一等ヲ減ス

(疑義) 茲ニ甲者酒造營業人ナル乙者ニ宿怨アルヲ以テ杜氏丙者ヲ教唆シ擗揚ケタル清酒數十石ノ桶ニ菜種 他ノ物(健康ヲ害スヘキモノニ非サ)ヲ陰カニ混入シタルニ日ナラスシテ數十石ノ清酒悉ク腐敗セリ右甲者ノ所爲タル本法ニ依リ罰ス一カラサルカ如シト雖モ人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シタルモノハ則チ第二百四十三條ニ依リ罰スヘキニ酒類ヲ腐敗ニ至ラシメタル者ヲ罰セサルハ甚タ妥當ナラス亦酒類ノ如キハ需用ニ欠クヘカラサ。商品ナルヲ以テ甲者ハ間接ニ該商品ノ賣買ヲ妨害シタル事狀明瞭ナルニ於テハ本條ニ依リ處分スヘキカ

(説明) 前段疑義ハ果シテ偽計又ハ威力ヲ以テ其賣買ヲ妨害スルノ惡意ニ出テタル者ハ本條ニ依リ重キニ從テ處分スヘキモノトス

第二百六十八條 偽計又ハ威力ヲ以テ糶賣又ハ入札ヲ妨害シタル者ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十九條 偽計又ハ威力ヲ以テ農工ノ業ヲ妨害シタル者ハ亦

前條ニ同シ

(疑義) 官ノ所有ニ係ル海河池沼ニ於テ區域ヲ限リ許可ヲ受ケ税金ヲ納メ網或ハ銃鉋ヲ以テ漁獵ヲナスモノアリ此等ノモノハ豫メ餌ヲ設ケ魚鳥ノ群集スルヲ待テ捕獲スルモノナリ然ルニ其魚鳥ノ群集スルノ時ニ於テ故意ヲ以テ石ヲ投シ或ハ聲ヲ發シ其他種々ノ方法ヲ以テ魚鳥ヲ散亂セシメ漁獵者ノ利益ヲ妨害シタルモノアリ之ヲ本法ニ照スニ本章ニハ商農工ノ業ヲ妨害スルノ罪アリト雖モ漁獵ハ少シク農業ニ類似スルモ之レヲ以テ漁獵ハ即チ農ナリト論スルコト能ハス然ラハ本法ニ正條ナキモノトシ之レヲ罰スルコトヲ得サル歟

(説明) 漁獵ノ業モ亦農業中ニ包括スヘキモノナルヲ以テ若シ偽計威力ヲ用ヒ其業ヲ妨害シタル者ハ本條ニ問フヘキモノトス然レトモ偽計威力ヲ用ヒタル者ニ至テハ本法中其制裁ナキニ依リ民事ノ賠償ニ止マルヘキモノトス

第二百七十條 農工ノ雇人其雇賃ヲ増サシメ又ハ農工業ノ景況ヲ變セシムル爲メ雇主及ヒ他ノ雇人ニ對シ偽計威力ヲ以テ妨害ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下罰金ヲ附加ス

第二百七十一條 雇主其雇賃ヲ減シ又ハ農工業ノ景況ヲ變スル爲メ雇人及ヒ他ノ雇主ニ對シ偽計威力ヲ以テ妨害ヲ爲シタル者ハ亦前條ニ同シ

第二百七十二條 虚偽ノ風説ヲ流布シ穀類其他衆人需用物品ノ價直ヲ昂低セシメタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九章 官吏瀆職ノ罪

第一節 官吏公益ヲ害スル罪

第二百七十三條 官吏其管掌ニ係ル法律規則ヲ公布施行セス又ハ他ノ官吏ノ公布施行ヲ妨害シタル者ハ二月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十四條 兵隊ヲ要求シ及ヒ之ヲ使用スル權アル官吏地方ノ騷擾其他兵權ヲ以テ鎮撫ス可キ時ニ當リ其處分ヲ爲サル者ハ三

月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十五條 官吏規則ニ違背シテ商業ヲ爲シタル者ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二節 官吏人民ニ對スル罪

第二百七十六條 官吏擅ニ威權ヲ用ヒ人ヲシテ其權利ナキ事ヲ行ハシメ又ハ其爲ス可キ權利ヲ妨害シタル者ハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

〔參照〕 明治十五年八月二十一日

司法省丁第四十一號大審院裁判所へ達

今般太政官ヨリ左ノ通御達有之候條此旨相達候事

太政官達 明治十五年八月十五日
陸軍上等卒ニシテ刑法特ニ官吏ノ爲メニ定メタル罪ヲ犯シタル時ハ都テ官吏ニ準シ候

儀ト可心得此旨相達候事

第二百七十七條 人ノ身体財産ヲ妨害スルノ犯人アルニ當リ豫審判事檢事警察官吏報告ヲ受ケテ速ニ保護ノ處分ヲ爲サ、ル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

〔疑義〕 本條ニ記載スル官吏私用ニテ途中往來或ハ夜中私宅ニ寢臥スルノ時刻等即チ其職務ヲ行ハサル節報告ヲ受ケテ保護ノ處分ヲ爲サ、ルモノ、處分如何

〔説明〕 本條ハ官吏職務ヲ行フ際報告ヲ受ケタル場合ヲ定メタルモノナレハ職務ヲ行ハサル節其保護ヲ爲サ、ルトテ本條ニ依リ處分セラレヘキモノニアラス但司法警察官ノ如キ別ニ規則ノ設アリテ休暇私宅ニアル時モ尙ホ報告ヲ受ケタルキ保護ノ處分ヲ行フヘキ職制アルモノハ此限ニアラサルナリ

〔疑義〕 本條ニ人ノ身体財産ヲ妨害スルノ犯人アルニ當リ豫審判事檢事警察官吏及其報告ヲ受ケテ速ニ保護ノ處分ヲ爲サ、ル者ハ云々トアリ右警察官吏トハ司法警察官及ヒ巡查ヲモ包含スル歟
〔説明〕 本條ニ記載シタル警察官吏トハ司法警察官ナルコトハ勿論ナレトモ巡查ハ該條ニ含蓄セサルモノトス

(參照) 根室輕罪裁判所檢事ヨリ司法省へ刑法第二百七十七條疑義ニ付請訓

第一條 刑法第二百七十七條身體財産ヲ妨害スルノ犯人アルニ當リ豫審判事檢事警察官吏具報告ヲ受ケテ速ニ保護ノ處分ヲ爲サ、者ハ云々トアリ右ハ公務ノ餘暇則登樓ノ如キ場合ト雖モ該報告ヲ受ケタル以上ハ無論職權ヲ以テ其保護ノ處分ヲ爲ス可キ者ト心得可然ヤ將タ公務ノ餘暇ナルヲ以テ治罪法第百五條ニ依テ通常凡人ノ資格ヲ以テ其處分ヲ爲ス可キ歟

第二條 右ハ二百七十七條ニハ治罪法第六十條警視警部區長郡長治安判事警部ノ在ラサル地ノ戸長等モ該條へ含蓄シ居ル無論ノ儀ト心得可然ヤ

明治十六年十月五日

第一條 職務外ノ時間ト雖モ相當ノ處分ヲ爲スヲ得但之ヲ爲サ、ルモ刑法ノ間フ所ニ非ス

第二條 見解ノ通

右及内訓候也

明治十六年十月三十日

第二百七十八條 逮捕官吏法律ニ定メタル程式規則ヲ遵守セスシテ人ヲ逮捕シ又ハ不正ニ人ヲ監禁タル者ハ十五日以上三月以下ノ重

禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但監禁日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ

第二百七十九條 司獄官吏程式規則ヲ遵守セスシテ囚人ヲ監禁シ若クハ囚人ヲ出獄セシム可キノ時ニ至リ之ヲ放免セサル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

(參照) 囚人放免時日過誤之者處分之儀ニ付青森縣ヨリ司法省へ伺
明治十六年六月廿八日
刑法第二百七十九條ニ司獄官吏程式規則ヲ遵守セスシテ囚人ヲ監禁シ若クハ囚人ヲ出獄セシムル時ニ至リ之ヲ放免セサル者ハ云々トアルハ即チ故意擅行ニ出ツルモノニ限ルハ勿論ナリト雖モ若シ故意擅行ニ非スシテ放免スヘキ時日ヲ誤算スル者ハ本屬長官ニ於テ懲戒例ニ據リ處分スヘキモノニ止マリ刑法ニ於テ論スルノ限リニアラサル儀ト心得可然哉此段相伺候也

指令 伺之通 明治十六年七月十三日

第二百八十條 前二條ニ記載シタル官吏又ハ護送者囚人ニ對シ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所爲ヲ施シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ囚人ヲ死傷ニ致シタル時ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

第二百八十一條 水火震災ノ際官吏囚人ノ監禁ヲ解クヲ怠リ因テ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加フ

第二百八十二條 裁判官檢事及ヒ警察官吏被告人ニ對シ罪狀ヲ陳述セシムル爲メ暴行ヲ加ヘ又ハ陵虐ノ所爲アル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
因テ被告人ヲ死傷ニ致シタル時ハ毆打創傷各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

適例

○明治廿二年四月十日判決 熊本縣士族丸山安貞
(摘要) 巡查カ刑事被告人ニ對シ暴行ヲ加フルモ巡查ヲ以テ刑法第二百八十二條ノ警察官吏ト云フヲ得サルニ付毆打罪ヲ以テ論ス可シ
刑法第二百八十二條ニ裁判官檢事及ヒ司法警察官吏被告人ニ對シ罪狀ヲ陳述セシムル

爲ノ暴行ヲ加ヘ云々トアリ其警察官吏トハ法律上被告人ニ對シ訊問ヲ爲ス可キ資格アルモノヲ指稱シタル法意ニシテ巡查ハ之レニ包含セサルヲハ上告論旨ノ如クナリトス而シテ當時被告人カ職務如何ヲ監察スレハ原判文ニ被告ハ熊瀨村巡查駐在所勤中云々トアリテ其資格ナキコトハ明カナルニ之レニ對シ原裁判所カ刑法第二百八十二條ヲ適用シ處斷シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリトス依テ治罪法第四百廿五條ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ直ニ裁判言渡ヲ爲ス云々

第二百八十三條 裁判官檢察官故ナクシテ刑事ノ訴ヲ受理セス又ハ遷延シテ審理セサル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
其民事ノ訴ニ係ル者亦同シ

第二百八十四條 官吏人ノ囑托ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
因テ不正ノ處分ヲ爲シタル時ハ一等ヲ加フ

(疑義) 判事勸解事件ニ關シ賄賂ヲ收受シタルモノアル片ハ本條ノ處分ヲ受クベキモノナルヤ將ヲ第二百八十五條ノ處分ヲ受クヘキモノナルヤ

(說明) 勸解ハ一ノ訴訟手續ニアラスシテ訴訟ヲ防遏スルノ方法ナリ即チ第二百八十五條ニ所謂裁判官民事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ云々トアルニ該當セス本條ニ所謂官吏人ノ囑托ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ云々トアルニ依リ處分スルヲ當然ナリトス

(疑義) 押丁未決囚徒ノ囑托ヲ受ケ賄賂ヲ收受シテ外人ニ書信ヲ通シタルモノアリ押丁ハ監獄職員ノ一人ナレハ本條ニ依リ處分スヘキモノナルヤ

(說明) 押丁ハ雇人ニシテ官吏ニアラサルヲ以テ本問ノ場合ニ於テハ本條ニ依リ處分スヘキモノニアラス只懲戒處分ニ依ルノ外ナカルヘシ

(疑義) 爰ニ常人官吏ト共二人ノ囑托ヲ受ケ賄賂ヲ收受セシ事件アリ因テ本條ヲ案スルニ該條ハ身分官吏ニシテ初メテ其罪ヲ組成スルモノニシテ常人ハ假令共犯タルモ該條ニ問擬ス可キモノニ非サルヘシ然ルニ或ハ曰ク身分ニ因リ罪ト爲ルヘキ者ノ共犯人ハ其身分ヲ有セサルモ身分ヲ有スル者ニ適用スヘキ刑ニ處スヘキモノナリト然ル片ハ本件ノ如キモノハ官吏ノ共犯トシテ該條ノ刑ニ處スヘキモノ、如シト雖モ該法文ヨリ觀ルキハ常人ハ之ヲ罰スルヲ得サルモノ、如シ假令之レヲ罰セサルモ又實際弊害アルヲ見ス然レモ前記論者ノ説モアレハ之レヲ如何ニ處分ス可キヤ

(說明) 本條ノ犯罪即チ官吏收賄ハ其犯罪組成要素ニ官吏タルノ一資格ヲ要スルモノ

ニシテ官吏タルモノニアラサレハ決シテ主犯者トナルヲ得サルモノナリ則チ常人ニシテ收賄ノ所爲アルモ該條ノ犯罪ヲ組成セサルナリ然ラハ其單獨犯ノ場合ト共犯ノ場合トニ依リ其論理及ヒ罪犯構成要素ヲ異ニスルノ理アラサルヲ以テ假令共ニ收賄ノ所爲ヲ行フモ常人ヲ犯者ノ籍ニ入ルヘキモノニアラス何トナレハ前キノ所謂一要素即チ官吏タルノ資格ヲ缺クモノナルヲ以テ到底該條ノ犯罪ヲ構成スルヲ得サルヲ以テナリ但本條收賄罪ノ教唆者及ヒ從犯者ハ此限ニアラス何トナレハ正犯ハ前キノ所謂犯罪構成ノ要素ヲ必要トスルモ教唆者從犯者ニ至テハ特ニ其條件ヲ要スルコトナク當教唆者ハ犯罪ヲ教唆シ從犯者ハ主犯ヲ幫助セタルノ故ヲ以テ直チニ其犯罪ヲ構成スルモノナレハナリ

第二百八十五條 裁判官民事ノ裁判ニ關シテ罰金ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ不正ノ裁判ヲ爲シタル時ハ一等ヲ加フ

第二百八十六條 裁判官檢察警察官吏刑事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五

圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ被告人ヲ曲庇シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其被告人ヲ殺害シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ枉斷シタル所ノ刑此刑ヨリ重キ時ハ第二百二十一條第二百一十二條ノ例ニ照シテ反坐ス

(疑義) 刑事裁判官事後ニ財ヲ受ケタルモノアルハ仍ホ本條ニ依リ處分スヘキ乎

(説明) 刑事裁判官事後ニ財ヲ受ケタルハ本條ニ依テ處斷スヘキモノニアラスト雖モ若シ事前ニ於テ賄賂ヲ聽許シテ事後ニ至リ財ヲ受ケタルノ事實明瞭ナル場合ニ於テハ本條ニ依リ處分セサルヘカラサルハ當然ナリトス

第二百八十七條 裁判官檢事警察官吏賄賂ヲ收受聽許セスト雖モ情ニ徇カヒ又ハ怨ヲ狹サミ被告人ヲ曲庇陷害シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第二百八十八條 前數條ニ記載シタル賄賂已ニ收受シタル者ハ之ヲ

沒收シ費用シタル者ハ其價ヲ追徴ス

(疑義) 本條ノ犯者ニ對スル追徴金ハ之ヲ納完セサル場合ハ民事裁判官へ請求シ身代限ヲ以テ其徴收ヲ爲シ尙ホ不足ヲ生スル時ハ身代持直シタル時ヲ待チ徴收スヘキハ勿論ナルヘシト雖モ右追徴ハ被告人ノ一身ニ止ム可キモノナルヤ否ヤ

(説明) 本條ニ依リ被告人ニ對シ費用代價金追徴ノ言渡アリテ其裁判確定シタル時ハ政府ハ被告人ノ財産上ニ付キ債主權ヲ得タルモノナルヲ以テ被告人ノ一身ニ止マラス其子孫ニ至ルマテ之ヲ追徴スルヲ得ヘキモノトス

第三節 官吏財産ニ對スル罪

第二百八十九條 官吏自ラ監守スル所ノ金穀物件ヲ竊取シタル者ハ輕懲役ニ處ス

因テ官ノ文書簿册ヲ増減變換シ又ハ毀棄シタル時ハ第二百五條ノ例ニ照シテ處斷ス

(疑義) 茲ニ町村吏員即チ收入役ニ於テ徵收シ自ラ監守スル所ノ地租金ヲ竊取セシモノアリ抑モ收入役ナル者ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會ノ選任ニ出テ官署ノ任命ニ屬セサル吏員ナリト雖モ租稅其他諸般入額ノ徵收ヲ管掌スルニ至テハ即チ官吏ノ職務ニ異ナラサルヲ以テ之カ罪ヲ斷スルニ至リ本條ヲ適用スヘキカ又ハ其管掌スル所官吏ノ職務ニ異ナラスト雖モ本來民選ニ屬スル吏員ナルヲ以テ本條ニ依リ處分スヘキ者ニハアラサル乎

(說明) 町村吏員即チ市長以下總テ官吏ニシテ其取扱チ爲サトルヲ以テ該收入役カ其收入スル會員チ自カラ竊取シタリト雖モ之チ常人視スルハ勿論ナリ就テハ是レ等吏員ノ犯罪ハ本條ヲ適用スルノ限ニ非ラス

(疑義) 戶長役場筆生宿直夜官金竊取シタル者ハ本條ニ問フヘキモノナルヤ否

(說明) 戶長役場筆生ノ如キハ其身分上ヨリ之ヲ見レハ素ヨリ官吏ト稱スヘキ者ニ非スト雖モ其行フ所ノ職務上ヨリ之ヲ觀レハ即チ官吏タルノ資格ヲ以テ職務ヲ行フコトアリ乃チ彼ノ宿直ノ如キハ一私人ノ資格ヲ以テ爲スコトニ非スシテ戶長ノ代理ニテ書類公金等ヲ保管スルモノニシテ此餘臨時戶長ノ名義ヲ以テ至急ヲ要スル事務ヲ處理スルコト亦アルヘシ果シテ然ラハ則宿直中ニ官金ヲ竊取シタルカ如キハ全ク官吏ノ職務ヲ行フニ當テ其職務上ニ關シ罪ヲ犯シタルモノナルヘシ若シ夫ノ宿直ノ如キチ官吏ノ職務ニ非スト爲シ筆生ノ所爲ハ一私人受寄財物ヲ費消シタル罪ニ該當スルモノナリト

シテ之チ處分スルハ大ニ取締上ニ不都合チ生ス何トナレハ其刑タル僅々一月以上二年以下ノ重禁錮ニ過キサレハナリ依テ總テ如此場合ニ於テハ其身分官吏タラサルモ其職務ハ則チ官吏タルノ資格ヲ以テ之チ行ヒタルモノト爲シ官吏ニ準シ本條ニ依リ處分スヘキハ當然ナリトス

(疑義) 茲ニ職務上一時ノ收受ニ係ル金圓チ中間私カニ費用シ免職ノ際後任者ニ事務曳繼チ爲ス片後日ノ發覺チ恐レ曳繼書面ニ既納ノ金ニ對シ未納ノ名チ附シ以テ後任者ニ交付シタルモノアリ今之カ罪ヲ斷スルニハ本條第一項ヲ適用スルノ穩當ナルヲ覺ユレモ其曳繼書面モ亦官ノ文書ヲ以テ論シ本條第二項ニ照ラシ處分スヘキモノナル歟然レモ其後任者ニ對シ交付シタル書面ハ只申傳ヘ置クモ足ルヘキモノナレハ該後任者ノ心得迄ニ筆記シテ交付シタル一遍ノ演說書ニ外ナラス然レハ是等ノ書面ハ官常置ノ文書簿冊ト同シク論スルノ限リニアラサル可シ是ヲ以テ若シ當時被告カ演說書ヲ以テモスシテ宜シク口頭ノミニ止マルトキハ恐ラクハ尋常監守盜ノミニシテ官ノ文書ヲ變換シタルノ所爲ナキニ至ル可シ果シテ然ラハ彼ノ所謂官ノ文書ト今被告カ爲シタル演說書トハ其涇渭ノ別アルモノ、如シ右ハ如何ニ決スヘキヤ

(說明) 本件ノ文書タル只申傳ヘ置クモ足ル後任官ノ心得迄ニ筆記シタル者ナレハ其書面ヲ以テ金錢出納ヲ證明スル正當ノ官文書ト同視スルヲ得サルヲ以テ前段ノ場合ハ止テ監守盜ノミチ以テ罰スヘキモノトス

(疑義) 郵便局備置監守盜ハ官吏ノ犯罪ニナラサルヤ否

(說明) 前段疑義ハ官吏ニ準スベキ者ニ係ルルハ本條ニ依リ處分スヘキモノトス

(疑義) 茲ニ地方廳會計課公債係官吏アリ已ニ人民ヘ正金引換ニ收領シタル處ノ金錄公債証書ノ利札若干ヲ監視中明治十六年自己ノ私債ヲ償ハシカ爲メニ該札ヲ竊取シ而シテ札中記載スル利子拂渡ノ年度即例ヘハ明治十五年トアル五ノ字ヲ七ノ字ニ描改シ翌年度ノ体ト爲シ之ヲ他ニ抵當トシ金員若干ヲ借用セシモノアリ右竊取セシ所爲ハ本條ニ依リ其欺キテ抵當トセシ所爲ハ本法第三百九十九條ニ依ルヘキハ勿論ナリト雖本年度ヲ描改セシ所爲ハ第二百四十四條ニ公債証書云々官吏ノ公証シタル文書ヲ偽造シトアルニ依ルヘキヤ又ハ第二百五條官吏其管掌ニ係ル文書云々變換シトアルニ依ルヘキヤ且利札ハ一旦引換ノ後ニアリテ其効力ハ已ニ廢絶セシモノナレハ單ニ官ノ物件ト云フニ止リ其描改シタル所爲ハ詐僞ノ手段中ニ包含シタルモノト爲シ右第二百四十四條又ハ第二百五條ニ問擬スヘキノ限リニアラザル歟

(說明) 本件ハ縱ヒ正金ニ引換ヘ領收シタル公債証書ノ利札コシテ已ニ其効力無キ者ト雖ハ公債証書タルニ妨ケナク苟モ之ヲ管掌ス可キ公債係ノ官吏ニシテ之ヲ竊取シ又其眞實ヲ變換シ惡意ヲ以テ之ヲ行使シ他人ヲ損害シタル者ナレハ本條并ニ第二百五條及第三百九十九條ニ依リ處斷スヘキモノトス

適例

○明治廿一年三月廿四日判決 廣島縣平民井口顯司

(摘要) 筆生戸長ノ代理中金員ヲ竊取スレハ監守盜ヲ以テ處斷ス可シ
前擴張論旨ハ所謂官吏ノ資格アリヤ否ヤノ點ハ固ヨリ筆生ヲ以テ輒スク官吏ナリト指稱シタルニアラス監守盜タル戸長代理トナリ豊田郡役所ニ出張中文書偽造行使シ金員ヲ竊取シタルモノナレハ原裁判所カ適用シタル各法條(按スルニ刑法第二百八十九條等)ハ至當ニシテ事實及ヒ法律ノ理由ヲ明示シタルモノナリ

(參照) 官林看守者其職務ニ付テノ處分等ノ儀ニ付長崎縣ヨリ司法省ヘ伺
明治十六年十一月二十日ノ内

第一條 雇員犯罪處分ノ義ニ付本年十月第四八二五號ヲ以テ御内訓ノ次第有之右ハ戸長役場筆生ノミナラス一般雇員ト雖ハ官吏ノ行フヘキ職務ニ付テノ犯罪及ヒ他人ノ其職務ニ對シタル犯罪ハ總テ官吏ト同シク處分スヘキモノニ可有之依テハ官林看守人ノ如キモ其山林ノ竹木ヲ竊取シタルハ刑法第二百八十九條ニ依リ處分シ又職務執行中即チ官林監視ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ看守人ニ抗拒シ或ハ其目前ニ於テ侮辱シタル者ハ刑法第三章第二節ノ各條ニ依リ處分スヘキヤ

指令 明治十六年十二月廿日ノ内

第一條 官林監守ノ如キハ官吏ノ行フヘキ職務ト爲サ、ルニ依リ監守人職務ニ付テノ犯罪及ヒ職務ニ對スル犯罪ハ官吏ト同視シテ處分スルヲ得ス

第二百九十條 租稅其他諸般ノ入額ヲ徵收スル官吏正數ノ外金穀ヲ徵收シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百九十一條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三編 身體財産ニ對スル重罪輕罪

第一章 身體ニ對スル罪

第一節 謀殺故殺ノ罪

第二百九十二條 豫メ謀テ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ノ罰ト爲シ死刑ニ處ス

(疑義) 茲ニ一女アリ人ト通シ一兒ヲ孕ム其女之レヲ愛ヒ分娩ヲ待テ之ヲ殺サンコトヲ謀リ姦夫モ亦之レニ同意シ其後分娩セントスル際姦夫ハ自ラ産婆ニ代リ害殺ノ準備ヲ爲シ分娩アルヤ否直チ之レヲ絞首シタルモノハ故殺ナリト云フモノアリ今其說ヲ聞クニ本條ニ所謂豫メ謀ルトハ世ニ生存セル人ニ對シ豫メ謀ルヲ謂フモノニシテ胎兒ニ對シ之ヲ適用スルヲ得ス蓋シ本條ハ豫メ謀テ人ヲ殺シ云々トアレハ則チ胎内ニアル兒ハ未タ人ト云フヘカラサルカ故ニ胎兒ヲ殺サント豫謀シタルモノ人ヲ殺サント豫謀シタルモノト論スルヲ得ス然ラハ則チ出産ノ際始メテ人ヲ殺スノ意思ヲ生シタルモノトシ故殺罪ニ問ハサルヘカラスト右ハ果シテ適説ナル乎

(説明) 胎兒ハ法律上之ヲ通常ノ人ト見做サ、ルコトハ墮胎ノ爲以テ謀故殺ニ問ハスニテ特別ノ罪ト爲シタルヲ以テ立法ノ精神ヲ窺フニ足ルヘシ然レハ殺兒ノ所爲豫メ謀ル

所ニ係ル場合ニ於テモ其豫謀タル現ニ殺害ヲ遂ク可ラサル胎兒ニ對スルモノナルキハ謀殺ヲ以テ論シ難キカ如シト雖凡ソ謀殺ノ罪タル豫メ謀ルト人ヲ殺ストノ二條件ヨリ成ルモノニシテ右ノ所爲ハ此二條件ヲ具備スルノミナラス豫謀ノ當時ニ於テ被殺者ノ現有スルト否トハ謀殺ノ成立ニ關係ナキモノトス故ニ本件ハ謀殺ノ所爲ヲ以テ論セサルヘカラス

(疑義) 墮胎壓死ノ事タル元來父子ノ倫理ニ基キ化育ノ天心ニ戻リ容易ナラサルコトナリト雖凡本邦ノ俗古來其禁ヲ犯スモノ擲ナカラス維新以降責ニ地方ニ任スル者益其矯正ニ吸々タル比々皆然リト雖下等人民ニ至ツテハ未タ全ク其跡ヲ絶タス凡其因一ニシテ止マスト雖モ或ハ貧窮ニシテ多子ヲ舉クルヲ能ハス或ハ私生ニシテ之ヲ公舉スルヲ能ハス或ハ適宜舉兒ノ數ヲ限ルノ慣習等ニ外ナラス而シテ其事タル或ハ壓死ニ忍ヒス母体ヲ顧ミス一ニ醫師穩婆ニ托シ或ハ間接ニ劇藥ヲ内服シ或ハ直接ニ子宮ヲ刺戟シ以テ墮胎ヲ計リ或ハ貧窶醫師穩婆ニ託スルノ資ナク又母体ノ健全ニ望ムアリ忍ヒテ自ラ壓死ヲ致スノ類ヲ多シトナス其情ヲ問ヘハ則曰ク大ニ益シ少ヲ損スル萬止ムヲ得サルニ出ツト其陋俗實ニ言ニ忍ヒサルモノアリ是以テ墮胎ノ罪ニ至テハ刑法載セテ明文アリ唯壓死ニ至テハ他ノ據ルヘキナク乃チ之ヲ論セント欲スル既ニ分娩生ヲ稟クルモノハ人ヲ以テ之ヲ名クヘク胎ヲ以テ之ヲ目スヘカラス又受胎以降男女互ニ熟議シ分娩ヲ俟テ之ヲ壓死ニ致スハ之ヲ擬スルニ謀殺ヲ以テスヘク墮胎ヲ以テスヘカラス然レ

凡自ラ轉シテ之ヲ願ミレハ其情狀既ニ前陳ノ如クニシテ夫ノ私怨ヲ挾ミ姦情ヲ逞フシ利慾ヲ熾ニシ百計人ヲ死ニ致スノ兇惡ト日ヲ同シテ語ルヘカラス又其權衡ヲ揚クルニ墮胎ニ在テハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處スヘク壓死ニ在テハ死刑ニ處セサルヲ得ス其輕重相距ル亦甚シト謂フヘン舊律ニ於ルモ尙且嬰兒ト大人トヲ分チ又之レヲ細別シテ各等親ヲ立テ毆祖父母々々條ニ依ルモ徒三年ノ處刑ニ過キス況ンヤ新刑法ニ於テチヤ其法意ノ存スル處斷シテ輕減ニ在ルヲ明ラカナリ因之觀之トキハ所謂壓死ナル者既ニ分娩后ニ係ルト雖凡未タ膝ニ上ラス哺ニ就カス産門ヲ出ルヤ否ヤ不幸ニ陷ルモノタルヲ以テ之ヲ墮胎中ニ包含スルトコロ、一分トナシ刑法第三百三十條ニ依リ處斷シ得可キヤ

(説明) 墮胎ノ手段ヲ爲シタルニ非シテ豫メ謀テ壓死スルモノハ謀殺ヲ以テ論セサルヲ得ス憫諒ノ情狀アルモノハ酌量減輕ヲ爲スヘキ者トス但法律上ノ輕減ニテ尙ホ重シトスルノ情狀アルモノハ特赦ノ意見ヲ具シ申立ツルモ妨ケナカル可シ

(疑義) 夫妻間ニ二子アリ一戸四人口其長女五歲次女三歲夫妻常ニ二子ヲ愛育ス偶不幸ニシテ火災ニ罹リ赤貧爲ス所ナク窮乏日ニ迫リ業既ニ口ヲ糊スルニ道ナク策ノ出ル所ヲ知ラズ終ニ其實子ヲ殺シ以テ凍餒ノ苦ヲ脱セント謀リ妻ヲシテ其情ヲ知ラシメス或夜竊ニ二子ノ熟睡スルヲ慮リ刺刀ヲ執テ先ツ長女ノ咽喉ヲ切り從テ次女ニ及ブ長女兇行者ノ其父タルト知ラス俄ニ起テ啼叫其父ヲ喚フ此ニ於テ無情殘忍ノ兇行者ト雖

凡親子ノ愛情勃興シ復タ之ヲ刺シテ素懷ヲ遂クルノ念ナク忽チ刀ヲ投シテ向キノ慘刻酸鼻ノ所爲ヲ悔ヒ自カラ長女ヲ抱キテ之ヲ勤ハル時ニ家人驚キ覺メテ事ヲ官ニ報シ兇行者直チニ捕ニ就ク而シテ負傷者二名ヲ治療セシムルニ長女ハ日ヲ隔ツル三日ニシテ醫藥功ヲ奏セス終ニ創ノ爲メニ死シ次女今尙生存ス以上ノ事實ナレバ其謀殺犯タ・一ハ敢テ疑ナキ所ナリ然ルニ其犯罪ノ終リタル際ニ於テハ被害者未タ死セサルニ被告ハ蚤ク其目的ヲ變シ強テ之ヲ殺シ遂クルノ念ナク却テ之レヲ介抱セリ其形狀宛モ未遂犯ノ如シト雖モ畢竟被害者其受ケタル創ノ爲メニ他日死ニ至ルニ於テハ苦痛鳴號ノ聲ヲ聞キ未タ其死セサルヲ知リ再ヒ刀ヲ執テ之ヲ殺害シ果タムト同シク謀殺既遂ヲ以テ論ス可キカ或ハ縱令負傷スルモ被害者ノ強弱ト治療ノ功拙トニ由テ其或ハ生ヲ保ツ可キヤモ又タ未タ知ル可カラス故ニ犯罪ノ當初醫師ノ診斷ニ必ラス治療ス可カラサル者ト云フニ非サレハ負傷後治療日數ノ長短ニ關セス治療ノ届カサルヨリ死シタルハ是レ自然死ニ到リタルモノニシテ法律上被告ノ殺害シタルモノトハ微々異ナル所アツテ謀殺未遂ヲ以テ論ス可キモノ、如ク右既遂未遂ノ區域如何

(説明) 前段ノ如キハ既ニ重傷ヲ與ヘ爲メニ其死ヲ致シタル者ナレハ仮令中間悔悟介抱ヲ爲ス等其情狀頗ル憫諒スヘキモノアリト雖モ到底謀殺既遂ヲ以テ論セサルヲ得ス

適例

○明治十九年六月廿二日判決 山形縣平民大山新藏

〔摘要〕 他人ノ寢ニ就クヲ待チ其熟睡スルヲ窺ヒ其家ニ忍ヒ入り入ヲ殺傷シタルモノハ謀殺罪ヲ以テ處斷ス可シ

前略其第二ノ理由ニ付原言渡ヲ鑑査スルニ(前)前夜約束ノ如ク同行ス可シト談話セシニ「セキ」カ夫寅之助ノ在ルアレハ行カレヌト言切リ直ニ家ニ入りタル迹ニテ考フルニ「セキ」カ前夜ノ約ヲ變更シ同行セサルハ寅之助ノ在ル故ナレハ寅之助ヲ取除クニ於テハ「セキ」ヲ連レ行クモ自由ナラント願ニ殺意ヲ發シ云々寅之助夫婦ハ蚊帳ノ内ニ寢臥シ目ヲ窺サハルヨリ寅之助ノ體ヲ蚊帳ノ外ニ出シ携ヘ行キシ斧ヲ振上ケ寅之助ノ首ヲ目懸ケ切付ケ而シテ絶命シタルヲ覺リ(云々)トアリテ毫モ故殺ノ情況ナク却テ「セキ」カ違約セバ寅之助ノ在ル故ナレハ之ヲ除カント熟考シ同人ノ寢ニ就クヲ待テ殺害シタル即チ純然タル謀殺ノ事實ヲ認メナカラ法律適用ニ至リ刑法第二百九十四條ノ故殺ヲ以テ論シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト判定ス

○明治十九年九月廿日判決 高知縣平民山本篤藏

〔摘要〕 殺意アリテ兇器ヲ携ヘ入チ追蹤シタル片ハ殺害ノ執行ニ着手シタルモノトス上告ニ因リ原判文ヲ閱スルニ「被告篤藏ニ於テ「ヤク」ヲ殺害シ尋テ「シヤウ」モ殺害スヘキノ決意ヲ爲シ云々「シヤウ」ハ突然窓ヨリ飛下リ逃走シタルヲ以テ篤藏ハ直ニ其斧ヲ携ヘ同シ窓ヨリ飛下リ之ヲ追蹤シタルモ暗夜ニシテ其踪跡ヲ失シ云々」ト事實ヲ記載アリテ已ニ其所爲ニ着手シタルヲ明瞭ニシテ犯罪ノ豫備ニ止マルトナス可カラズ抑モ犯

罪ノ着手トハ己ニ其行爲ニ取掛リ意匠全ク外形ニ露ハレタルヲ云フモノニシテ被告ノ如キ己ニ兇器ヲ弄シタル以上ハ假令未タ一撃ヲ試ミサルモ犯罪ノ着手タルヲ免カルヘカラス則チ刑法第百十二條ノ所謂未遂犯者ナルモノトス果シテ然ラハ原會議局カ豫審ノ終結ヲ認可シタルハ相當ニテ上告ノ原由ナキモノトス

○明治二十年十月廿六日判決 千葉縣平民江波戸林藏

(摘要) 原判文中單ニ忿恨ヲ忍ヒ我モ亦了管アリトノ一語ヲ殘シ又ハ覺悟セヨト斬リ付ケタル云々ノミコテハ事實理由ノ不備ニシテ直ニ謀殺罪ト云フヲ得ス

本案上告第一点ハ要スルニ原裁判官カ職權ヲ以テ爲シタル事實ノ認定ト採證ノ當否ヲ論難スルモノナレハ固ヨリ上告ノ理由ト爲スヲ得スト雖其第二点及ヒ本院檢事ノ附帶上告論旨ノ如ク原判文中單ニ忿恨ヲ忍ヒ我モ亦了管アリトノ一語ヲ殘シ一旦常吉方ヲ立去リ自宅ニ歸リ所有ノ脇差ヲ取出シ云々トアルモ其言語舉動ハ必ズシモ殺意ヲ決シタルモノト云フヲ得サルハ勿論今泉ノ且那覺悟セヨト云ヒ斬リ付ントシタルモ亦然リ必竟何レノ時ニ於テ被告ハ殺意ヲ決シタルモノナル乎是等緊要ノ事實ヲ明示セサルハ本院檢事附帶上告論旨ノ如ク事實理由ヲ付セサル不法ノ裁判ニシテ治罪法第四百十條第九ニ適スル破毀ノ原由アルモノトス

○明治廿二年一月十七日判決 兵庫縣平民西田キヌ外一名

(摘要) 生産前生兒ヲ分娩セハ殺害セント謀ルモ謀罪ニアラス故殺ナリトス

妊娠中ノ婦女ニ對シ分娩セハ其兒ヲ殺ス可シト教唆スルモ教唆罪ヲ組成セス
 刑法第百九十二條ニ規定シタル謀殺罪ノ組成センニハ一個人ニ對シテ豫謀殺害ノ所爲ヲ行フタルヲ要ス然ルニ本件ノ如キ母ノ胎内ニアリテ社會ニ生出セサル者ハ未タ完全一個人ト稱ス可カラサレハ假令出産前殺害セント謀リタルモ之ヲ以テ謀殺ノ豫備ト爲シ難ク即チ出産ノ當時始メテ殺意ヲ生シタルモノナリト看做サル可カラズ
 又被告周三郎カ「キヌ」妊娠中分娩セハ其兒ヲ殺ス可シト申勸メタル如キハ社會ニ生存スル人ニ對シ教唆シタルニアラサルヲ以テ謀殺教唆ノ罪ヲ構成セサルヲ論ヲ俟タス故ニ原裁判所カ「キヌ」ノ所爲ニ對シ刑法第百九十四條ヲ適用シ周三郎ノ所爲ニ對シ治罪法第四百一條ニ依リ無罪放免シタルハ相當ニシテ毫モ不法ノ廉アルヲ視サレハ上告論旨ハ不立者トス

第百九十三條 毒物ヲ施用シテ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ヲ以テ論シ死刑ニ處ス

(疑義) 毒物ヲ以テ人ヲ殺サンコトヲ謀リ既ニ其事ヲ行フト雖モ其量人ヲ死ニ致スニ足ラスシテ疾苦ヲ人ニ感セシメタルモノアリ右ノ所爲ハ毒殺未遂ヲ以テ論スヘキヤ否
 (説明) 本疑義ハ毒殺未遂ヲ以テ論スヘキモノ、如シト雖モ抑毒殺罪ヲ構成スルコトハ第一人ヲ生命ヲ害スルコト第二人ヲ殺スニ足ルヘキ毒物ヲ施用スルコトニ元素ヲ具備ス

ルヲ必要トス然ルニ本疑義ノ場合ハ毒物ヲ施用スルモ其量僅少ニノ到底通常人ヲ殺スニ足ラサルモノナリ去レハ則チ前ニ所謂第二ノ元素ヲ欠キタルモノナレハ毒殺未遂ヲ以テ論セス現ニ生シタル害即チ其毒物ノ爲メ被害者ヲシテ疾苦セシメタルハ毆打創傷ノ各本條ニ照ラシ處斷スヘキモノトス

適例

○明治廿二年十二月廿四日判決 廣島縣平民田阪吉之助

(摘要) 依頼ニ因リ毒藥ヲ買與ヘ其之ヲ服用スルニ際シ多量ニシテ死ニ至ルヲ慮リナカラ特更ニ止メサリヨト雖モ毒殺罪ヲ組成セス

上告ニ付原裁判言渡書ヲ檢スルニ森下三平カ梅毒症ニ罹リ「モルヒチ」ノ該病ニ功能アルヲ聞キ藥舖ニテ購求セントシタルモ之ヲ得サリシ趣キヲ以テ被告懇意ノ醫師アルヘキニ付キ「モルヒチ」ヲ買ヒ與レ度シトノ被告ハ依頼ヲ受ケ云々懇意ナル醫師深井純一ヨリ藥舖ヘノ通帳ヲ以テ藥舖ヨリ「モルヒチ」ヲ購求シ明治二十二年六月三日三平カ農業ノ歸途宅前ヲ通過スルヲ酒ヲ呑ム可シトテ呼ヒ入レ共ニ飲酒スルノ際被告ハ右ノ硫酸「モルヒチ」一瓶ヲ三平ニ渡シタルハ必ス三平ハ其死ニ至ルヘキ分量ヲ知ラスシテ其場ニ於テ多量ニ服用スヘキヲ豫想シ之レヲ三平ニ渡シタルニ果シテ三平ハ之ヲ受取リ且ツ分量凡其一瓶ノ四分ノ一弱即チ死スルニ至ルヘキ多量ヲ直ニ手ノ内ニ移シ出シテ服用セントスル際被告ハ即チ之ヲ殺スノ謀計ヲ成マ遂ケントシ其服用ヲ止メスシテ水

ヲ汲ミテ三平ニ與ヘ前顯ノ硫酸「モルヒチ」ヲ頓服セシメタリ因テ三平ハ自宅ニ歸リ同夜右「モルヒチ」中毒ノ爲メ絶命シタルモノナリトアリ抑モ毒殺罪ハ故意ヲ以テ毒藥ヲ施用シ以テ人ヲ死ニ致スニアラサレハ成立セス本案ノ如キハ前顯ノ如ク被告カ三平ニ渡シタル「モルヒチ」ハ三平カ毒藥ニシテ自カラ購求シ得サルカ爲メ被告ニ對シ其懇意ナル醫師ニ就キ購求シ與レトノ依頼ニ付キ被告ニ於テ購求シ渡シタルモノニシテ被告ガ三平ニ對シ其毒藥タルノ情ヲ明カサスシテ殊更ニ渡シタルモノニアラサレハ之ヲ以テ毒藥ヲ施用シタリト云フヲ得ス又其服用スルニ際シ止メスシテ水ヲ與ヘタルモ被告カ三平ニ勢ヒ服用セサル可カラサルノ手段方法ヲ與ヘ服用セシメタルニアラスシテ三平自身ニ病ヲ治センカ爲メ自ラ其「モルヒチ」タルヲ知テ服用シタルモノナレハ是亦毒藥施用ノ所爲ト云フヲ得ス要スルニ三平カ致死ノ結果ヲ招キタルハ自己カ服用ノ適度ヲ誤リ夫レカ爲メ絶命シタルモノニシテ被告ノ豫謀ニ罹リタルニアラサルモノトス故ニ原裁判言渡書ノ認ムル事實ニ依レハ被告ノ所爲ハ只其依頼ニ應ジ購求シ遣ハシタルト三平カ服用スルニ當リ止メスト云フニ過キス故ニ毒藥ヲ施用シテ人ヲ殺スノ罪アリト云フヲ得ス然ルチ原裁判カ此事實ヲ認メナカラ刑法第二百九十三條ニ問擬シタルハ擬律ノ錯誤タルチ免カレサル不法ノ裁判ニシテ代言人擴張論旨ノ如ク破毀ノ原由アルモノトス

第二百九十四條 故意ヲ以テ人ヲ殺シタル者ハ故殺ノ罪ト爲シ無期

徒刑ニ處ス

第二百九十五條 支解折割其他慘刻ノ所爲ヲ以テ人ヲ故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

第二百九十六條 重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ已ニ犯シテ其罪ヲ免ル、爲メ人ヲ故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

(疑義) 茲ニ一ノ被告人アリ司法警察官ノ訊問ヲ受ケ犯情ヲ吐露セシヲ以テ巡查ヲシテ裁判所ニ護送セシムル途中巡查ヲ故殺シタルモノナリ其故殺ノ罪タル通常ノ故殺ヲ以テ論スヘキヤ將タ本條ニ依リ處斷スヘキヤ

(說明) 本條ハ罪ヲ犯ス爲メ又ハ已ニ犯シテ其罪ヲ免ル、爲メ人ヲ殺害シタル者ニ適用ス可キ者ナルヲ以テ本疑義ノ如キハ即チ逃走罪ヲ犯シ又罪ヲ免ル、爲メ人ヲ殺シタルニ外ナラサレハ通常故殺ノ以テ論セス本條ヲ適用シ處斷スヘキモノトス

第二百九十七條 人ヲ殺スノ意ニ出テ詐稱誘導シテ危害ニ陷レ死ニ致シタル者ハ故殺ヲ以テ論シ其豫メ謀ル者ハ謀殺ヲ以テ論ス

第二百九十八條 謀殺故殺ヲ行ヒ誤テ他人ヲ殺シタル者ハ仍ホ謀故

殺ヲ以テ論ス

(疑義) 茲ニ甲ナル者アリ平素乙ト交際ヲナセリ然ルニ事故アリテ乙ヲ怨恨シ之ヲ毒殺センコトヲ企圖シ贈ルニ毒酒ヲ以テス偶乙ノ家ニ丙丁兩人ノ來リ會シ宴ヲ始ム宴酣ナル頃ロ乙ハ其寄贈ノ酒ヲ取り出シ之ヲ飲シ尙丙丁ニモ之レヲ飲セシム忽ニシテ乙丙丁共ニ死ニ至レリ右ハ甲ナル者ノ丙丁ニ對スル罪ハ刑法第二百九十三條ヲ適用スヘキヤ將タ本條ヲ適用スヘキヤ

(說明) 刑法第二百九十三條ニ所謂毒物ヲ施用シテ人ヲ殺シタル者ハ云々其人トハ尙ホ前二百九十二條豫メ謀テ人ヲ殺シタル者ハ云々ノ人ト同シク必スモ其目的トスル所ノ人ヲ指シタルヲ明ナリ故ニ本件ノ如キ丙丁ヲ殺スニ至リタルハ素ト甲ノ意ニ非ス唯乙ヲ毒殺セント欲シテ誤テ丙丁ヲ併殺シタル者ナレハ其丙丁ニ對スル罪ハ即チ本條ヲ適用シ第二百九十三條ヲ適用スヘキモノニ非ス

(疑義) 本條ニ謀殺故殺ヲ行ヒ誤テ他人ヲ殺シタル者云々トアリテ其殺シ得スシテ創傷シ癆篤疾以下ニ致シタル時ノ明文ナシ右ハ左ノ三項ノ内何レヲ適用シテ可ナルヤ

- 一 本條ノ未遂犯ト爲ス可キ乎
 - 二 通常ノ毆打創傷ヲ以テ論ス可キ乎
 - 三 第三百四條ヲ適用スヘキ毆打創傷ト爲ス可キ乎
- (說明) 犯人意外ノ障礙若クハ舛錯ニ出タル場合ハ未遂犯ト爲シ犯人自カラ殺意ヲ止

メタル場合ハ通常ノ毆打創傷ヲ以テ論スヘキモノトス

(疑義) 本條ニ謀殺故殺ヲ行ヒ誤テ他人ヲ殺シタルモノハ尙謀殺故殺ヲ以テ論スト揭載セリ右ハ甲ヲ故殺セントシ意外ニ乙ヲ殺シタル場合ノ如キ者ヲ指シタルモノナル歟而シテ若シ謀殺ヲ行フノ際傍觀人此場ニ立入り之ヲ鎮靜セントシ誤テ兇行者ノ劔及ニ觸レ傷ヲ負ヒタルカ如キハ尙本條ニ依リ謀殺未遂ノ罪ヲ以テ論ス可キヤ將タ第三百十七條以下ノ刑ヲ科スヘキモノナルヤ否

(說明) 傍觀人兇行者ヲ防止セシメ方爲メ誤テ其劔及ニ觸レ負傷シタル如キハ第三百十七條以下即チ過失殺傷ヲ以テ論スルニ似タリト雖本件ハ兇行者ノ爲メニ負傷セシメラレタル場合ト異ナリ自ラ誤テ負傷セシモノナレハ過失殺傷ヲ以テ論スルハ其當ヲ得ス畢竟此等ノ事ニ至テハ實際ノ情狀ニ依ルニアラサレハ一概ニ論定シ難キモノトス

(疑義) 誤殺傷ト過失殺傷ノ區別何レノ点ニ存スルヤ
(說明) 誤殺傷トハ其目的トスル處ノ人ヲ殺傷スル意思アルハ勿論其目的者ナリト誤認シ實際其事柄ニ下手シタルニ豈圖ラシヤ目的者ニアラスシテ他人ヲ殺傷シタルトキニシテ加害者ノ意思ト事實トハ相連絡シテ離ル可カラサルモノヲ云フ是ニ反シテ彼ノ意思ト事實ト相連絡セサルモノ即チ人ヲ殺傷スルニ當リ傍ラニ人アリ過テ是ヲ殺傷シタル場合ノ如キハ是ヲ誤殺傷ト爲スヲ得ス過失殺傷ヲ以テ論ス可キナリ

第二節 毆打創傷ノ罪

第二百九十九條 人ヲ毆打創傷シ因テ死ニ致シタル者ハ重懲役ニ處ス

(疑義) 茲ニ夫ノ父ヲ毆打死ニ致シタル者通常ノ毆打罪ヲ以テ論スヘキヤ將タ第三百六十三條ニ依リ處斷スヘキヤ

(說明) 刑法上配偶者ノ父ハ單ニ親屬ト稱スルマテニシテ其第百十五條ニ所謂父母ト稱スルハ繼父母嫡母云々又ハ養子其養家ニ於ル等ノ關係ヲ有セサルモノナレハ本疑問ノ如キハ無論通常ノ毆打罪ヲ以テ處斷スヘキモノトス

(疑義) 或ル僻邑ノ甲男深夜山道ヲ通行スル際乙女(滿二十五年)ニ行キ遇ヒ強姦セント矢庭ニ乙女ノ手足ヲ縛シ將ニ行ハントセシニ偶々人ノ通行スルアリ甲男大ニ驚キ縛ヲ解カス其儘逃走シタルモ暫時ニシテ再ヒ元ノ場所ニ到リ見レハ狼ノ爲メ乙女ハ身體ヲ嚙マレ絶命シタリ蓋シ其邊ニ時々狼害アルヲ甲男熟知セリト云フ右甲者ノ處分ニ付キ或ハ右所爲ハ第二條ニ依リ無罪ト云フ者アリ又本條ニ依ルヘシト云フモノアリ其他第三百二十三條及第三百二十四條又ハ第三百五十一條ニ問擬スル等種々ノ說アリ右ハ何レカ允當ナルヤ

(說明) 第三百二十三條及第三百二十四條ニ照シ第二百九十九條ニ依リ處分スヘキモノトス

〔疑義〕 第四百十條ニ前條ノ罪ヲ犯シ因テ官吏ヲ毆傷シタル者ハ毆打創傷各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷スト有ハ第三百一條ノ刑ニ一等ヲ加ヘ第三百二十九條ノ刑ト比較シ重キニ從テ處斷スルモノナルヤ

〔說明〕 本條以下ノ刑ニ一等ヲ加ヘ第三百二十九條ノ刑ト比較シ重キニ從テ處斷スヘキモノトス

第二百條 人ヲ毆打創傷シ其兩目ヲ瞎シ兩耳ヲ聾シ又ハ兩肢ヲ折り及ヒ舌ヲ斷テ陰陽ヲ毀敗シ若クハ知覺精神ヲ喪失セシメ篤疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其一目ヲ瞎シ一耳ヲ聾シ又ハ一肢ヲ折り其他身體ヲ殘虧シ癡疾ニ致シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百一條 人ヲ毆打創傷シ二十日以上ノ時間疾病ニ罹リ又ハ職業ヲ營ムコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

其疾病休業ノ時間二十日ニ至ラサル者ハ一月以上一年以下ノ重禁

錮ニ疾ス

疾病休業ニ至ラスト雖モ身體ニ創傷ヲ成シタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處ス

〔疑義〕 憤怒ノ餘婦ノ頭髮ヲ截斷シ髻ヲ爲スニ堪ヘサラシムル者ハ毆打創傷ノ例ニ依リ處斷スヘキヤ若シ然ラストセハ他ニ正條ナキヲ以テ無罪トナサハカラス然レモ是等ノ所爲ヲ無罪トナスハ毆打創傷ノ例ニ異背スヘキモノナラスヤ

〔說明〕 頭髮ヲ切斷スル者ハ身體ヲ創傷スルト同視スヘカラス其所爲素ヨリ惡ム可ク其害亦尠ナカラスト雖モ奈何セン本法ニ正條ナキ以上ハ無罪ト爲シ被害者ヲシテ要償ヲナサシムルニ止マルモノトス

〔疑義〕 本條ニ人ヲ毆打創傷シ云々トアリ抑モ毆打創傷トハ其毆ツ處ノ物手足瓦石棍棒若クハ金刃ヲ問ハス苟クモ人ノ身體ヲ毆擊シ其傷ヲ爲シタル所爲ヲ云フナラン然ルニ左ニ記載スル所爲ノ如キハ唯暴行ト稱スヘキモ之ヲ毆打創傷ノ法律ニ因リ罰スルトセハ文字上允當ナラサルヲ覺フ

一人ト爭論シ其襟袖若クハ頭髮ヲ摑ミ之ヲ土上ニ挽キ爲メニ其身體ニ創傷（俗ニ云フ摑リ傷ノ類）ヲ爲ス者

一人ト爭論シ之レニ向テ唾スル者

一憤怒ニ乘シ人ノ頭髮ヲ拔キ傷ヲ爲ス者
 一憤怒ニ乘シ人ノ頭髮ヲ剪去シ結束スルコトハサレニ至ラシムル者
 (説明) 第一第三本條ニ依ル第二ハ公然其所爲アル者ハ第四百二十六條第十二項ニ依ルヘシ但第四ハ本法ノ問フ處ニ非ス

適例

○明治十九年十二月十日判決 宮城縣平民我妻久太郎

(摘要) 人ノ口論スルヲ見テ怒ヲ發シ之ヲ引退ケタル拍子其人ノ頭部ヲ柱ニ打當テ負傷セシメタルモノハ毆打創傷ヲ以テ論ス可シ

被告カ上告第一論点ニ付原判文ヲ閱スルニ(被告ハ明治十八年九月十二日自宅ニ於テ加藤喜左衛門等數名來會圍坐飲酒ノ際其貸家ニ住居セル栗野甚治妻トミモ來會シ突然被告ノ生母セツト口論ヲ始ムルヤ被告ハ之ヲ見テ俄ニ怒氣ヲ發シトミノ背後ヨリ兩手ヲ廻ハシ腰部ヲ抱キ揚ケ手荒ニ之ヲ引退ケタル拍子トミノ頭ヲ坐中ノ柱ニ打當テ左眼下ヘ打傷ヲ負ハシメ二十日ニ至ラサル時間休業セシメタル事實ナリト認定ス)トアリ其負傷タルヤ怒氣手荒ニ起因セシ効果ニシテ過失創傷ト云フヘキモノニアラス故ニ其所爲ニ對シ刑法第三百一條第二項ヲ適用シ處分シタルハ不當ニアラサルナリ(以下略之)

第三百二條 豫メ謀テ人ヲ毆打創傷シ休業癱篤疾又ハ死ニ致シタル

者ハ前數條ニ記載シタル刑ニ照シ各一等ヲ加フ

(疑義) 茲ニ豫メ謀テ人ヲ毆打創傷セシ者アリ而シテ被害者ニ於テハ爲ニ疾病休業ニ至ラスト雖モ本條ニヨリ全第三百一條第三項ノ刑ニ加等シ處分スヘキモノ、如シ然レモ本條ノ文意ヲ考フルニ豫メ謀テ人ヲ毆打創傷スルモ其休業癱篤疾又ハ死ニ致ラサル者ハ加等ノ限ニアラサルカ如何

(説明) 本條ニ該當スルノ罪ヲシテ通常ノ毆打罪ノ刑ニ一等ヲ加等セシムル所以ノモノハ豫メ謀ルノ一事ヲ以テ、故ナレハ假令休業癱篤疾及ヒ死ノ四結果ヲ生セサルモ豫メ謀テ創傷ヲ爲シタル以上ハ加重セサルヘカラサルモノトス

第三百三條 重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ己ニ犯シテ其罪ヲ免カル、爲メ人ヲ毆打創傷シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

適例

○明治十九年十一月廿四日判決 埼玉縣平民大澤幸次郎

(摘要) 人ノ邸宅ニ侵入シ強盜ヲ爲スノ意匠ナリシモ未タ其事ヲ行ハサル前ニ捕押ヲ免カル、爲メ人ニ切付ケ負傷シタルモノハ強盜傷人ニアラス
 會議局カ認メタル被告ノ所爲ハ必竟前顯ニ揭クル如キ事實ニシテ強盜未遂ノ舉動ニアラス全ク豫備ノ所爲ニ止リ而シテ濱中丈之助ニ切付負傷シタルハ捕押ヲ免カレントシ

タル所爲ニ外ナラス抑モ盜罪ハ暴行脅迫ヲ爲シテ始メテ強盜罪ヲ構成スルモノナレハ
假令強盜ノ意匠ヲ以テ邸内ニ忍入ルモ其實暴行脅迫ノ手段ヲ用フルカ將タ竊盜ノ所爲
ニ出ツルカ未タ以テ判知シ得ヘカラサルモノナリ左スレハ本按被告事件ノ如キハ強盜
傷人ノ罪ニアラスシテ罪ヲ免カレン爲メ人ヲ傷シタルモノト看做サ、ルヘカラス故ニ
會議局ニ於テ豫審終結ヲ認可シタルハ相當ノ判決ト云フヘキノミ

〔參照〕 大分輕罪裁判所檢事ヨリ罪ヲ免カル、爲メ人ヲ傷シ死ニ致シタル者處分方司
法省へ請訓 明治十六年十一月五日

茲ニ庖丁ヲ携帶シ人ノ邸内ニ設アル米搗水車場へ忍入り米ヲ竊取セントスル際看守者
ニ覺知セラレ看守者ヨリ捕リ押ヘラレタルニ依リ免カル、爲メ携帶シ居ル庖丁ヲ以テ
看守者ノ兩手ニ疵ヲ負ハセ終ニ死ニ致シタル者アリ右ハ故殺スルノ意アツテ傷ヲ負ハ
セタルニ非ス捕リ押ヘラレタル故免カル、爲メ傷ヲ負ハセタリト陳述スルモ之ヲ證明
スル能ハサル以上ハ故殺シタル者トシ刑法第二百九十六條ニ問フヘキモノナルヤ將タ
同法第二百三條ニ問フヘキモノナルヤ此段仰御内訓候也

内訓 明治十六年十一月五日

犯罪ヲ免カル、爲メ人ヲ傷シ死ニ致シタル者處分方ノ件請訓ノ趣右ハ故殺ノ證據ハ原
告官ヨリ之ヲ舉示セサル可カラズ若シ其證據ナキハ刑法第二百三條ニ據リ處分スヘ
キモノトス此旨及内訓候也

第二百四條 毆打ニ因リ誤テ他人ヲ創傷シタル者ハ仍ホ毆打創傷ノ

本刑ヲ科ス

〔疑義〕 毆打ニ因リ誤テ他人ヲ創傷シタル者ハ仍ホ毆打創傷ノ本刑ヲ科ストハ本條ノ
規定スル所ナリ然ルニ毆打ニ因リ誤テ他人ヲ殺シタル者ニ至テハ刑法中之テ處罰スル
ノ正條無キカ如シ果シテ然ラハ是等ノ場合ニハ第二條ニ依リ不問ニ付スヘキヤ

〔説明〕 毆打ニ因リ誤テ他人ヲ創傷シタル者スラ尙且毆打創傷ノ本刑ヲ科スヘキトハ
本條ニ規定スル所ナリ然ルニ況ンヤ毆打ニ因リ誤テ他人ヲ殺シタルモノニ於テ何ソ罰
セサルノ理アラシヤ故ニ本疑義ノ場合ニ於テハ本條及ヒ第二百九十九條ニ依リ處分ス
ヘキモノトス

第二百五條 二人以上共ニ人ヲ毆打創傷シタル者ハ現ニ手ヲ下シ傷

ヲ成スノ輕重ニ從テ各自ニ其刑ヲ科ス若シ共毆シテ傷ヲ成スノ輕
重ヲ知ルノ能ハサル時ハ其重傷ノ刑ニ照シ一等ヲ減ス但教唆者ハ
減等ノ限ニ在ラス

第二百六條 二人以上共ニ人ヲ毆打スルニ當リ自ラ人ヲ傷セスト雖 モ幫助シテ傷ヲ成サシメタル者ハ現ニ傷ヲ成シタル者ノ刑ニ一等

ヲ減ス

第三百七條 健康ヲ害ス可キ物品ヲ施用シテ人ヲ疾苦セシメタル者

ハ豫メ謀テ毆打創傷スルノ例ニ照シテ處斷ス

(疑義) 本條ニハ健康ヲ害ス可キ物品トアリテ其精神ハ決シテ生命ヲ害スル事ナキヲ蓋シ豫定シタルモノナラン然レモ被害者ハ弱体ニシテ爲メニ遂ニ死ニ至リタルモノアルハ加害者ハ本條ニ依リ處分スヘキカ將タ其施用シタル物品タル健康体ニ在テハ疾苦ニ止ルモ弱体ノ人ニ對シテハ死ニ致スニ足ルヘキ劇藥トナレハ毒殺犯ヲ以テ論スヘキヤ

(說明) 毒藥ヲ施用シ人ヲ死ニ致シタル者若シ殺スニ意アリテ爲シタル時ハ無論毒殺ヲ以テ論スヘキモ殺スノ意ナク唯ニ疾苦セシメントスルニ止ル者ハ假令其被害者弱体ニシテ死ニ至ルモ其毒藥ノ分料通常人ヲ殺スニ堪ヘサル者ナル時ハ毒殺ヲ以テ論ス可キ者ニ非ス本條ニ依リ豫メ謀テ人ヲ毆打死ニ致シタル者ヲ以テ論スヘキモノトス

第三百八條 人ヲ殺スノ意ニ非ラスト雖モ詐稱誘導シテ危害ニ陷レ因テ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ヲ以テ論ス

第三節 殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪

第三百九條 自己ノ身體ニ暴行ヲ受クルニ因リ直チニ怒ヲ發シ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス但不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラス

第三百十條 毆打シテ互ニ創傷シ其手ヲ下スノ先後ヲ知ルヲ能ハサル者ハ各其罪ヲ宥恕スルヲ得

第三百十一條 本夫其妻ノ姦通ヲ覺知シ姦所ニ於テ直チニ姦夫又ハ姦婦ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ此限ニ在ラス

(疑義) 本條ニ所謂ル縱容トハ事後本夫姦夫ト私和シタル場合ヲモ包含スルヤ
(說明) 縱容ハ必ス事前ニ在ルヲ要ス事後姦罪ヲ私和スル如キハ治罪法第九條第二項ノ公訴權消滅ノ中ニ入ルヘキモノナリ

適例

○明治十九年四月八日判決 佐賀縣平民山下甚七
(摘要) 本夫豫メ謀テ姦夫姦婦ヲ姦所ニ於テ殺傷シタルモノハ必ス法律上ノ宥恕減輕

ヲ與ヘサル可カラス

刑法第三百十一條ニハ夫其妻ノ姦通ヲ覺知シ姦所ニ於テ直ニ姦夫又ハ姦婦ヲ殺傷シタル者トノミアリテ其殺傷ノ豫謀ニ出ツルト故意ニ出ツルトヲ區別シアラサレハ其本夫ニシテ姦所ニ於テ直ニ殺傷シタルノ結果アレハ則チ其要件ヲ具備シタルモノニシテ無論該條ヲ適用シ相當ノ宥恕ヲ與フヘキハ當然ナルニ原判文ニ被告ヤストハ公然タル夫婦ナルヲ及其姦所ニ於テ姦夫姦婦ヲ殺傷シタル事實ヲ確認シテ之ヲ判示シナカラ只單ニ刑法第二百九十二條同第三百十二條同第三百十三條ノミチ當行シ右第三百十一條ニ依リ宥恕ヲ與ヘサリシハ全ク上告論旨、如ク擬律ノ錯誤ニ出テタル者ニシテ即チ治罪法第四百十條第十項ニ適合スル破毀ノ原由アルモノトス

第二百十二條 晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戶牆壁ヲ踰越損壞セントスル者ヲ防止スル爲メ之ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス

第二百十三條 前數條ニ記載シタル宥恕ス可キ罪ハ各本刑ニ照シニ等又ハ三等ヲ減ス

第二百六十四條 身體生命ヲ正當ニ防衛シ已ムヲ得サルニ出テ暴

行人ヲ殺傷シタル者ハ自己ノ爲メニシ他人ノ爲メニスルヲ分タス其罪ヲ論セス但不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラス

第二百十五條 左ノ諸件ニ於テ已ムヲ得サルニ出テ人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ論セス

- 一 財産ニ對シ放火其他暴行ヲ爲ス者ヲ防止スルニ出タル時
- 二 盜犯ヲ防止シ又ハ盜贓ヲ取還スルニ出タル時
- 三 夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戶牆壁ヲ踰越損壞スル者ヲ防止スルニ出タル時

適例

○明治二十年十月十五日判決 神奈川縣平民榎本喜三郎

(摘要) 盜犯人アルニ當リ之ヲ詰リタルニ彼レ却テ兇器ヲ以テ抵抗スルニヨリ該兇器ヲ取揚ケ毆打シ遂ニ死ニ至ラシメタルハ正當防衛ニテラス
刑法第三百十五條第二項ノ律意タルヤ他人ノ物件ヲ竊取スルモノアルヲ認メ其竊取セントスルヲ防カン爲メ萬己ムヲ得ス其盜犯人タル者ヲ殺傷シタルニ在ルカ又ハ既ニ竊

取シ持去ラントスルヲ知リ其物件ヲ取り還サンカ爲メ勢己ムヲ得ス其盜犯人ヲ殺傷シタル場合ニ在テハ其罪ヲ論セストノ精神ナルヲ以テ其所爲己ムヲ得サルニアラスノ爲シタル場合ニハ該條項ニ當ラサル勿論ナリトス然ルニ原裁判言渡書ヲ閱スルニ(前森谷茂吉カ被告ノ作り置キタル薩摩芋ヲ竊カコ堀リ取ルヲ認メ之ヲ詰問シタルニ被レ却テ此芋ハ貫ヒ受ケタルモノナレハ差支ナシト云ヒ立去ラサルニ付其尻ヲ蹴リタルニ茂吉ハ猶五尺有餘ノ畑鑿ヲ以テ打チ掛リタルヨリ被告其鑿ヲ取揚ケ直ニ茂吉ノ頭部ヲ歐打シ重傷ヲ負ハシメ遂ニ死ニ至ラシメタリ)トノ事實ヲ認メナカラ此事實ニ對シ原裁判官ニ於テ刑法第三百十五條第二項前段ヲ適用シ處斷シタルハ妥當ナリト云フヲ得ス何トナレハ森谷茂吉カ被告ノ芋ヲ堀リ取ラントスルヲ認メ之ヲ防止シタルニ茂吉ハ己レノ所爲不正ナルヲ顧ミス其所持スル畑鑿ヲ以テ打チ掛ルニ付被告ハ其鑿ヲ取揚ケタルニ茂吉ハ尙ホ被告ニ抵抗シ其防止ヲ妨ケントスルニ依リ此ニ於テ被告ハ勢己ムヲ得スト思料シ其取揚ケタル鑿ヲ以テ歐打シタルニ在ランニハ己ムヲ得ス盜犯人ニ歐傷シタリト云フヲ得ヘント雖モ然ラスシテ被告ハ己ニ茂吉カ被告ノ防止ヲ妨ケントスルノ用器ヲ取揚ケ最早己ノ身ニ危害ノ及フヘキ憂ナキノミナラニ茂吉カ其用器ヲ取揚ケラレタル後別ニ抵抗スルコトナキニ拘ハラス之ヲ歐打シ遂ニ死ニ至ラシメタルモノナルヲ以テナリ夫レ如此原裁判ハ上告論旨ノ如ク擬律ニ錯誤アル失當ノ裁判ナルヲ以テ破毀ノ原由アルモノトス

第二百十六條 身體財産ヲ防衛スルニ出ルト雖モ己ムヲ得サルニ非スシテ害ヲ暴行人ニ加ヘ又ハ危害已ニ去リタル後ニ於テ勢ニ乘シ仍ホ害ヲ暴行人ニ加ヘタル者ハ不論罪ノ限ニ在ラス但情狀ニ因リ第三百十三條ノ例ニ照シ其罪ヲ宥恕スルコトヲ得

第四節 過失殺傷ノ罪

第二百十七條 疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セス過失ニ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

(疑義) 茲ニ瘋癲人アリ甲縣ヨリ乙縣ニ傳遞護送スルニ方リ甲縣ヨリハ醫師ノ診斷書ト警察署ノ傳遞狀トヲ付シ看護人ヲシテ之レヲ傳遞護送セシムル途路或警察署ニ至リシ際瘋癲者ハ其警察署長ニ對シテ曰ク最早ヤ病治セリ故ニ是レヨリ獨歩セント茲ニ於テ署長ハ診斷書ノ瘋癲ナル文字ニ心付カス願意ヲ容レテ獨歩セシメタルニ瘋癲者ハ其途中ニ於テ溺死セリト云フ去レハ今其署長カ瘋癲ノ文字ニ心付カス放遣セシ所爲ハ即チ本條ニ所謂疎虞懈怠ノ責ヲ負レサルヤ

(説明) 瘋癲者ノ溺死セシハ瘋癲ナルカ故ニ溺死セシヤ又ハ全愈シテ通常人トナリ誤テ溺死セシヤ之ヲ詳ニスルヲ得サルモノナレハ一概ニ疎虞懈怠アリトハ論シ難シ故ニ

本條ヲ適用シ處斷スルノ限リニ非ス

適例

○明治十九年四月三十日判決 新潟縣平民高橋ツル

(摘要) 實母カ嬰兒ヲ懷キ睡眠中自己ノ身體ヲ以テ之ヲ壓シ遂ニ死ニ至ラシメタルモノハ過失罪ヲ以テ論ス可シ

原判文前段ニ於テ明治十八年四月廿二日夜右志賀藏ヲ懷キ寐臥シ熟睡中自己ノ身體ヲ以テ志賀藏ヲ死ニ至ラシメタル云々ト明示シタルニ就テ看レハ該志賀藏ヲ絶命セシメタルハ故意アルニアラス即チ疎虞懈怠ノ過失ニ出テタルモノト云ハスシテ何ソヤ故ニ此所爲ニ對シ刑律ヲ適用スルニハ刑法第三百十七條ニ准擬セサル可カラズ然ルニ原裁判茲ニ出テス後段ニ於テ疎虞懈怠ニ出テタリト認ムヘキ廉ナク罰ス可キ正條ナシトシ被告ヲ無罪ニ言渡シタルハ擬律ニ錯誤アル不法ノ裁判ニシテ破毀ノ原由アルモノト裁定ス

○明治廿年六月廿四日判決 岐阜縣平民小倉ハツ

(摘要) 失火ノ際嬰兒ヲ抱出サントスルモ火勢ノ爲メ遂ニ該兒ヲ燒死ニ至ラシメタルモ過失殺罪ヲ組成セス

本案上告趣意ハ歸スル處被害者スエノ死ハ被告ノ失火ニ對シテ間接ナレハ其死ヲ以テ被告ノ過失ト爲ス可カラサルニ敢テ之ヲ罰セシハ擬律ノ錯誤ナリト云フニアレハ則チ

治罪法第四百十條第十項ニ適應スル破毀ノ原由タルモノトス然ル所以テ爰ニ辨明セシニ夫レ原裁判所カ適用セシ刑法第三百十七條ハ疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セサル過失ニ因テ人ヲ死ニ致シタル者ニ當行スヘキ法律ナルニ原裁判所ノ認メタル被害者スエガ燒死ノ事實中被告ニ其法律上視テ疎虞懈怠ト爲スベキ項件アリシコトヲ見サルノミナラス「妹スエヲ抱出サントスルモ火勢四方ニ蔓延シ爲メニ抱出ス」能ハス云々ト其判決文ニ明記シ在ルニ依テ觀レハ「スエ」カ死亡ニ至ル當時被告ニ毫モ疎虞懈怠ノアラザリシハ疑フ可カラズ而シテ其被告カ失火トスエカ死亡トノ接際ヲ論スレハ其二ハ其一ノ事後ニ發生シタル特別ノ事項ナレハ其一ノ事前ニ在リシ不戒慎ヲ援テ殊別ナル其二ノ事項ニ併セ以テ一罪ヲ構成シタリトハ決シテ謂フヲ得ヘカラサルモノナリ然ラハ則チ原裁判ハ罪トナラサハ所爲ニ刑法第三百十七條ノ罪名ヲ宣告シタルモノニシテ所謂擬律錯誤ノ裁判ナリトス

○明治廿一年四月十日判決 青森縣平民關根房吉外三名

(摘要) 他人ノ妄説ヲ信シ病氣ヲ治セシメシメカ爲メ病者ニ燒石ヲ押付遂ニ死ニ致スモ過失罪ヲ以テ論ス可キモノニアラス即チ無罪ナリ

原判文ヲ檢スルニ被告人房吉シユン多吉ナレハ被告人フヂニ於テ房吉養長男タリシ萬吉カ神經病ニ罹リタルヲ狐ノ付キタル者ト思惟シ此事ヲ咄セシヲ信シ云々狐ヲ放シ吳レントテ多吉チノ石三個ヲ取寄セシメ之ヲ燒キテ云々已レ自ラ右燒石ヲ萬吉ノ背部ニ

一度押付ケ猶ホ房吉ハフチカ差圖ニ從ヒ云々トアル理由ニ依レハ被告等ハ終始フギノ妄説ヲ信シ而カモ彼レノ指示ニ從ヒ万吉ノ疾病ヲ治セント企圖セシ行爲ニ外ナラスシテ更ニ疎虞懈怠等ノ事實ニ適合スル廉アルコトナシ然ラハ則チ刑法第三百十七條ニ所謂疎虞懈怠ヨリ生スル過失罪ヲ構成セサルノミナラス法律上之ヲ制裁ス可キ正條ナントス故ニ原裁判所カ右事實ヲ認メナカラ刑法第三百十七條ヲ適用斷了シタルハ治罪法第四百十條第十項ニ該當シ上告趣旨ハ其原由アルモノトス

○明治廿一年五月廿三日判決 岐阜縣平民加藤要治

(摘要) 子弟ヲ一時徵戒ノ爲メ制縛減食シ遂ニ死ニ至ラシメタルハ刑法第三百十七條ヲ適用ス可シ

原承審官カ本案認メタル事實ハ過失殺傷罪ナリトス何者被告ニ於テ辰次郎ハ時々痙攣症ヲ發スルヲ豫テ了知シナカラ之ニ意ヲ注カス一時徵戒ノ爲メ辰次郎ノ四肢ヲ細帶ニテ縛シ胴着ヲ面部ニ覆ヒ手拭ニテ口邊ヲ縛リ納戸ノ薄團上ニ伏サシメ薄團ヲ着セ置キタル爲メ辰次郎ハ怒氣上衝シ持病ノ痙攣症ヲ發シ其痙攣ノ爲メ呼吸カ窒息シテ死シタルモノト認メタルモノナレハナリ然ラハ原承審官カ其事實ヲ認メナカラ之レニ刑法第三百二十三條同法第三百廿四條ヲ適用セシハ第一上告論旨ノ如ク擬律ノ錯誤ナリトス夫レ刑法第三百二十三條ハ其範圍陝隘ナルモノニテ父兄カ好意上我カ子弟ノ暴惡ナル所行等ヲ徵戒スル爲メ一時室内ニ押シ込ミ或ハ帶等ヲ以テ縛シタリ或ハ擲打シ或ハ減

食セシムル等ノ所爲ニ對シテハ適施スヘキモノニアラス(以下略之)

第三百十八條 過失ニ因テ人ヲ創傷シ癡篤疾ニ致シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百十九條 過失ニ因テ人ヲ創傷シ疾病休業ニ至ラシメタル者ハ一圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

適例

○明治廿二年六月廿九日判決 福岡縣平民有田龜吉

(摘要) 人カ銃丸ヲ手取りニスル術ヲ爲シ得ルト揚言シ銃ニ彈丸ヲ裝置シテ交付シタルヲ信シ發射シテ傷ヲ負ハシメタルモノハ過失傷ヲ以テ論ス可シ
前略 第二点ニ付原判決書ヲ査閱スルニ被害者次平カ被告及ヒ其他ノ者ト飲酒ノ際酒興ノ餘リ自分ハ銃丸ヲ手取りニスルノ術ヲ爲シ得ルト揚言シ和銃ニ彈丸ヲ裝置シ交付シタルヲ被告カ輒シ輕信シ發射シタル事實ニテ其發射スル銃丸ヲ避ケ又ハ手取りニスルヲ能ハサルハ何人ト雖モ復タ能ク之ヲ知ル殊ニ被害者ハ酒興ニ乘シ揚言シタルモノナリト云フニ在レハ之ヲ輕信シタルハ即チ被告ノ不注意ト云フ可ク而シ縱ヒ被害者ノ不注意アルモ之ヲ以テ行害者ノ過失ノ消滅セシムル筋合ナクハ本件ノ如キハ刑法第三百十九條ノ責罰ヲ免レサルモノトス

第五節 自殺ニ關スル罪

第三百二十條 人ヲ教唆シテ自殺セシメ又ハ囑託ヲ受ケテ自殺人ノ爲メニ手ヲ下シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其他自殺ノ補助ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス

(疑義) 男女俱ニ死ヲ謀リ死藥ヲ仰ク然ルニ一人其醫師ノ治療ニ因リ蘇生セシ者アリ此如キモ尙ホ本條ニ依リ處分ス可キ歟將タ無罪ナル可キ歟

(說明) 蘇生セシ者同死者ヲ教唆幫助マタルニ非サレハ本條ニ問フ可カラズ

第三百二十一條 自己ノ利ヲ圖リ人ヲ教唆シテ自殺セシメタル者ハ重懲役ニ處ス

第六節 擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪

第三百二十二條 擅ニ人ヲ逮捕シ又ハ私家ニ監禁シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

但監禁日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ

(疑義) 本條ニ擅ニ人ヲ逮捕シ又ハ私家ニ監禁シタルモノハ云々トアリ此私家トハ公ニ人ヲ監禁スヘキ場所即チ監獄留置場等ニ對スル、私家ニシテ公ニ設立セル病院學校ノ如キハ之ヲ私家トスルヲ得サルヤ

(說明) 學校病院ト雖モ監禁ノ情狀アルハ私家トスルヲ得ヘシ

(疑義) 茲ニ行政官吏服務紀律ニ違ヒ懲戒例ニ處ス可キ見込ノモノアリ其違ヒシ所爲ノ取調ヲ受クル吏員ハ某廳下居住ノ者ニアラス然ルニ取調急速ヲ要スルヲ以テ取調主任官ニ於テハ其吏員ヲ某廳中ノ當直部屋又ハ呼出人民ノ控所及門候詰所ニ宿セシメ取調手續但本文ニ廳内各所ニ分宿セシメタル所以下取調ヲ受ル者二名以上連串結合シテ爲シタル事件ニ付之ヲ廳外ニ散宿サセ又ハ合宿セシムルハ必各自意通チナシ取調ヲ妨ク可キ見込アリ則チ事ニ害アルヲ以テ止ムヲ得ス廳中ニ分宿ナサシメタルナリ且服ヲ爲シタリ然レハ一室ニ閉鎖シ身体ノ自由ヲ奪フノ食ノ手當ハ勿論其他苛酷ノ取扱更ニナシ 處分ヲ施ス可カラサルノミナラス是等ノ所爲更ニナシ然ルニ其吏員ハ取調主任官ニ對シ擅ニ人ヲ監禁シタル罪アリトシテ告訴ヲナセリ抑モ本條并ニ第三百二十三條ノ如キハ人民私擅ニ人ヲ監禁シタル所爲ニ適用ス可クシテ官吏ノ職務ヲ行フニ當リ爲シタル罰條ニ非ストス而シテ是等ノ如キ若シ第二百七十八條不正ニ人ヲ監禁シタルモノト假定センカ凡ソ監禁ナルモノハ敢テ場所ノ如何ニ拘ハラスト雖モ其室内ニ閉鎖シタルハ故意ニ出テ又不適法ノ取扱ニアラサレハ之ヲ不正ト謂フヘカラス然レハ前記ノ取扱ハ決シテ本法ノ支配スル所ニ非サルヘシ果シテ然ラハ其取扱ヲ監禁ノ罪ナリト論スヘカ

ラス若シ之ヲ罰スヘクハ第二百七十八條ナルヤ將タ又本條以下ナル歟
(説明) 監禁ノ罪ハ事實ニ就キ詳細取調ヲ爲シタル上ニ非サレハ一方ノ片言ノミヲ以テ其罪ヲ得ヘキヤ否斷定シ難キモノトス但シ官吏職務ヲ行フ時モ不正ノ監禁ヲ爲スコ於テハ尙ホ本條ノ制裁アルモノトス

第二百二十三條 擅ニ人ヲ監禁制縛シテ毆打拷責シ又ハ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所爲ヲ施シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百二十四條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第二百二十五條 擅ニ人ヲ監禁シ水火震災ノ際其監禁ヲ解クコトヲ怠リ因テ死傷ニ致シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第七節 脅迫ノ罪

第二百二十六條 人ヲ殺サント脅迫シ又ハ人ノ住居シタル家屋ニ放火セント脅迫シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以

上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

毆打創傷其他暴行ヲ加ヘント脅迫シ又ハ財産ニ放火シ及ヒ毀壞却掠セント脅迫シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(疑義) 書類ヲ以テ人ヲ脅迫シタル者ハ本條以下ニ照シ處分スルヲ得ルヤ

(説明) 脅迫ノ所爲ヲ罰スルハ人ヲシテ恐怖ノ念ヲ生セシムルヲ以テナリ故ニ書類ヲ以テ脅迫スルモ亦口述ヲ以テスルモ其結果ニ至テハ毫モ異ナル所ナカル可シ又脅迫者ノ心情ニ於テモ被此輕重ノ差アルコトナシ因テ本條以下ヲ以テ處分スヘキモノトス

第二百二十七條 兇器ヲ持シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加

第二百二十八條 親屬ニ害ヲ加フ可キ事ヲ以テ脅迫シタル者ハ亦前

二條ノ例ニ同シ

第二百二十九條 此節ニ記載シタル罪ハ脅迫ヲ受ケタル者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

(疑義) 本條云々脅迫ヲ受ケタル者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スト有リ今本人ニ於テハ聊カ之ヲ意ニ介セス告訴權ヲ拋棄スルニ親屬之ヲ肯セス告訴ヲナシタル場合ニ於テハ其効無シトスルヤ又第三百六十一條ニハ云々誹毀ノ罪ハ被害者又ハ死者ノ親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スト有リ然レハ脅迫罪ニ於テハ其親屬ニモ告訴權ヲ與ヘ誹毀罪ニ於テハ之ヲ與ヘサルハ如何ナル理由ナルヤ

(説明) 脅迫罪ハ一種特別ノモノニシテ果シテ脅迫ノ効アリタルヤ否ハ他人ノ知ルヲ得ヘキ者ニアラス然ルニ本條云々又ハ親屬ノ告訴ヲ待ツト定メタルハ親屬ニ害ヲ加フ可キヲ以テ脅迫ニタル場合ニハ其親屬ヲシテ告訴セシムル者ニシテ單ニ脅迫ヲ受ケタル本人一身ノヲニ係ル時モ仍ホ親屬ニ告訴權ヲ與フルト云々アラス誹毀ノ罪ハ現ニ誹毀セラレタル本人一人ニ限ルモノニシテ其死者ニ係ルキハ親屬ニ於テ之レカ告訴ヲ爲スヲ得ヘキノミ是レ第三百六十一條ニ被害者トアルヲ以テ明了ナリトス故ニ前段單ニ本人ニ係ル脅迫ハ親屬ヨリ告訴スルノ限ニアラス若シ間接ニ親屬ヲ脅迫シタル場合ニ於テハ仮令直接ニ脅迫セラレタル本人告訴權ヲ拋棄スルモ其親屬ヨリ告訴スレハ其効アリトス後段ハ誹毀セラレタル本人ニ限リ告訴ヲ爲シ死者ニ係ルキハ其親屬ヨリ告訴スルヲ得ルモノトス

第八節 墮胎ノ罪

第三百三十條 懷胎ノ婦女藥物其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタル者ハ一

月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百三十一條 藥物其他ノ方法ヲ以テ墮胎セシメタル者ハ亦前條ニ同シ因テ婦女ヲ死ニ致シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百三十二條 醫師穩婆又ハ藥商前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

第三百三十三條 懷胎ノ婦女ヲ威逼シ又ハ誑騙シテ墮胎セシメタル者ハ一年以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百三十四條 懷胎ノ婦女ナルヲ知テ毆打其他暴行ヲ加ヘ因テ墮胎ニ至ラシメタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス其墮胎セシムルノ意ニ出タル者ハ輕懲役ニ處ス

第三百三十五條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ癡篤疾又ハ死ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第九節 幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪

第三百三十六條 八歳ニ滿サル幼者ヲ遺棄シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

自ラ生活スルヲ能ハサル老若疾病者ヲ遺棄シタル者亦同シ

(疑義) 甲說本條並ニ第三百三十七條第三百三十九條ニ遺棄シタル者云々トアルハ養育スヘキ義務アル者ニ於テ其養育ヲ受クヘキ權利アル幼者又ハ老疾者ヲ棄テタル者ノミヲ指示シタルモノニシテ養育ノ義務ナキ者即チ自己ノ所有地内ニ遺棄セラレタル幼者老疾者アルヲ知テ之ヲ扶助セサルノミナラス更ニ他人ノ所有地内若クハ寮闕無人ノ地ニ移シ措キタル者ノ如キハ遺棄ト稱スヘキ者ニ非ルヲ以テ遺棄シタル云々ノ正條ニハ合蓄セサルモノト解釋スルヲ穩當ナリト

乙說或ハ該各條中別ニ養育ノ義務アル者ニ限ルノ明文ナキニ因リ假令ヒ養育ノ義務ナキ者ト雖モ遺棄ノ情狀アルトハ總テ該各條中遺棄シタル者云々ノ文詞中ニ包含スルモノナリト

丙說果シテ甲說ノ如ク解釋ス可キモノトスレハ自己ノ所有地内ニ遺棄セラレタル乳兒若クハ昏倒シタル疾病者アルヲ知テ只ニ之レヲ扶助セス官署ニ申告セサルノミナラス更ニ寮闕無人ノ地ニ移シ措キ終ニ之レヲ爲メ廢篤疾又ハ死ニ致シタル者ト雖モ本法第

三百四十條或ハ第三百四十一條ヲ適用スルニ止リ其他ニ之レヲ罰スヘキ正條ナキモノナリト

以上三說中何レカ滴説ナル乎

(説明) 本條以下ニ定メタル幼者老疾者遺棄ノ罪ハ固ト人命ニ關スルヲニシテ必シモ養育ノ義務アル者其養育ヲ受ク可キ權利アル者ヲ遺棄スルノ場合ニ限ルニ非ス苟モ幼者老疾者ヲ遺棄シタル者ハ假令養育ノ義務ナキ他人ト雖モ仍ホ之ヲ適用ス可キハ勿論ナリ之ヲ以テ假令自己ノ所有地内ト雖モ其遺棄セラレタル者ナルヲ知リ之レヲ他ニ移シタル所尚ホ遺棄ノ情狀アルニ於テハ遺棄ヲ以テ處分ス可キモノトス依テ前第二說ヲ適當ノ説トス

第三百三十七條 八歳ニ滿サル幼者又ハ老疾者ヲ寮闕無人ノ地ニ遺棄シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百二十八條 給料ヲ得テ人ノ寄託ヲ受ケ保養ス可キ者前二條ノ罪ヲ犯シタル時ハ各一等ヲ加フ

第三百二十九條 幼者老疾者ヲ遺棄シ因テ廢疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處シ篤疾ニ致シタル者ハ重懲役ニ處シ死ニ致シタル者ハ有期

徒刑ニ處ス

第二百四十條 自己ノ所有地又ハ看守ス可キ地内ニ遺棄セラレタル幼者老疾者アルヲ知テ之ヲ扶助セス又ハ官署ニ申告セサル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ疾病ニ罹リ昏倒スル者アルヲ知テ扶助セス又ハ申告セサル者亦同シ

第十節 幼者ヲ畧取誘拐スル罪

第二百四十一條 十二歳ニ滿サル幼者ヲ略取シ又ハ誘拐シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(疑義) 清國人ハ我幼兒賣渡ノ禁令ハ明治三年八月十三日及ヒ明治五年二月二十五日第五十五號ノ公布アリタル處本法中ニハ略取誘拐ニ係ルモノニ止マリ人身賣買ニ對スル罰例無キ以上ハ第二條ノ明文ニ據リ不問ニ附スヘキ歟將又他ニ擬律スヘキ罰則アリヤ

(説明) 本邦幼兒ヲ清國人ハ賣渡シタルモノ處分方ハ其賣渡ニ付テ略取誘拐ノ手段ナキ者ハ不問ニ付セサルヲ得ス

第二百四十二條 十二歳以上二十歳ニ滿サル幼者ヲ畧取シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其誘拐シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ一圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十三條 畧取誘拐シタル幼者ナルヲ知テ自己ノ家屬僕婢ト爲シ又ハ其他ノ名稱ヲ以テ之ヲ收受シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

第二百四十四條 前數條ニ記載シタル罪ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但略取誘拐セラレタル幼者式ニ從テ婚姻ヲ爲シタル時ハ告訴ノ効ナシ

第三百四十五條 二十歳ニ滿サル幼者ヲ畧取誘拐シテ外國人ニ交付

シタル者ハ輕懲役ニ處ス

(疑義) 輓近某府下ニ於テ實親貧困ノタメ潜カニ幼兒ヲ清國人ニ遣シ祝儀ノ名目ヲ以テ金圓ヲ受ケタル者往々アリ清國人ハ既ニ該兒ヲ本國ニ送リタルヲ以テ之ヲ見レハ名ハ養子ニ藉ルト雖斯ニ國体ニモ相關シ容易ナラサルモ法律上正條無シ右ハ如何處分ス可キ歟

(說明) 日本人ヲ外國人ニ養子ヲ許サレサルハ太政官ノ裁令有リ故ニ如何ナル名目ヲ以テスルモ婚姻ニ非サル已上ハ外國人ニ渡スヲ許サレサルハ無論ナリトス況ンヤ名ヲ養子ニ藉リ實際賣買ヲ爲ス者ハ本條ニ依リ處分スヘキモノトス

(疑義) 自己ノ養實子孫ヲ畧シ又ハ和誘シテ外國人ニ交付セシ者處罰方本法中明文ナシ右ハ如何處分スヘキヤ

(說明) 本條ハ他人ノ子孫ニ係ル者ナルヘシト雖モ人ト云フ明文モナキニ付疑義ノ如キ犯者アルモ本條ニ依リ處分シ妨ケナシトス

(參照) 人身ヲ畧取誘拐シタル者之儀ニ付熊本縣ヨリ司法省ヘ伺 明治十六年七月九日 二十歳以下ノ者ヲ畧取誘拐シタル者處分方ハ刑法第三百四十一條以下ニ明瞭ナリト雖二十歳以上ノ者ヲ畧取誘拐シタルモノヲ罰スルノ明文ナシ右ハ已ニ知力備ナハルヲ以

テ欺罔又ハ略取セララル、モ被害者ノ自爲ト同視シテ不問ニ置カル、所以ナラン歟然リト雖二十歳以上ニシテ或ハ不腦力ニシテ欺罔ヲ以テ誘拐セララル、ナキ能ハス譬ヘハ白痴ノ者ヲ誘拐シテ力役又ハ賣淫等ノ爲ニ他人ヘ賣ルノ類如斯ハ其歳二十歳以上ト雖不腦力ノ点ヨリ見ルモハ長幼ノ別ヲ以テ論シ得サル者ノ如シト雖モ其年齡明記有之上ハ刑法第三百四十一條以下ノ各條ニ比擬處分スルヲ得サル儀ト心得可然哉聊疑議ヲ生候條至急何分ノ御指令相成度此段相伺候也

指令 明治十六年七月廿四日

伺ノ趣二十歳以上ノ者ニ付テハ刑法ノ問フ所ニ非ス

第十一節 猥褻姦淫ノ罪

第三百四十六條 十二歳ニ滿サル男女ニ對シ猥褻ノ所行ヲ爲シ又ハ十

二歳以上ノ男女ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上廿圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(疑義) 雞姦及ヒ暴行脅迫ナキ輪姦モ猥褻ノ所行中ニ包含シタル者ト解釋スルヲ得ヘキ歟果シテ然ラハ暴行脅迫シテ十二歳以上ノ男女ヲ雞姦又ハ輪姦シタル者ハ本條及ヒ次條ニ其明文ナキヲ以テ不問ニ付シ若シ其所爲公然ナラハ第二百五十八條ニ依リ双方ノ者ヲ處罰スルニ止マルモノナル歟

(説明) 輪姦ハ強姦ヨリモ其狀暴惡ナル者ナリト雖モ其脅迫ナキハ幾人ト姦スルモ和姦ニシテ輪姦ト稱スルヲ得サルナリ依テ前段ノ場合暴行脅迫ナクシテ公然ノ所爲ニ出ル時ハ第二百五十八條ニ據リ處分スヘキモ其他ノ場合ニ於テハ法文ナキヲ以テ不問ニ付セサルヲ得ス

第三百四十七條 十二歳ニ滿サル男女ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百四十八條 十二歳以上ノ婦女ヲ強姦シタル者ハ輕懲役ニ處ス
藥酒等ヲ用ヒ人ヲ昏睡セシメ又ハ精神ヲ錯亂セシメテ姦淫シタル者ハ強姦ヲ以テ論ス

第三百四十九條 十二歳ニ滿サル幼女ヲ姦淫シタル者ハ輕懲役ニ處ス若シ強姦シタル者ハ重懲役ニ處ス

(疑義) 茲ニ十二歳以下ノ婦女ヲ強姦陰部其他ヘ負傷セシメ疾病休業二十日ニ至ラサルモノニシテ其被害者告訴ノ願下ケヲ爲シタル場合ニハ強姦罪ハ已ニ消滅シタルヲ以

テ本法第三百五十一條及ヒ第三百一條第二項ヲ適用スルニ止ルヘキヤ將タ本條ヲモ適用スヘキヤ

(説明) 強姦罪ノ告訴ヲ待ツハ必竟私益ヲ保護スルノ法意ナルハト雖モ右ハ單一ノ場合ニ限リ苟モ之カ爲メ人ヲ死傷ニ致シタルカ如キ特別ノ場合ニ在テハ固ヨリ告訴ヲ待ツノ精神タラサルハ其然ル所以ノモノハ法條ノ位置ニ依ルモ明瞭ナラン故ニ本疑義ノ如キハ第三百五十一條ニ依リ第三百四十九條ヲ適用スヘキモノトス

第三百五十條 前數條ニ記載シタル罪ハ被害者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第三百五十一條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス但強姦ニ因テ癱篤疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第三百五十二條 十六歳ニ滿サル男女ノ淫行ヲ勸誘シテ媒合シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金

ヲ附加ス

第三百五十三條 有夫ノ婦姦通シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其相姦スル者亦同シ

此條ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ告訴ノ効ナシ

適例

○明治廿一年十一月十五日判決 福島縣平民武藤クマ外一名

(摘要) 本夫ノ遺言ニ依リ其委任狀ヲ以テ本夫ノ死後其親屬ヨリ姦夫姦婦ニ對シ姦通罪ノ告訴ヲ爲スモ無効ナリ

刑法第三百五十三條ヲ案スルニ有夫ノ婦姦通シタル者ハ云々本夫ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ストアリ抑モ本案上告趣旨ニ付原判文ヲ査閱スルニ被告人クマノ本夫タル三之助カ死期ニ臨ミ其質弟タル甚吾ニ委任狀ヲ附與シ置キ甚吾ハ三之助ノ死後同人ノ遺言ニ依リ其委任狀ヲ以テ被告ハクマ外一名ニ對シ姦罪ノ告訴ヲ爲シタルモ三之助ハ明治廿一年十月四日死亡シ甚吾ノ告訴セシハ同年十月八日ナレハ己ニ本夫ノ死後ニ係ルヲ以テ告訴ノ効ナキ旨ヲ記載アリ凡ツ委任狀ノ効力ハ其依託シタル本人ノ存亡ニ隨フ者ニシ

テ本人ノ死亡シタル上ハ其委任ノ効力ハ共ニ消滅スヘキハ論ヲ俟タサル可シ然ラハ本案ノ如キハ本人死亡後ノ告訴ニシテ其委任狀ノ効力ハ己ニ消滅シタル者ナレハ原裁判所カ該告訴權ハ其効ナシトシ公訴ヲ受理スヘカラスト言渡シタルハ當然ノ事柄ニシテ越權ノ處分ナリトノ上告趣旨ハ不相立モノト判定ス

(參照) 水戸輕罪裁判所檢事ヨリ司法省ヘ養子養女戸籍ニ登記セサル前犯罪處分ノ儀ニ付伺

婚姻又ハ養子養女ノ取組整ヒタル上ハ明治八年第二百九號御布告ニ基キ速ニ戸籍ニ登記スヘキハ勿論ナレトモ邊土僻偶ノ愚民ニ至テハ其ノ手續ヲ盡サ、ル者往々有之然ル内其妻ト稱スル者姦罪ヲ犯シ或ハ養子女ナル者祖父母父母ト稱スル者ヲ毆打ナシタル等ノ節ハ何レモ戸籍上登記ナキヲ以テ姦罪ハ夫ト稱スル者ヨリ告訴スルモ處女ト見做シ不問ニ措キ毆打罪等ハ凡人ヲ以テ論スル義ニ可有之哉將タ仮令戸籍ニ登記セサルモ親族近隣ノ者モ夫婦若クハ養父子ト認メタルニ於テハ明治十年本省第四十六號御達ニ基キ處分可然哉

明治十六年十月十八日

内訓

養子女戸籍登記以前犯罪處分ノ義請訓ノ趣右ハ後段見解ノ通此旨及内訓候也
明治十六年十月廿六日

第二百五十四條 配偶者アル者重テ婚姻ヲ爲シタル時ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

(疑義) 茲ニ公命某ノ妻ナリト見認ムル婦アル者ニシテ又一婦ヲ娶リタルモ前婦未タ婚姻ノ式ヲ行ハス又戸籍上ニモ記載ナキ場合ニ於テハ重婚ヲ以テ論スヘカラサル者ナルカ

(説明) 婚姻シテ其登記ヲ怠リシ者アリト雖モ既ニ親屬近隣ノ者モ夫婦若クハ養父子ト認メ裁判官ニ於テモ其實アリト認ムル者ハ夫婦若クハ養父子ヲ以テ論ス可キモノトス

(疑義) 配偶者アル者父ノ申付ニ由リ重テ婚姻ヲナシタル者アリ是ハ本條ニ依リ配偶者アル者ノミヲ罰シ其父ハ罰セサルモノナルヤ
(説明) 其父ニシテ教唆ノ實アルモノナレハ教唆者ヲ以テ論セサルヘカラス

第十二節 誣告及ヒ誹毀ノ罪

第二百五十五條 不實ノ事ヲ以テ人ヲ誣告シタル者ハ第二百二十條ニ記載シタル僞証ノ例ニ照シテ處斷ス

(疑義) 告訴人ニ於テ假令ハ陰ニ他人ニ依嘱シ強テ彼レ(被告人ヲ指ス)ヨリ物品ヲ買込ミ又ハ

賣渡シタル杯公廷上ニ於テ陳述セシメ或ハ彼レ上ヨリ財産ヲ盜取セラレタリト飽迄相爭ヒ徹頭徹尾主張スル等其利慾ヲ逞セシメ謀ルニ出ル歟將タ私怨等ニ因由スルモノ歟其狀千態万狀ナリト雖モ其反動ノ歸スル所ハ自然被告人ヲ陷害スル者ニ外ナラナルヲ以テ如斯モノハ直ニ誣告ト爲スヘキカ

(説明) 誣告ヲ以テ犯罪ノ主タルノ目的トナシタルト他ノ罪ヲ犯スガ爲メニ誣告ヲ爲シタルト申問ハス苟モ人ヲ陷害スルノ意ヲ以テ不實ノ事ヲ申立テタルモノハ總テ誣告トス故ニ詐テ財産ヲ盜取セラレタリト申立ツルカ如キハ或ハ人ノ財産ヲ奪取スル爲メノ方法タルニ過キスト雖モ亦誣告ノ刑ニ處セサル可カラズ

(疑義) 本條ニ掲グル所ノ誣告罪ナルモノハ人ヲ陷害スルノ目的ヲ以テ法律上有罪タル事ヲ訴ヘ其訴フル處不實ノ事柄ニシテ其罪ノ構成ハ一度被告人訊問檢事ノ訊問又ハ司法警察官ノ爲シタル仮訊問ヲ受ケタルモ起ルモノナルヤ果タ又檢事告訴ヲ受ケ被告人ニ對シ有罪ト思料シ公訴ヲ起シタル後始メテ起ルモノナルヤ

(説明) 本法第三百五十六條ニ認告ヲナスト雖トモ被告人ノ推問ヲ始メサル前ニ於テ誣告者自首シタルモ本刑ヲ免ストアルニ依レハ誣告罪ハ人ヲ陷害スルノ惡意ヲ以テ告訴ヲ可ク可キ相當官吏ニ不實ノ事ヲ申告シタルトキニ於テ成立スルモノトス之レヲ以テ敢テ其起訴如何ニハ關セサルモノナリ

例

○明治十九年十月六日判決 山口縣平民長尾益四郎

(摘要) 被告訴者カ告訴者ヨリ謝金ヲ得ルノ目的ヲ以テ己レヲ告訴スルヲ受諾シタリトスルモ告訴者ニシテ惡意アル所ハ誣告罪ヲ構成スル者トス

原判決ヲ閱スルニ陶山深入ニ於テ益四郎ヨリ謝金ヲ得ルノ目的ニテ自諾シタルヲハ豫審調書ニ於テ之ヲ觀ルニ足リ已ニ深入其不正ノ行為ニ與ミシタル上ハ該書面ニ依リ告訴ヲ爲シタリトテ誣告ヲ以テ論スル限リニアラサルヲ以テ云々トアリ由是觀之ハ原裁判所ハ深入カ其書面ヲ被告ヘ渡スヲ自諾シタルハ被告カ自己ヲ告訴シ又ハ自カラ偽証ノ罪ヲ受クルヲ甘諾シタリト云フニアラスシテ謝金ヲ得ルノ目的ヲ以テ承諾シタリト認定セシモノナリ果シテ然レハ被告ニ於テ深入テ其罪ニ陷イレントノ意アリテ告訴シタル所ハ誣告罪ヲ組成スヘキモノナリ何トナレハ深入カ謝金ヲ得ル爲メ其書面ヲ渡シタルハ不正ノ所爲ナリト雖モ其己レヲ告訴スルヲ又ハ自カラ偽証ノ罪ヲ受クルヲ甘諾シタルモノニアラサレハナリ此場合ニ於テ被告ヲ無罪トスルニハ被告ノ告訴ハ深入テ陷害スルノ意ニアラサリシヲ必要トス然ルニ原裁判所ニ深入カ書面ヲ渡シタルヲハ惟タ其謝金ヲ得ルカ爲メニアリシヲ認メナカラ被告カ告訴ノ意旨如何ヲ明示セシテ漫ニ己ニ深入其不正ノ所爲ニ與ミシタルノ一言ヲ以テ被告ヲ無罪ト判決シタルハ其理由ニ不備アル不法ノ裁判ナリトス

○明治十九年十一月三十日判決 高知縣平民半田兼吉外二名

(摘要) 人ヲ罪ニ陷ル、爲メ不實ノ事ヲ訴ヘタルモ其事罪トナラサルニ依リ告訴ノ効ナキ所ハ誣告罪ヲ構成セス

原判文ヲ閱スルニ被告三名ノ所爲ハ人ヲ誣告シタルモノ、如シト雖モ原裁判官ノ認メタル事實ニ依レハ本件ノ地所タル實際酒井倉次ノ所有ニシテ之ヲ他人ヘ賣却シタルモノナレハ告訴ノ如キ事實アリトスルモ罪トナラサル所爲ニシテ到底被告等ハ倉次ヲシテ罪ニ陷ラシムルノ効ナキニヨリ被告等ノ所爲ハ誣告ノ罪ヲ構成セサルモノナルニ原裁判官カ其事實ヲ認メナカラ裁判玆ニ出テサルハ上告論旨ノ如ク擬律ノ誤錯アル不法ノ裁判ナリ(以下略之)

○明治廿年十月十五日判決 岩手縣平民星啓三郎

(摘要) 誣告罪ハ不實ノ事ノミニテハ構成セス必ス陷害スルノ意思ナカルヘカラス抑モ告誣罪ナルモノハ人ヲ陷害スルノ意思ヲ以テ事實ニ違ヒタル事ヲ告訴告發スルコトアラサレハ之ヲ構造セサルモノニ付若シ或ハ諧謔過失等ヨリ不實ノ告訴告發ヲ爲セシ場合ハ未タ要件ノ完備セサルカ故ニ其罪組成セサルヤ明カナリ然ルニ原判文ヲ閱スレハ唯被告カ不實ノ事ヲ以テ小原久太郎ヲ誣告シタルノ事實ヲ掲ケテ其意思ノ如何ヲ明示セサレハ此事實ニ對シ刑法第三百五十五條ヲ適用シタルモ亦其當ヲ得タルヤ否ヲ鑑査シ難ク要スルニ立會檢事附帶上告論旨ノ如ク事實理由ノ不備ナル裁判ニシテ治罪法第四百十條第九ニ該當スル破毀ノ原由アルモノトス

○明治廿二年五月三十一日判決 熊本縣平民平木萬八
〔摘要〕 誣告罪ハ檢事ニ於テ被告訴者ニ對シ公訴ヲ提起スルト否トヲ問ハス無實ノ事柄ヲ虛構シ告訴セハ直ニ成立スルモノトス

凡ソ誣告ノ罪ハ檢察官ニ於テ誣告訴者ニ對シ公訴ヲ提起スルト否トヲ問ハス人ヲ陷害スルノ惡意ヲ以テ法律ニ觸ルヘキ無實ノ事柄ヲ虛構シテ告訴セハ即チ成立スルモノトス本案控訴院カ檢事ノ起訴ナキヲ以テ理由トシ誣告罪ヲ構成セスト判定シタルハ不當ト謂ハサル可カラス然レモ控訴院判文上舉示シタル事實ノミニテハ未タ輒ク誣告罪犯者ナリト論定スルヲ得ス何トナレハ誣告罪ヲ組成スル要素ノ一ナル人ヲ陷害スルノ惡意ニ出テタリヤ否ノ事實分明ナラサレハナリ要スルニ事實ノ理由不備ナル違法ノ裁判ニシテ上告論旨ハ相當ナリトス

第三百五十六條 誣告ヲ爲スト雖モ被告人ノ推問ヲ始メサル前ニ於テ誣告者自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

〔疑義〕 本條ノ推問トハ司法警察官現行犯ヲ仮リニ訊問ナシタルモ包含スルヤ
〔說明〕 本條ノ推問ハ司法警察官現行犯ヲ仮リニ訊問シタルモ包含ムノトス

第三百五十七條 誣告ニ因テ被告人人刑ニ處セラレタル時ハ第二百二

十一條第二百二十二條ニ記載シタル例ニ照シテ處斷ス

第三百五十八條 惡事醜行ヲ摘發シテ人ヲ誹毀シタル者ハ事實ノ有無ヲ問ハス左ノ例ニ照シテ處斷ス

- 一 公然ノ演說ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 二 書類畫圖ヲ公布シ又ハ雜劇偶像ヲ作爲シテ人ヲ誹毀シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

〔疑義〕 例ハ衆人往來ノ路傍ナル門戶牆壁等二人ノ惡事醜行ヲ摘書シテ誹毀ヲ加ヘ又ハ撞鐘等ヲ鑄造シテ人ノ惡事醜行ヲ銘シ之ヲ村內非常報告ノ供用ニ懸ケ以テ後世ニ傳フル等〔突付脱落ニ至リテハ村民中惡事醜行ヲ爲ス者アレハ之ヲ戒辱スル爲メ撞鐘ヲ鑄造シ之ニ銘スルニ其惡事醜行ヲ以テシ後世ニ傳フル等ノ弊債アリ〕ノ事アリ是等ノ一ヲ誹毀セラレタル本人ニ於テハ其榮譽ヲ害セラル、一固ヨリ論ヲ俟タスト雖モ本法中是等ノ所爲ヲ罰スルノ適條ナシ然レモ右ハ本條第二項書類畫圖ヲ公布シ云々其書類中ニ含蓄スルモノナルヤ否
〔說明〕 右等ノ所爲ハ本條第三項ニ依テ處罰スルモノトス

(疑義) 辨護人辨論ノ際人ノ榮譽ヲ害スヘキ言ヲ發吐シ新聞記者ノ辨論ヲ筆記公布シタリ此時被害者ヨリ告訴スルニ於テハ辨護人新聞記者トモ誹毀罪ヲ以テ罰ス可キヤ
(說明) 惡意ニ出テサル時ハ誹毀罪ヲ以テ論スルノ限リニアラス

第二百五十九條 死者ヲ誹毀シタル者ハ誣罔ニ出タルニ非サレハ前條ノ例ニ照シテ處斷スルコトヲ得ス

第二百六十條 醫師藥商穩婆又ハ代言人辨護人代書人若クハ神官僧侶其身分職業ニ於テ委託ヲ受ケタル事ニ因リ知得タル陰私ヲ漏告シタル者ハ誹毀ヲ以テ論シ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但裁判所ノ呼出ヲ受ケテ事實ヲ陳述スル者ハ此限ニ在ラス

第三百六十一條 此節ニ記載シタル誹毀ノ罪ハ被害者又ハ死者ノ親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

(疑義) 誹毀事件公判中ニ於テ新聞編輯人ハ他ニ筆取シタルモノアルヲ承知シタル場合ニアリテハ檢事ハ告訴ナシト雖モ是ヲ起訴スルコトヲ得ルヤ

(說明) 本條ニ由ルルハ誹毀罪ヲ論スルニハ被告者ノ告訴アルコトヲ要ス而シテ告訴ノ効アルニハ當ニ其事件ヲ明示スル而已ナラス必ズ特定ノ人ヲ指示セサル可カラズ故ニ共犯人中ノ一人ニ對シ告訴ヲナスト雖モ他ノ共犯者ニ對シ被害者更ニ告訴セサルニ於テハ檢察官ニ於テ公訴ヲ提起シ得サルモノトス

第十三節 祖父母父母ニ對スル罪

第三百六十二條 子孫其祖父母父母ヲ謀殺故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

其自殺ニ關スル罪ハ凡人ノ刑ニ照シ一等ヲ加フ

(疑義) 本條ニ子孫トアルハ其配偶者モ含蓄スルヤ否

(說明) 本條ニ子孫トアルハ其配偶者ヲ含蓄シタル者ニ非ス

第三百六十三條 子孫其祖父母父母ニ對シ毆打創傷ノ罪其他監禁脅迫遺棄誣告誹毀ノ罪ヲ犯シタル者ハ各本條ニ記載シタル凡人ノ刑ニ照シ二等ヲ加フ但癱疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ篤疾ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス

第二百六十四條 子孫其祖父母父母ニ對シ衣食ヲ供給セス其他必要ナル奉養ヲ缺キタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第二百六十五條 祖父母父母ニ對シタル殺傷ノ罪ハ特別ノ宥恕及ヒ不論罪ノ例ヲ用フルヲ得ス但其犯ス時知ラサル者ハ此限ニ在ラス

第二章 財産ニ對スル罪

第一節 竊盜ノ罪

第二百六十六條 人ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

(疑義) 茲ニ郵便集配人アリ配達スヘキ郵便物ニ爲替券アルヲ認メ之ヲ竊取スル爲メ其郵便物ヲ開封シタル者ハ人ノ物品ヲ竊取スル爲メ家宅ヲ侵シタルト一般開封罪ハ構

造セサル乎若クハ官ノ封印ヲ破棄シテ竊盜罪ヲ犯ス者ハ二罪ヲ構造スルト同一ノ理ナル乎然ルニ竊盜罪ヲ犯スニ官ノ封印ヲ破棄シタル者ハ第七十五條ニ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷スルノ明文アリ郵便條例ニハ其明文ナキヲ以テ竊盜ノ外構造セサルモノト解釋スル方允當ナルカ如シト雖モ郵便條例ハ全ク特別法ナルカ故ニ假令第七十五條ノ如キ明文ナキモ罪ヲ構造スルモノト解釋スルヲ得可キヤ

(説明) 爲替券ヲ竊取スル爲メ郵便物ヲ開封スル場合ニ於テハ其開封ハ竊取ノ手段タルニ過キスト雖モ郵便條例中開封ヲ以テ一箇ノ罪ト爲シ特ニ其明文ヲ掲ケタル者ナルニ付他ノ罪ヲ犯スカ爲メ開封シタル者ト雖モ其開封ヲ以テ一箇ノ罪ト爲サ、ル可カラズ故ニ本疑義ノ場合ハ本條及ヒ郵便條例ニ依リ處分ス可キモノトス

(疑義) 茲ニ盜兒アリ濱邊ニ在ル藏ニ忍入り米三四俵ヲ竊取シ藏ヲ去ル半丁許リアル道路マテ運ヒタルモ其運搬ニ苦ム折柄幸ヒ近邊ナル家ノ軒下ニアリシ荷積中ノ車壹輛ヲ取出シ之レニ前顯ノ米ヲ積ミ載セ三里アル所ノ自宅ニ運搬シ其車ハ近所へ捨置キタリ右車ヲ取出シタルハ元ト自己ノ所有ニスルノ念慮ナキモ其形蹟上ヨリ言ハ竊盜ヲ以テ論セサル可カラサル者ノ如シ此處分如何

(説明) 車輛ヲ取出シタルハ元ト他ノ盜贓ヲ運搬セムカ爲メニシテ已レ之ヲ所有スルノ意志ナシトスルモ既ニ惡意ヲ以テ他人ノ物件ヲ竊取シ之ヲ他所ニ運搬シタル以上ハ之ヲ所有スルノ意思ヲ以テ爲シタル所爲ト其害毫モ異ナル所ナケレハ法律ノ保護モ彼

此相俸シカル可キハ當然ナルヲ以テ前段ノ如キハ則チ窃盜ヲ以テ論スヘキモノトス
 (疑義) 苗代田ニ播種スヘキ爲メ糶ヲ俵ニ入レテ田畔ニ傍フ細流又ハ田野ニ在ル井戸
 又ハ甲田ヨリ乙田ヘ水ノ落口ニ浸シ置キシテ窃取シタル者ハ本條ニ依ルヘキ歟將タ第
 三百七十二條ニ依リ處分スヘキ歟

(説明) 前段ノ如キハ犯罪ノ情狀ニ就テ考フルキハ第三百七十二條ニ依リ處分スル方
 情法其當チ得ルカ如シト雖モ此ノ如ク解釋セントスルキハ田野ニ於テ肥料農具等ヲ竊
 取シタル者モ亦第三百七十二條ニ依リ處分ス可キ者トナサレハ其趣意ヲ貫クニ能ハ
 ス然ルニ肥料農具等ノ如キハ前後左右何ノ點ヨリ解釋スルモ第三百七十二條中ニ含蓄
 シタル者ト爲ラニ能ハサル可シ故ニ右等ノ物件ヲ田野ニ於テ竊取シタル者ハ第三百六
 十六條ニ依リ處分セサルヲ得然ラハ本件ノミ強テ第三百七十二條ニ依ル可シト爲ス
 一能ハサル可シ若シ左ナクシテ第三百七十二條ニ依リ處分ス可キ者ト爲スハ同條ノ
 解釋區々ニ涉リ實際之ヲ適用スルニ困難ナカラサル可シ因テ第三百七十二條ハ其土
 地ニ産シ未タ土地ヨリ分離セサル者若シクハ已ニ分離シタルモ蓄藏所ニ運搬スル間一
 時田野ニ堆積シタル產物ヲ竊取シタル者ノミニ適用ス可キ者ト解釋シ其他ノ物件ハ飯
 令田野ニ於テ竊取シタルモ總テ本條ニ依リ處分ス可キモノトス

適例

○明治十九年九月廿八日判決 京都府平民畑久米次郎外一名

(摘要) 路上嚴寒ニ耐ヘ難キヨリ他人ノ藁束ヲ焚キ煖ヲ取リタルハ竊盜ヲ以テ論ス可
 キモノニアラス

前略上告者カ原判文中前後齟齬スト云フ所ノモノハ即チ原判文(前後ニハ焚煖リタルト
 云ヒ後段ニハ自己ヲ利スル爲メ害ヲ他人ニ被ラシムルノ意ナクト云ヒ)ト云フヲ以テ
 ナシ雖モ原判文中嚴寒ノ肌ヲ侵スニ耐難ク並河村字荒打ト唱フル田地ト街道ノ境界ナ
 ル堤上ニ散亂セシ同村藤井トラ所有ノ藁四把ヲ拾取リ自己携帯セシ提灯ノ火ヲ移シ焚
 煖リタル際云々トアルマテテ以テ原裁判官カ被告久米次郎ノ事實ヲ認メタル一段落ト
 ス而シテ該文意ニ據レハ其竊取ノ意ナキヲ推知スルニ足ルト雖モ原裁判官ハ尙ホ之レ
 ナ明カニ言ヒ顯ハサンカ爲メ後段ニ其所有主ノ許諾ハ得サレモ自己ヲ利スル爲メ害ヲ
 他人ニ被ラシムルノ意ナクシテ云々ト記載シタルモノニシテ前後兩段ヲ通讀スレハ被
 告久米次郎ハ寒氣ニ耐難キヨリ煖ヲ取ル爲メ堤上ノ藁ヲ拾取リタル事實ニシテ已レチ
 富マスカ爲メ人ヲ害シテ取リタルノ意ニアラスト云フニアルモノナレハ彼是照應シテ
 毫モ齟齬シタルコトナシ凡ソ刑法ハ或ル場合ヲ除クノ外ハ皆犯法ノ意思ヲ以テ犯罪構成
 ノ一要件トス而シテ原裁判官カ認ムル所ノ被告久米次郎ノ事實ハ竊取ノ意ナシ即チ犯
 法ノ意ナシト云フニアルモノナレハ犯罪構成ニ必要ナル條件ヲ闕キタルヲ以テ無罪ノ
 言渡ヲ爲シタルハ至當ニシテ上告ノ原由ナシ

○明治十九年十一月十六日判決 神奈川縣平民酒井徳次郎

(摘要) 簞笥中ニアル衣服數点ヲ數次ニ竊取シタルハ即チ連續犯ナリトス
抑モ連續犯ナルモノハ終始意思ノ繼續シテ同軌ノ事ヲ屢次行フモノナレハ有形的ノ觀
察ヲ下ス時ハ其事爲間斷アリト雖モ無形的タル意思上ニ於テハ更ニ間斷アルコトナクシ
テ所謂無形上ノ繼續犯ナルカ故ニ之ヲ有形上ノ繼續犯ト等シク一罪トシテ罰スルハ法
ノ正サニ然ルヘキモノナリ然リ而シテ今原判文ヲ閱スレハ被告カ行盜數次ニ及ブモ意
思繼續シテ絶ヘサリシ事實ヲ認メ之ヲ一罪トシテ罰セシコトハ理由整然トシテ著明ナレ
ハ即チ連續犯ナルヲ以テ何ソ數罪俱發ノ法ニ因ルヲ得ンヤ然ルチ上告者カ其意思ノ繼
續セルニモ拘ハラズ單ニ行爲ノ間斷アルニ依着シ之ヲ數罪俱發ナリト見解セシハ誤謬
ナリトス因テ原裁判ハ瑕瑾ナキヲ以テ上告論旨ハ相立タサルニ付治罪法第四百廿七條
ニ則リ之棄却スルモノナリ

○明治十九年十一月十六日判決 愛媛縣平民白井久吉

(摘要) 他人ノ家ニ忍ヒ入り物品ヲ竊取シ荷拵ヲ爲シ將サニ持出サントスル際捕押ヘ
ラレタルモノハ竊盜未送犯ヲ以テ處斷ス可シ
原判文ヲ閱スルニ被告カ中川林藏方ニテ竊取セントセシ木綿蚊帳等ハ已ニ戸棚ノ内ヨ
リ取出シ風呂敷ニ包ミタルモ將ニ持去ントスル際即チ未タ持去ラサル際取押ヘラレタ
ル事實ナルコトハ原裁判官ノ認ムル處ニシテ上告者モ亦然リトスル處ナリ凡ソ竊盜ハ其
物品ヲ竊取スルヲ以テ目的ト爲スモノナレバ其物品ヲ持出シタルニアラサレハ其目的

ヲ遂ケタリト云フ可カラス故ニ原裁判所カ被告ノ所爲ヲ以テ竊盜ノ未遂罪ト認メ刑法
第三百六十六條第三百七十五條第一百十二條ヲ適用セシハ相當ニシテ擬律ノ錯誤アルモ
ノニアラストス

○明治廿年五月十八日判決 岡山縣平民菅田原次郎

(摘要) 法律上視テ以テ財産ト指定シ得ヘキ價直アル物件ヲ竊取スレハ該罪構成ニ妨
ケナシ

刑法第三百六十六條ニ曰ク人ノ所有物ヲ竊取シトアル其所有物タルヤ法律上見テ以テ
財産ト指定シ得ヘキ價直アル物件ヲ總稱スル精神ナルヤ論ヲ俟タサル所ナリ而シテ今原
判文ヲ見ルニ本案被告カ所爲ハ赤野シナカ廣幡淺太郎ヘ差入ヘキ玄米二俵ノ預リ證書
ヲ竊取シタル者ナリ其證書タルヤ淺太郎ヘ交付シタルモノヲ竊取セシニ於テハ素ヨリ
竊盜罪ハ免カラスト雖モ未タ交付シタルコトヲ「シナ」ノ手ニ在ル以上ハ其効力ヲ有
ヒサルノミナラス價直ナキモノト云ハサルヲ得ス果シテ然ラハ之ヲ竊取シタリトテ上
告論旨ノ如ク刑法第三百六十六條ニ依リ竊盜ヲ以テ論スル限リニアラス(以下略之)

○明治二十年九月三十日判決 兵庫縣平民大槪藹

(摘要) 目的物ニ手ヲ掛ケ懼ミタル迄ニシテ目的ノ如ク竊取シ終ラサル時ハ未遂犯ナ
リ
將タ事主ニ瞳見セラレ謝罪シタル如キ事實ニ對シテハ自首減等ヲ與フヘキモノニアラ

ス
 凡ソ竊盜ノ罪タル金銀珠玉ノ如キハ之ヲ手ニ握取スルヤ直ニ既遂犯ト爲ス可キヤ勿論ナレトモ其目的物ヲ竊取シ終ハリタル場合ニ限ルモノニシテ竊取中ノ事柄ト混全視スルコトヲ得サルモノトス今本件ニ付原判文上認メタル事實ヲ鑑査スルニ銅貨小錢ヲ取ランカ爲メ二十錢斗リヲ手ニ握ミタル際事主ニ見答メラレ其事ヲ果サス云々トアリテ止タ其錢ニ手ヲ掛ケ攫ミタル迄ニシテ目的ノ如ク竊取シ終リタルモノト認メタル事實ニアラサルナリ故ニ原裁判所ニ於テ被告ノ所爲ノ未遂犯トナシ斷了シタルハ相當ニシテ擬律ヲ誤リタル裁判ニアラサルヲ以テ上告趣旨ハ其効ナキ者トス又附帶上告ハ事主ニ見答メラレ直ニ面謝シタレハ自首減等ヲ與ヘタルヘキモノト云フニアレトモ法律ニ所謂自首ナルモノハ罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ在テ官ニ自首スルカ若クハ被害者ニ首服シタル場合ニ適用スルモノヲ云フ本案被告カ所爲ノ如キハ己ニ被害者ニ瞞見セラレ止ムヲ得ス謝罪セシ事實ナレハ原裁判所カ減等ヲ與ヘサルコト固ヨリ當然ニシテ決シテ不法ノ裁判ニアラサルヲ以テ其訴旨相立タス

○明治廿一年七月十日判決 神奈川縣平民大住八重吉外一名
 (摘要) 竊盜罪ハ盜取セントスル物件ヲ手ニ執リタル際發覺シタル時ハ未遂犯クリトス
 凡ソ盜罪ハ他人ノ所有物ヲ取り已レニ占有シタル時ニ成立ツモノニテ此間既遂未遂ノ

區別ノアルアレハ只タ其物ヲ手ニ執リタルノミニテハ未タ盜罪ヲ遂ケタル者ト云フヘカラス今原裁判言渡ノ事實ヲ查閱スルニ前帽子入箱ヲ見テ惡意ヲ生シ被告兩名共謀ノ右ノ箱ヲ破毀シ在中ノ帽子ヲ竊取セント欲シテ帽子ヲ引出シ手ニ執リタル際云々取押ヘテレタリトアリ此理由ニ依レハ其竊取セントセシ帽子ヲ箱中ヨリ出シ手ニ執リシ際取押ヘテレタル即チ意外ノ障礙ニ因リ其目的ヲ遂ケサルモノニテ上告論旨ノ如ク既ニ其物ヲ取り終テ己レニ占有シタル事實ニアラサルヲ以テ原裁判所カ竊盜未遂罪トシ刑法第三百七十五條第百十二條ヲ適用シタルハ相當ノ擬律ナルヲ以テ上告趣旨ハ理由ナキモノト判定ス

○明治廿一年十月九日判決 愛媛縣平民安西モト外一名
 (摘要) 兌換券見本ハ反古紙ト同視スルヲ得ス之ヲ竊取シタルモノハ竊盜罪ナリ而シテ其竊取ノ情ヲ知テ寄藏スル者ハ賍物寄藏罪ニシテ又其竊取者之ヲ使用スレハ詐欺取財ナリトス

前 兌換銀行見本ハ上告論旨ノ如ク一般ニ通用ス可キ効力ナク又價值ナキモノナリトスルモ其發行ヲ社會公衆ノ認覽ニ供スル爲メ政府ヨリ特ニ郡衙ニ配賦シタルモノニシテ即チ郡衙ノ保管スヘキ性質ヲ有スル物件ナレハ之カ所有權ヲ侵ス者ハ竊盜罪構造スル者トス既ニ竊盜罪ヲ構造スル者ナレハ其情ヲ知テ之ヲ寄藏スル者ハ盜賍物寄藏罪ヲ構造スヘキハ素ヨリ論ヲ待タス又通用ノ効用ナキ兌換券ナルコトヲ知リ故ラニ之ヲ使用シ

以テ人ヲ瞞着シ金員ヲ收受シタルニ於テハ詐欺取財ノ罪ヲ構造スヘキハ又論ヲ俟タサルナリ(以下略之)

明治廿二年一月十九日判決 兵庫縣平民川内道助外一名

(摘要) 運搬ヲ托サレタル清酒ヲ其途中ニ於テ竊ニ拔取リタルモノハ竊盜罪ナリ凡ソ委托ヲ受ケタル物件ト雖モ寄托者ニ於テ鎖鑰ヲ施シ若クハ密封シテ托シタル物件ノ如キハ若シ受托者ニ於テ其鎖鑰ヲ開キ若シハ損壞スル等非常ノ手段ヲ施シ其物品ヲ取去リタル場合ハ純然タル竊盜ノ事實ナリトス今原判文ヲ閱スルニ被告道助ノ所爲ハ其運搬ヲ托サレタル酒樽ニ穴ヲ芽チ清酒ヲ抜キ取リタル即チ竊盜ノ事實ニシテ石藏ハ道助カ右ノ手段ヲ以テ竊取シタル清酒ナルヲ知テ買取リタル即チ盜贓故買ノ事實明確ナレハ原裁判ハ相當ニシテ毫モ事實理由ノ齟齬又ハ擬律ノ錯誤ト認ム可キ廉ナキヲ以テ上告趣旨ハ相立タサルモノトス

(參照) 明治十六年九月三日 愛媛縣ヨリ司法省ヘ伺

道路堤防河川或ハ田圃山林等ノ土石ヲ堀取リ(刑法第百六十二條第百四十一條第百四十二條)他ニ賣却シ利ヲ圖リタル者アリ之ヲ法律ニ照スルハ刑法第三百六十六條人ノ所有物ヲ竊取シタル者ヲ以テ論スヘキ乎果シテ然ラハ第三百七十二條及第三百七十三條ノ田野又ハ山林ニ於テ產物ヲ竊取シタル者ト權衡其當ヲ得サルカ如何トナレハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ一ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ナリ產物ヲ竊取スルモノハ輕キ

ニ處セラレ土石ヲ竊取スルモノハ重キニ處セラレ其輕重ヲ失スレハナリ若シ又之ヲ第三百七十二條第三百七十三條ニ該ルモノトナスカ其明文ナキヲ如何セン然リト雖モ之ヲ不問ニ付スルハ取締ノ道相立タサル今更言ヲ俟タサル義ニ有之依テ右田圃山林ハ第三百七十二條第三百七十三條ニ包含シタル者ト解釋シ道路堤防河川ハ本縣ニ於テ違警罪ニ相加ヘ可然哉將々總テ違警罪ニ差加フヘキ義ニ可有之哉

指令 明治十六年九月二十二日

何ノ趣盜情ニ出タル者ハ第三百六十六條產物タル可キ土石ハ第三百七十三條ニ依リ處分ス可キモ其所爲些少ニシテ盜情ニ出テサル者ハ違警罪目ニ加ルモ妨ナシ

第二百六十七條 水火震災其他ノ變ニ乘シテ竊盜ヲ犯シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

適例

○明治廿年六月廿八日判決 京都府平民寺村隨願

(摘要) 葬儀ノ雜沓ニ乘シ竊盜ヲ爲スモ直ニ刑法第三百六十七條ニ問擬スルヲ得ス立會檢事岡部綱紀ハ附帶上告ヲ爲シタリ其要旨刑法第三百六十七條其他ノ變ニ乘シテ云々トアルハ專ラ抗拒ス可カラサル事變ノ爲メ自己ノ財産ヲ管理スル能ハサル場合ヲ豫想シタルモノナリ然ルニ本件原裁判ノ事實認定ニ依レハ被告ハ葬儀ノ爲メノ關シ